

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第11集

埼玉県ふじみ野市

# 市内遺跡群 10

2014年3月

ふじみ野市教育委員会

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第11集

埼玉県ふじみ野市

# 市内遺跡群 10

2014年3月

ふじみ野市教育委員会



## はじめに

ふじみ野市は平成17年10月の合併により新たな歴史を歩みはじめました。

市内には、権現山古墳群や福岡河岸記念館、復元大井戸跡や旧大井村役場庁舎など、多くの文化財が存在し、2万数千年前の旧石器時代から現代までの永い歴史をみることが出来ます。それぞれに特色のある地域の歴史も、一つの大きな流れとして捉えようと、改めてこの地域の繋がりがや関係の深さを感じます。そして、現在のふじみ野市も歴史的に大きな画期にあるといえます。

ふじみ野市は、都心から30km圏内という立地条件にあるため、昭和30年代ごろから急激な開発の波が押し寄せ、企業の工場や研究所の進出、住宅の建設ラッシュ、大規模都市基盤整備事業が計画・実施されました。人口の増加も伴って周辺の自然・社会の環境は大きな変化をしてきました。そして今、合併により更なる変貌を遂げようとしています。

今回、市内で発掘調査された成果を一冊の冊子にまとめることが出来ました。発掘調査の成果は、近年の開発ラッシュに伴う店舗や住宅建設によるものが主体です。永い歴史の中で繰り返し住まいの地として利用されるということは、いつの時代でも、ふじみ野の地が住み良い土地であることの証明ともいえます。

本書は、民間の開発事業者からの委託を受けて実施した、「市内遺跡発掘調査」の成果を記録した報告書です。将来にわたってこれらの資料を、地域の文化・歴史を学ぶ糧として広く皆様方に活用していただければ幸いです。

おわりに、土地所有者、開発関係者の皆様には多大なご負担と、ご協力を賜りました。地域の文化財保護・保存についてのご理解をいただいたことに対し深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

また、調査から本書刊行に至るまで、文化庁・埼玉県教育委員会生涯学習文化財保護課・市関係各課・調査関係者の多くの皆様から、ご指導やご協力をいただきました。誌上をもって厚くお礼と感謝を申し上げます。

ふじみ野市教育委員会  
教育長職務代理者 高山 稔



## 例 言

1. 本書は、埼玉県ふじみ野市内に所在する遺跡群の2010(平成22)年度の試掘調査と発掘調査の報告書である。
2. 2010(平成22)年度に行った試掘調査および整理作業は、総経費10,082,430円に対し、国庫(5,000,000円)、県費(2,500,000円)の補助金の交付を受け、2010(平成22)年4月1日から2011(平成23)年3月31日まで実施したものである。

### 3. 調査組織

調査主体者	ふじみ野市教育委員会	文化財保護調査担当者	高崎直成(～2013.3.31)
担 当 課	生涯学習課文化財保護係		鍋島直久
教 育 長	矢島秀一(2010.3.19～2014.3.18)	庶務担当	国分英良
教育長職務代理者	高山 稔(2014.3.19～2014.3.31)		柳澤健司
生涯学習部長	高梨真太郎(2010.4.1～2012.3.31)		岡 健二(2013.4.1～)
	綾部 誠(2012.4.1～2013.3.31)	発掘調査員補	越村 篤
教育部長	高山 稔(2013.4.1～)	嘱託員	藤牧守絵(2003.4.1～2012.3.31)
生涯学習課長	綾部 誠(2009.4.1～2012.3.31)		配島結華(2012.4.1～2013.3.31)
	板井信枝(2012.4.1～)	臨時的任用職員	高橋京子
生涯学習課主幹兼上福岡歴史民俗資料館長			
	坪田幹男(2013.4.1～)		
文化財保護係長	坪田幹男(2007.4.1～2011.3.31)		
	橋本鶴人(2011.4.1～2013.3.31)		
	高崎直成(2013.4.1～)		

4. 本書作成の作業分担は事実報告及び遺構の執筆を高崎、遺物の執筆を笹森健一(ふじみ野市文化財保護審議会委員)が行った。また図版作成の一部と石器実測の一部を㈱東京航業研究所に委託した。報告書作成全般にわたり、鍋島、越村の協力を得た。

本文・挿図割付：高橋けい子 遺物接合・復元：中田藤子 土器実測・拓本：石垣ゆき子 石器実測：大久保明子  
遺構・遺物トレース：小林登喜江 遺構写真：坪田幹男、鍋島直久、高崎直成、越村篤 遺物写真：大久保明子  
図版作成：石垣ゆき子、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、鈴木千恵子、青山奈保美 松平静

5. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。(敬称略)  
会田明、阿部常樹、天ヶ嶋岳、荒井幹夫、上田寛、越前谷理、大久保淳、大柴英雄、岡田賢治、加藤秀之、梶原勝、梶原喜世子、神木繁嘉、國見徹、隈本健介、小出輝雄、酒井智晴、笹森健一、佐藤啓子、佐藤良博、塩野賀一、鈴木清、田中信、丹治剛、角田史雄、中村愛、原口雅樹、早坂廣人、比嘉洋子、平野寛之、藤波啓容、堀善之、松本富雄、柳井章宏、和田晋治、埼玉県教育局生涯学習文化財課、上福岡歴史民俗資料館、大井郷土資料館
6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。  
〈発掘調査参加者〉(敬称略) 明石千とせ、新井和枝、飯塚泰子、壹岐久子、井上晴江、井上麻美子、岩城英子、白井孝、金子君子、川中ひろみ、菊川繁子、小林こずい、西城満期子、坂本民子、佐久間ひろ子、佐竹里佳、篠崎忠三、杉本佳久、鈴木勝弘、関田成美、高貝しづ子、沼澤岩男、野岡由紀子、比嘉洋子、福田美枝子、増沢勝実、山内康代、米田昇三、若林紀美代  
〈整理作業参加者〉(敬称略) 青山奈保美、石垣ゆき子、大久保明子、小林登喜江、鈴木千恵子、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、松平静

## 凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。

(1) 縮尺は原則として以下のとおりとしたが例外的に変更したものもある。

遺構配置図 1:300 または 1:500 遺構平面図・遺物出土状況図 1:60、1:30 型などの詳細図 1:30  
 土器実測図・土器拓影図 1:4 石器実測図 1:4、2:3、1:6 銭貨 1:1

(2) 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないのは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。

(3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示。

攪乱  地山(ローム)  焼土  粘土  コンクリート  煤  赤彩   
 土器 ● 石器 ★ 黒曜石・チャート ▲ 礫 ○

(4) 土器断面図は、■が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わす。

(5) 遺構・遺物実測図中の(▲三角マーク)は図の接続、結合を示す。

2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号である。整理作業時に遺構名称を変更したものについては、新旧の名称を表等に記している。

3. 本文中の各表内におけるカッコ( )付の数値は残存値を示す。

4. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括してふじみ野市教育委員会土福岡歴史民俗資料館に保管してある。



埼玉県ふじみ野市  
市内遺跡群 10 目次

はじめに	i	Ⅱ 西ノ原遺跡第 145 地点	67
例 言	ii	Ⅲ 西ノ原遺跡第 146 地点	70
凡 例	iii	Ⅳ 西ノ原遺跡第 147・148 地点	72
目 次	v	Ⅴ 西ノ原遺跡第 149 地点	87
挿図目次	vi	第 11 章 神明後遺跡の調査	89
表 目 次	viii	Ⅰ 遺跡の立地と環境	89
写真図版目次	ix	Ⅱ 神明後遺跡第 42 地点	89
		Ⅲ 神明後遺跡第 43 地点	89
第 1 章 遺跡と調査の概要	1	第 12 章 浄禅寺跡遺跡の調査	92
Ⅰ 調査に至る経過	1	Ⅰ 遺跡の立地と環境	92
Ⅱ 立地と環境	3	Ⅱ 浄禅寺跡遺跡第 33 地点	92
Ⅲ 市内の遺跡	4	第 13 章 小田久保遺跡の調査	94
第 2 章 北野遺跡の調査	8	Ⅰ 遺跡の立地と環境	94
Ⅰ 遺跡の立地と環境	8	Ⅱ 小田久保遺跡第 9 地点	94
Ⅱ 北野遺跡第 19 地点	9	第 14 章 本村遺跡の調査	96
第 3 章 川崎遺跡の調査	10	Ⅰ 遺跡の立地と環境	96
Ⅰ 遺跡の立地と環境	10	Ⅱ 本村遺跡第 123 地点	98
Ⅱ 川崎遺跡第 32 地点	14	Ⅲ 本村遺跡第 124 地点	98
第 4 章 滝遺跡の調査	24	Ⅳ 本村遺跡第 125 地点	100
Ⅰ 遺跡の立地と環境	24	Ⅴ 本村遺跡第 126 地点	100
Ⅱ 滝遺跡第 17 地点	24	Ⅵ 本村遺跡第 127 地点	100
第 5 章 松山遺跡の調査	37		
Ⅰ 遺跡の立地と環境	37	写真図版	103
Ⅱ 松山遺跡第 51 地点	41	抄 録	119
Ⅲ 松山遺跡第 52 地点	41		
Ⅳ 松山遺跡第 53 地点	45		
Ⅴ 松山遺跡第 55 地点	46		
第 6 章 東久保遺跡の調査	51		
Ⅰ 遺跡の立地と環境	51		
Ⅱ 東久保遺跡第 69 地点	51		
第 7 章 駒林遺跡の調査	52		
Ⅰ 遺跡の立地と環境	52		
Ⅱ 駒林遺跡第 11 地点	52		
Ⅲ 駒林遺跡第 12 地点	54		
Ⅳ 駒林遺跡第 13 地点	54		
Ⅴ 駒林遺跡第 14 地点	56		
Ⅵ 駒林遺跡第 15 地点	57		
第 8 章 東中学校西遺跡の調査	58		
Ⅰ 遺跡の立地と環境	58		
Ⅱ 東中学校西遺跡第 34 地点	58		
第 9 章 東久保南遺跡の調査	61		
Ⅰ 遺跡の立地と環境	61		
Ⅱ 東久保南遺跡第 38 地点	61		
第 10 章 西ノ原遺跡の調査	63		
Ⅰ 遺跡の立地と環境	63		

## 挿 図 目 次

第 1 図	ふじみ野市の位置と周辺の地形	4
第 2 図	ふじみ野市遺跡分布図 (1/30,000)	6
第 3 図	北野遺跡の地形と調査区 (1/4,000)	8
第 4 図	北野遺跡第 19 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、ビット (1/60)	9
第 5 図	川崎遺跡の地形と調査区 (1/4,000)	10
第 6 図	川崎遺跡遺構分布図 (1/2,500)	12
第 7 図	川崎遺跡第 32 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)	14
第 8 図	川崎遺跡第 32 地点 H65 号住居跡・掘方 (1/60)	16
第 9 図	川崎遺跡第 32 地点 H65 号住居跡遺物出土状況図 (1/60)、竈・掘方 (1/30)	17
第 10 図	川崎遺跡第 32 地点 H 66 号住居跡・掘方 (1/60)	18
第 11 図	川崎遺跡第 32 地点 H 66 号住居跡遺物出土状況図 (1/60)、竈・掘方 (1/30)	19
第 12 図	川崎遺跡第 32 地点 H 67 号住居跡・遺物出土状況図 (1/60)	20
第 13 図	川崎遺跡第 32 地点土坑・ビット (1/60)	21
第 14 図	川崎遺跡第 32 地点出土遺物 (1/4)	23
第 15 図	滝遺跡の地形と調査区 (1/4,000)	24
第 16 図	滝遺跡遺構分布図 (1/2,000)	26
第 17 図	滝遺跡第 17 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)	27
第 18 図	滝遺跡第 17 地点 H 23・H 25 号住居跡・掘立柱建物跡 (1/60)	29
第 19 図	滝遺跡第 17 地点 H 23・H25 号住居跡遺物出土状況図 (1/60)、微細図 (1/30)	30
第 20 図	滝遺跡第 17 地点 H24・H26 号住居跡ビット・遺物出土状況図 (1/60)、微細図 (1/30)	31
第 21 図	滝遺跡第 17 地点 H27 号住居跡 (1/60)、集石土坑 (1/30)、井戸・土坑・ビット (1/60)	32
第 22 図	滝遺跡第 17 地点ビット・掘立柱建物跡 (1/60)	33
第 23 図	滝遺跡第 17 地点溝 1 (1/80)	34
第 24 図	滝遺跡第 17 地点出土遺物 (1/2・1/4)	36
第 25 図	松山遺跡の地形と調査区 (1/4,000)	37
第 26 図	松山遺跡遺構分布図 (1/3,000)	40
第 27 図	松山遺跡第 51 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、ビット (1/60)	41
第 28 図	松山遺跡第 52 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、落とし穴 (1/60)	42
第 29 図	松山遺跡第 52 地点溝 (1/60)、出土遺物 (1/4)	43
第 30 図	松山遺跡第 53 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、穴蔵・溝 (1/60)	44
第 31 図	松山遺跡第 53 地点出土遺物 (1/4)	45
第 32 図	松山遺跡第 55 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)	46
第 33 図	松山遺跡第 55 地点 H 40 号住居跡・掘方・遺物出土状況図 (1/60)	47
第 34 図	松山遺跡第 55 地点 H 40 号住居跡竈・掘方・遺物出土状況図 (1/30)	48
第 35 図	松山遺跡第 55 地点掘立柱建物跡・土坑・溝 (1/60)	49
第 36 図	松山遺跡第 55 地点 H40 号住居跡・土坑 1 出土遺物 (2/3・1/4)	50
第 37 図	東久保遺跡の地形と調査区 (1/4,000)	51
第 38 図	東久保遺跡第 69 地点調査区域図 (1/300)	51
第 39 図	駒林遺跡の地形と調査区 (1/5,000)	52
第 40 図	駒林遺跡第 11・12 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、ビット (1/60)	53
第 41 図	駒林遺跡第 13 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、土坑・ビット (1/60)	55
第 42 図	駒林遺跡第 14 地点遺構配置図 (1/500)、土層図 (1/150)、土坑・溝状土坑 (1/60)	56
第 43 図	駒林遺跡第 15 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、土坑 (1/60)	57
第 44 図	東中学校西遺跡の地形と調査区 (1/4,000)	58

第 45 図	東中学校西遺跡第 34 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150) . . . . .	60
第 46 図	東久保南遺跡の地形と調査区 (1/4,000) . . . . .	61
第 47 図	東久保南遺跡第 38 地点調査区域図 (1/300)、土層図 (1/60) . . . . .	62
第 48 図	西ノ原遺跡の地形と調査区 (1/4,000) . . . . .	63
第 49 図	西ノ原遺跡遺構分布図 (1/2,000) . . . . .	65
第 50 図	西ノ原遺跡第 145 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/60) . . . . .	67
第 51 図	西ノ原遺跡第 145 地点溝・ビット (1/60) . . . . .	68
第 52 図	西ノ原遺跡第 145 地点溝 (1/60) . . . . .	69
第 53 図	西ノ原遺跡第 146 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150) . . . . .	70
第 54 図	西ノ原遺跡第 146 地点溝 (1/60)、出土遺物 (1/4) . . . . .	71
第 55 図	西ノ原遺跡第 147・148 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150) . . . . .	73
第 56 図	西ノ原遺跡第 147 地点 172 号住居跡・遺物出土状況図 (1/60) . . . . .	74
第 57 図	西ノ原遺跡第 147 地点 172 号住居跡・炉・掘方・集石土坑 (1/30)、土坑・ビット (1/60) . . . . .	75
第 58 図	西ノ原遺跡第 147・148 地点遺構外遺物出土状況図 (1/80) . . . . .	76
第 59 図	西ノ原遺跡第 147 地点ビット・溝 (1/60) . . . . .	77
第 60 図	西ノ原遺跡第 148 地点ビット・溝 (1/60) . . . . .	78
第 61 図	西ノ原遺跡第 148 地点 75 号住居跡・土坑・ビット・遺物出土状況図 (1/60) . . . . .	79
第 62 図	西ノ原遺跡第 148 地点土坑・ビット (1/60) . . . . .	80
第 63 図	西ノ原遺跡第 147 地点 172 号住居跡・集石土坑・土坑・ビット出土遺物 (1/4) . . . . .	83
第 64 図	西ノ原遺跡第 147 地点遺構外出土遺物 (2/3・1/4) . . . . .	84
第 65 図	西ノ原遺跡第 148 地点 75 号住居跡・土坑 4 出土遺物 (2/3・1/4) . . . . .	85
第 66 図	西ノ原遺跡第 148 地点ビット・遺構外出土遺物 (1/4) . . . . .	86
第 67 図	西ノ原遺跡第 149 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、溝 (1/80) . . . . .	88
第 68 図	神明後遺跡の地形と調査区 (1/4,000) . . . . .	89
第 69 図	神明後遺跡第 42・43 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、溝状土坑・ビット (1/60) . . . . .	91
第 70 図	浄禪寺跡遺跡の地形と調査区 (1/4,000) . . . . .	92
第 71 図	浄禪寺跡遺跡第 33 地点遺構配置図 (1/300)、土坑 (1/60) . . . . .	93
第 72 図	小田久保遺跡の地形と調査区 (1/4,000) . . . . .	94
第 73 図	小田久保遺跡第 9 地点調査区域図 (1/300)、土層図 (1/150) . . . . .	95
第 74 図	本村遺跡の地形と調査区 (1/5,000) . . . . .	96
第 75 図	本村遺跡第 123・124 地点遺構配置図 (1/400)、土層図 (1/150)、土坑 (1/60) . . . . .	99
第 76 図	本村遺跡第 125・126・127 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150・1/60) . . . . .	101

## 表 目 次

第 1 表	過去 3 年間の調査件数と面積一覧表	1
第 2 表	2010(平成 22)年度埋蔵文化財調査一覧表	2
第 3 表	2010(平成 22)年度立会い調査一覧表 1(埋蔵文化財包蔵地内)	3
第 4 表	2010(平成 22)年度立会い調査一覧表 2(埋蔵文化財包蔵地外)	3
第 5 表	ふじみ野市遺跡一覧表	7
第 6 表	縄文時代中期時期細分対比表	7
第 7 表	川崎遺跡調査一覧表	11
第 8 表	川崎遺跡古代住居跡一覧表	13
第 9 表	川崎遺跡第 32 地点 H65 号住居跡ビット一覧表	15
第 10 表	川崎遺跡第 32 地点 H66 号住居跡ビット一覧表	15
第 11 表	川崎遺跡第 32 地点 H67 号住居跡ビット一覧表	15
第 12 表	川崎遺跡第 32 地点遺構一覧表	21
第 13 表	滝遺跡調査一覧表	25
第 14 表	滝遺跡古代住居跡一覧表	25
第 15 表	滝遺跡第 17 地点井戸一覧表	35
第 16 表	滝遺跡第 17 地点集石土坑一覧表	35
第 17 表	滝遺跡第 17 地点土坑一覧表	35
第 18 表	滝遺跡第 17 地点ビット一覧表	35
第 19 表	滝遺跡第 17 地点出土遺物観察表	35
第 20 表	松山遺跡調査一覧表	38
第 21 表	松山遺跡古代住居跡一覧表	39
第 22 表	松山遺跡第 52 地点出土遺物観察表	42
第 23 表	松山遺跡第 53 地点出土遺物観察表	45
第 24 表	松山遺跡第 55 地点土坑一覧表	50
第 25 表	松山遺跡第 55 地点掘立柱建物跡ビット一覧表	50
第 26 表	駒林遺跡第 11 地点ビット一覧表	54
第 27 表	駒林遺跡第 13 地点土坑一覧表	54
第 28 表	駒林遺跡第 13 地点ビット一覧表	54
第 29 表	東中学校西遺跡調査一覧表	59
第 30 表	東久保南遺跡調査一覧表	62
第 31 表	西ノ原遺跡調査一覧表	64
第 32 表	西ノ原遺跡住居跡一覧表	66
第 33 表	西ノ原遺跡第 147 地点 172 号住居跡ビット一覧表	81
第 34 表	西ノ原遺跡第 147 地点集石土坑一覧表	81
第 35 表	西ノ原遺跡第 148 地点 75 号住居跡ビット一覧表	81
第 36 表	西ノ原遺跡第 148 地点土坑一覧表	81
第 37 表	西ノ原遺跡第 147・148 地点ビット一覧表	81
第 38 表	神明後遺跡調査一覧表	90
第 39 表	神明後遺跡第 43 地点遺構一覧表	90
第 40 表	浄禅寺跡遺跡調査一覧表	93
第 41 表	小田久保遺跡調査一覧表	95
第 42 表	本村遺跡調査一覧表	97

## 写真図版目次

写真図版	1	北野遺跡第 19 地点、川崎遺跡第 32 地点 (1)・	103
写真図版	2	川崎遺跡第 32 地点 (2)・	104
写真図版	3	川崎遺跡第 32 地点 (3)・	105
写真図版	4	滝遺跡第 17 地点 (1)・	106
写真図版	5	滝遺跡第 17 地点 (2)・	107
写真図版	6	滝遺跡第 17 地点 (3)・	108
写真図版	7	松山遺跡第 51・52・53 地点 (1)・	109
写真図版	8	松山遺跡第 53 地点 (2)・55 地点 (1)・	110
写真図版	9	松山遺跡第 55 地点 (2)、東久保遺跡第 69 地点、駒林遺跡第 11・12 地点・	111
写真図版	10	駒林遺跡第 13・14・15 地点・	112
写真図版	11	東中学校西遺跡第 34 地点、東久保南遺跡第 38 地点、西ノ原遺跡第 145・146 地点・	113
写真図版	12	西ノ原遺跡第 147 地点 (1)・	114
写真図版	13	西ノ原遺跡第 147 地点 (2)・第 148 地点 (1)・	115
写真図版	14	西ノ原遺跡第 148 地点 (2)・	116
写真図版	15	西ノ原遺跡第 148 地点 (3)・第 149 地点、神明後遺跡第 42・43 地点・	117
写真図版	16	浄禪寺跡遺跡第 33 地点、小田久保遺跡第 9 地点、本村遺跡第 123・124・125・126・127 地点・	118





## 第1章 遺跡と調査の概要

### I 調査に至る経過

埼玉県ふじみ野市は、首都圏30km圏内の県南西部に位置する。2005(平成17)年10月1日に、上福岡市と大井町が合併して誕生した。面積14.67k㎡、人口は2012(平成24)年12月現在108,825人である。旧上福岡市地域では明治・大正時代頃までは畑作と稲作、旧大井町地域では畑作を中心とする農村地帯であった。また、近世以降は川越街道(大井宿)や新河岸川(福岡河岸)、東武東上線(上福岡駅)などの交通網が発達した交通の要所でもあった。

昭和初期の太平洋戦争時には、旧福岡村に通信施設や旧日本陸軍造兵廠東京工廠福岡工場(火工廠)が建設され、戦後の昭和30年代以降には各市町で中・小の宅地開発や大規模な団地が誕生し人口が急増した。また企業の工場や研究所も多数進出してきた。昭和60年代以降、旧大井町地域では大規模な土地区画整理事業が進み、埋蔵文化財の発掘調査も行われた。現在は上福岡駅周辺の再開発と、ふじみ野駅周辺の民間開発が活発に行われている。

ふじみ野市では平成17年から国庫・県費の補助を受けて、「市内遺跡群発掘調査事業」(旧上福岡市、旧大井町では昭和53年度から合併まで)として試掘・確認調査及び個人住宅建設に伴う発掘調査を実施してきた。また民間の開発に伴う本調査も原因者と協議の上、協定書並びに契約書を締結し原因者負担のもと、市教育委員会が主体となって本調査を実施している。

埋蔵文化財の調査は、庁内関係各課と連絡調整を行い、農業委員会事務局からの農地転用許可申請段階、

建設課(民間の指定確認検査機関含む)への建築確認申請段階、都市整備課からの開発行為の事前申請段階等でそれぞれチェックされる。その後、教育委員会では開発主体者または土地所有者から「埋蔵文化財包蔵地の開発事前協議書」(以下「埋蔵文化財事前協議書」)の提出を受けて事前協議を行った。埋蔵文化財包蔵地内及びその縁辺部の申請に対して遺跡地図と照合のうえ、現地踏査を実施し現地の状況を確認の上、遺跡に影響を及ぼすとみなされる開発行為に対して申請者に連絡をして協議を行った。

協議後、文化財保護法第99条第5項にもとづき、民間・公共事業を問わず確認調査については全て公費で対応し、埋蔵文化財包蔵地の詳細な範囲の把握を積極的に実施している。また専その個人の用に供する住宅(個人住宅)の建設に伴う発掘調査についても、教育委員会が発掘調査主体者となって調査を実施した。

2010年度の試掘及び発掘調査は第2表のとおりで、国庫・県費補助事業対象の調査は23件である。また、試掘調査の結果、個人住宅建設に伴う本調査5件、民間開発に伴う本調査4件を行った。開発面積は36,671㎡で、そのうち実質調査面積は試掘4,159(本調査面積1,840)㎡である。過去3年間の調査件数と調査面積を第1表にあげてみる。

今後、中小規模の再開発を含む民間開発の増加が見込まれる中で、埋蔵文化財の保存及び活用と、調査体制の強化が求められるところである。

第1表 過去3年間の調査件数と面積一覧表

年度	件数・内訳			調査原因の内訳
	試掘件数 開発面積㎡	個人住宅 本調査件数 開発面積㎡	原因者負担 本調査件数 開発面積㎡	
2008(平成20)年度	38件	8件	4件	個人住宅24、共同住宅1、分譲住宅5、分譲及び店舗1、モデルルーム1、道路築造2、寄宿舎2、プール1、公園整備1
	18,016	3,208	2,592	
2009(平成21)年度	35件	7件	8件	個人住宅17、(内1件は前年度継続)、共同住宅4、分譲住宅5、宅地造成5、老人福祉施設1、地下調査1、個人住宅兼共同住宅1、個人住宅兼店舗1
	13,121	3,715	3,365	
2010(平成22)年度	33件	5件	4件	個人住宅14、共同住宅3、分譲住宅7、宅地造成5、小学校増築1、公園工事1、事務所建築2
	36,671	1,075	2,245	

第2表 2010(平成22)年度埋蔵文化財調査一覧表

遺跡・地点名	申請地住所	開発面積 (㎡)	試掘面積 (㎡)	個人住宅本調査面積 (㎡)		原因	試掘期間	調査措置
				民間開発本調査面積 (㎡)				
1 北野 19	北野 2-1821-1・2、1820-4	476.4	74.0		163.0	共同住宅	12/1-2	試掘調査
2 川崎 32	川崎字宮脇 140 の一部	396.0	166.5			個人住宅	2/24～3/2 3/4～25	試掘調査、本調査
3 滝 17	(滝 3 丁目 3-6,3-144)	331.0	197.0			分譲住宅	5/6～31、6/17,18	試掘調査
4 松山 51	松山 2 丁目 6-22,23、28 の一部	360.0	60.0			分譲住宅	5/10～13	試掘調査
5 松山 52	築地 2 丁目 2-1	694.0	322.0			分譲住宅	8/26～9/3	試掘調査
6 松山 53	築地 3 丁目 1-11	205.0	90.0			個人住宅	9/10～21	試掘調査
7 松山 54	築地 3 丁目 1-6、76～83	539.5	230.0			宅地造成	9/21～10/1 10/4～11/5	試掘調査、本調査、市 内遺跡群 9 掲載
8 松山 55	松山 2 丁目 4-24 の一部	226.4	62.0		226.0	個人住宅	1/17 1/18～1/31	試掘調査、本調査
9 東久保 68	ふじみ野 2 丁目 18-13	791.0	306.0			分譲住宅	11/22～26 11/29～12/8	試掘調査、本調査、市 内遺跡群 9 掲載
10 東久保 69	ふじみ野 2 丁目 22-2 の一部、3、5 の一部、6、7	17,276.3	32.0		300.0	小学校校 舎	3/28	試掘調査
11 駒林 11	駒林区南整理事業 27 街区 2・10 画地、 11 画地の一部	689.5	73.0			個人住宅	4/12～21	試掘調査
12 駒林 12	駒林字新田前 258-2(28 街区 12 画地)	115.0	30.0			個人住宅	7/14	試掘調査
13 駒林 13	新駒林 3 丁目 722-1,3,4	927.0	96.0			共同住宅	7/27～29	試掘調査
14 駒林 14	駒林字新田前 285～287、288-2,3(22 街区内)	2,000.0	348.0			公園工事	9/1～8	試掘調査
15 駒林 15	大字駒林字新田前 266-3(24 街区 12 号 号)	115.0	10.0			個人住宅	2/16～17	試掘調査
16 東中学校西 34	ふじみ野 3 丁目 10-6	1,032.0	135.0			宅地造成	2/2～2/3	試掘調査
17 東久保南 38	ふじみ野 4 丁目 9-11,12	177.0	9.0			個人住宅	10/13	試掘調査
18 西ノ原 145	うれし野 2 丁目 4-1,4-10	4,938.0	564.0			農協事務所・農 産物直売所	7/23～8/25	試掘調査
19 西ノ原 146	旭 1 丁目 16-3	246.0	86.0			分譲住宅	10/8～10/13	試掘調査
20 西ノ原 147	旭 1 丁目 16-8 の一部	135.0			135.0	個人住宅	12/8～12/16 12/17～1/19	試掘調査、本調査
21 西ノ原 148	旭 1 丁目 16-8 の一部	211.0			211.0	個人住宅	12/8～12/16 1/19～2/1	試掘調査、本調査
22 西ノ原 149	うれし野 2 丁目 4-7	625.0	114.0			農協事務所・農 産物直売所	2/7～2/10	試掘調査
23 神明後 41	前開字神明後 298-1,299-1 の各一部	486.4	400.0		286.0	共同住宅	5/25～6/7 6/15～7/21	試掘調査、本調査、市 内遺跡群 9 掲載
24 神明後 42	前開字神明前 380-3	312.0	44.0			宅地造成	6/1～6/2	試掘調査
25 神明後 43	前開 292-14	107.0	42.0		10.0	個人住宅	10/20～10/22 10/22	試掘調査、本調査
26 前開東久保 26	前開字東久保 637-3,34	429.0			429.0	分譲住宅	6/1～6/11 7/2～7/23	試掘調査、本調査、市 内遺跡群 12 掲載
27 浄禅寺跡 33	前開字神明後 340-21	76.0	1.2			個人住宅	8/6	試掘調査
28 小田久保 9	大井字小田久保 1185-1	536.0	91.5			個人住宅	3/8	試掘調査
29 本村 123	市沢 2 丁目 7-2	619.6	218.0			宅地造成 (4 区画)	7/5～7/9	試掘調査
30 本村 124	市沢 2 丁目 6-1	428.0	80.0			宅地造成 (3 区画)	7/8～7/12	試掘調査
31 本村 125	大井 2 丁目 12-17	143.0	40.0			個人住宅	9/6	試掘調査
32 本村 126	大井 2 丁目 12-2	611.0	126.0			個人住宅	10/4～10/6	試掘調査
33 本村 127	大井 2 丁目 12-5、16、18	417.0	112.0			分譲住宅	11/4～11/8	試掘調査
	合計	36,671.1	4,159.2		745.0 1,095.0			

第3表 2010(平成22)年度立会い調査一覧表1(埋蔵文化財包蔵地内)

遺跡・地名	申請地住所	面積 (㎡)	目 的	試掘期間	備 考
1 丸尾	丸尾2丁目8番7	69.7	個人住宅	5/6 立会	居住区(団地外)から遺跡が出土(榎木橋)遺構遺物確認なし、土器確認立会
2 丸尾	丸尾2丁目27	139.7	個人住宅分譲	12/15 立会	遺跡内南側への斜面部に位置し、遺構遺物確認可能性あり、土器立会
3 笠野	笠野2丁目6-6	109.1	個人住宅	6/23 立会	地表面より約10cmで土師器・土師瓦、遺構遺物確認なし、粘土器・土器立会
4 柳川	柳川3丁目722-1,3,4	335	個人住宅	6/9 立会	6/9 立会確認、地中4mまで約30cm、広く縄文遺構遺物なし、土器立会
5 柳ヶ瀬	南台2丁目798-14	194.5	分譲住宅	6/30 立会	居住区(団地外)に位置し、地中10-170 ~ 80cmで土師器の遺構・遺物あり、土器立会
6 柳ヶ瀬	南台1丁目62番8	115.0	個人住宅	11/10 立会	遺構あり、土器立会
8 笠野	笠野1丁目4-11	138.0	個人住宅	10/15 立会	地表面より約40cmで土師器、土師瓦あり、土器立会
9 西ノ原	西ノ原1丁目3-2・3、4-1・2	1,337.0	自動車販売整備	7/22 立会	埋蔵品約40 ~ 60cmと推定、土器立会
10 東ノ原	ふじみ野2丁目10番2の一、10番3	158.7	個人住宅	10/4 立会	周辺の埋蔵品状況から遺跡の可能性少ないと推定、土器立会
11 東村	大井4丁目4	231.0	遊学児童館	12/1 立会	埋蔵品なし、土器立会
12 東村	大井2丁目12-11	236.0	自衛隊(戸)	7/14、28 立会	無期工事、7/14 市職員の手掘りにより調査立会、遺構確認できず40 ~ 80cm、中土器確認品50cm
13 柳山	本郷町400-2	709.0	分譲住宅	7/20 立会	分譲住宅で周辺部への遺跡範囲あり、両側調査により遺構確認可能性あり、土器立会
14 柳山	柳1丁目2番26	107.9	個人住宅	11/22 立会	居住区(団地外)に位置し、地中2m以上深く掘削し埋蔵品調査の結果あり遺構遺物確認なし、土器立会
合計		3,745.2			

第4表 2010(平成22)年度立会い調査一覧表2(埋蔵文化財包蔵地外)

遺跡・地名	申請地住所	面積 (㎡)	目 的	試掘期間	備 考
1 1,000㎡以上	大井武蔵野1362番8,10	1,202.0	宅や、施設増築	9/29 立会	埋蔵品50cmまでの予(約1177)を40cm程度掘削
2 1,000㎡以上	大井武蔵野1782-7・9	2,403.4	商店や、倉庫自立増築	11/9 立会	埋蔵品50cmまでの予(約555 ~ 60cm)
3 1,000㎡以上	柳ヶ瀬3丁目3番9	1,374.0	店舗	9/9 立会	約15mで約50cmの土師器確認
4 1,000㎡以上	丸尾南台1番1839-4,9	1,171.4	店舗等	11/9 立会	深さ350cm(約200cm)の土師器確認
5 1,000㎡以上	西ノ原1丁目196-12、167-1、175-11、194-8,10、1942-1,4,45,47	24,120.0	倉庫増築等	7/30 立会	約190cmまで掘り進められた、土師器確認品に土師器の埋蔵品確認し、土師器の埋蔵品確認
6 1,000㎡以上	笠野2丁目399-19(一)	1,021.3	商業再開発工事	7/6 立会	約55cm掘削3m 土師器確認品確認されず
7 1,000㎡以上	柳川下地(柳川整理事業) 柳川9丁目1(一)	1,186.0	共同住宅	4/23 立会	立会(確認)
8 1,000㎡以上	柳ヶ瀬3丁目1791-22	4,034.5	駅前施設(住宅増築)	6/1 立会	立会(確認)
9 1,000㎡以上	柳ヶ瀬3丁目1791-28	3,416.0	駅前施設(住宅増築)	6/1 立会	立会(確認)
10 1,000㎡以上	柳川市営倉庫29番2	1,983.8	保管倉庫	9/9 立会	約15mで約25cmは約4 ~ 50cm、明るく立派な、特に埋蔵品なし。
合計		41,006.1			

II 立地と環境

ふじみ野市は埼玉県の南西部に位置し、市内には国道254号バイパス、東武東上線、川越街道(国道254号線)、関越自動車道といった、交通の幹線が北西から南東方向に平行して存在する。市内の開発はこうした幹線沿いや、東武東上線北福岡駅周辺、ふじみ野駅周辺を中心に進んでいるが、郊外には畑地や田圃風景も多くみられる。

ふじみ野市を地形的にみると、武蔵野台地と荒川低地に大きく分かれ、旧大井町域は武蔵野台地縁辺部に位置し、旧上福岡市域は台地縁辺部から荒川低地の沖積地に広がる。

武蔵野台地は古多摩川が形成した扇状地で、扇頂部で標高180m、扇端部は標高15~20mで比高差10m前後の急斜面となって荒川低地に接している。台地には柳瀬川、黒目川、石神井川等の中河川が荒川低地へ向かって流れ、深い谷と沖積地を形成し、河川に沿って多くの遺跡が分布している。他にも多数の小河川が流れ、台地縁辺を鋸歯状に開析することが多いが、中には急崖もなく、緩斜面のまま低地に接していくことがある。この緩斜面はもともと低位の段丘面で、低位台地と呼ばれる。旧大井町地域を南北方向の断面図で

見ると、北と南に高台が続き、その中間に低位台地(大井台)がある。この大井台の中を3本の河川が東流し、河川の流域に遺跡が集中している。中でも砂川堀は狭山丘陵に流れを発する中河川で、本来大井台はこの砂川の段丘面と捉えることができる。また、福岡江川や富士見市との境を流れるさかい川、浄淨寺川などの小河川は市内に湧水をもつ。湧水は浅い窪地から発しており、こうした窪地の形成は従来から伏流水が再湧出したことによるものと、宙水からの流出によるものとの二通りが考えられている。

荒川低地は、荒川により形成された沖積地で、ふじみ野市の北東部から東部にかけて広がる。荒川の支流であった新河岸川は川越市周辺に水源を發しその流れはふじみ野市、富士見市、志木市、朝霞市を経て東京都にまたがる。武蔵野台地縁辺部を縫うように流れ、不老川、九十川、福岡江川、砂川堀、柳瀬川、黒目川、越戸川、白子川などの支川と合流し、現在は東京都北区で隅田川に合流する。低地部は平坦に見えるが、荒川や新河岸川の河川改修等で取り残された沼や、氾濫でできた旧河道(埋没河川)、自然堤防、後背湿地などの地形が存在する。

### III 市内の遺跡

ふじみ野市の遺跡分布をみると、台地上の中小河川沿いと荒川低地部を望む縁辺部、低地部分に分かれる。市内の主な遺跡を時代順に河川ごとに概観する。

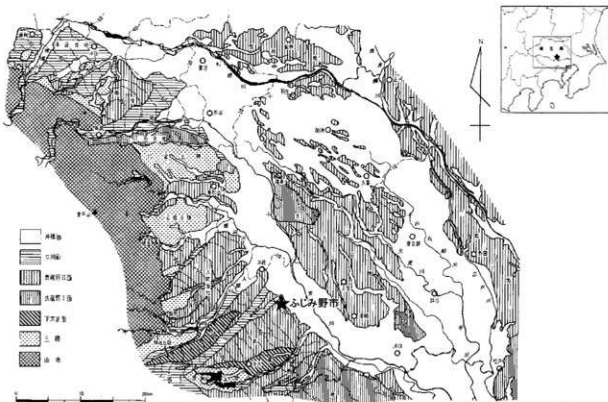
【旧石器時代・縄文時代】市の北側を流れる川越江川では、右岸高台に鶴ヶ岡外遺跡、鶴ヶ岡遺跡、八幡神社遺跡（川越市）が位置し、縄文時代中期の集落である西遺跡へ続く。鶴ヶ岡外遺跡では旧石器時代の石器群と礫群が出土し、八幡神社遺跡では縄文時代中期の住居跡などが検出されている。

藤岡江川・川越江川が新河岸川に合流する部分、荒川低地に張り出した舌状台地上に、川崎貝塚として著名な川崎遺跡が立地する。本遺跡ではローム層中からではないが旧石器時代の石器が出土し、縄文時代早期から後期の住居跡などを検出する。新河岸川は川崎遺跡を回り込み、低地部で台地東縁を沿うように流れる。台地東端は急峻を成し、崖線には縄文時代中期のハケ遺跡、学史上著名な前期集落の上福岡貝塚が形成され権現山遺跡へと続く。台地の南端、市立福岡中学校周辺はかつて「熊野山」と呼ばれ、湧出した水が丘上から流れ落ち流となっていたため「滝地区」の名称が付いたとされる。清水は長宮水川神社の裏手（北側）を北に流れていたが現在は道路となっており、新

河岸川との合流部でその面影を残すのみである。滝遺跡、長宮遺跡はこの小河川に對峙して立地し、滝遺跡では前期の遺構と遺物を、長宮遺跡では前期関山期の集落跡が確認されている。

川越江川の1km南には福岡江川が流れ、新河岸川へ注ぐ。福岡江川の湧水地周辺域に縄文時代中期前半の集落である亀居遺跡が存在し、対岸にも中期前半の江川南遺跡がある。この2遺跡と鶴ヶ岡遺跡では、旧石器時代立川ローム第IV層の礫群と石器群を検出している。さらに市立亀久保小学校周辺では福岡江川に注ぐ埋没谷がみられ、東久保遺跡、亀久保堀跡遺跡、東久保西遺跡、東中学校西遺跡で旧石器時代から縄文時代中期の遺構と遺物が確認されている。川越江川最下流の新河岸川との合流部域には、前期集落の鷺森遺跡が存在する。

福岡江川の900m南には、富士見市との境にさかい川が流れ、3km下流で砂川堀と合流する。流域には縄文時代中期の拠点集落である西ノ原遺跡の他、10遺跡が存在する。旧石器時代の遺跡は西ノ原遺跡、中沢前遺跡、中沢遺跡・外記塚遺跡（富士見市）で立川ロームⅢ層～Ⅹ層の遺物が確認されている。縄文時代中期～後期の集落は時代を追うごとに、上流から下流域へ集落の拠点を移していく傾向がみられる。



第1図 ふじみ野市の位置と周辺の地形

(原図 縮小 1980 に一紙加筆)

さかい川の800m南に、都市下水道と化した砂川堀が流れる。砂川流域は大きく3ヶ所の地域で遺跡分布がみられる。砂川最上流域の狭山丘陵裾部、伏流水となりはじめる中流域、一旦地中に姿を消したあと再び湧水してくる下流域である。下流域のふじみ野市地域では、砂川右岸が段丘となり5~6mの急崖を形成する。この高台上には縄文時代中期の拠点集落である東台遺跡があり、旧石器時代の遺跡も西台遺跡から東台遺跡まで連続と続く。一方砂川左岸の低位台地では、市内で最古の時期であるA T降灰前(立川ローム第Ⅷ層)の石器を本村遺跡の微高地上から検出する。縄文時代中期には上流の小田久保遺跡で小規模な集落がみられ、本村遺跡では貯穴、落とし穴が散在する。

【弥生・古墳時代】荒川低地を流れる新河岸川の自然堤防上に、弥生時代後期の環濠集落である伊佐高遺跡が立地する。新河岸川右岸、舌状台地線路上の東端に立地する権現山遺跡は、縄文時代から中世までの複合遺跡で、縄文時代の住居跡も存在するが、主体は遺跡北東部と北西端に築造された古墳群と、古墳時代前期から奈良・平安時代にかけての集落跡である。北東部に築造された古墳時代前期の古墳群(埼玉県指定史跡権現山古墳群)は、方墳11基の他に古墳時代初期の前方後方墳(2号墳)1基である。また権現山古墳群北西端の台地縁辺部には、古墳時代中期の古墳群(通称権現山北古墳群)3基がある。他に古墳時代の集落は川崎遺跡と上福岡貝塚、滝遺跡で確認されている。

【飛鳥・奈良・平安時代】7世紀には、前述の舌状台地の西側、川崎遺跡の南西隣に川崎横穴墓群、さらに南約1.5kmの台地南側の崖線に、富士見台横穴墓群が存在する。集落は川崎遺跡、滝遺跡、松山遺跡、長宮遺跡など一段低い段丘面に展開し、川崎遺跡は10世紀前半まで、滝遺跡、松山遺跡は9世紀後半ごろまで続く。

8世紀代には前述の他、ハケ遺跡、上福岡貝塚、権現山遺跡、神明後遺跡、東久保南遺跡などで住居跡を検出する。8世紀中葉から9世紀前半まで、砂川堀右岸の台地縁辺部に東台遺跡の大規模な製鉄遺跡が現われ、周辺の遺跡でも木炭窯などが確認されている。さらに9世紀以降10世紀までは伊佐島遺跡、東台遺跡、西ノ原遺跡などで住居跡を検出している。またハケ遺跡からは鈎帯金具が、川崎遺跡からは瓦塔片と布目瓦などが出土しており注目される。

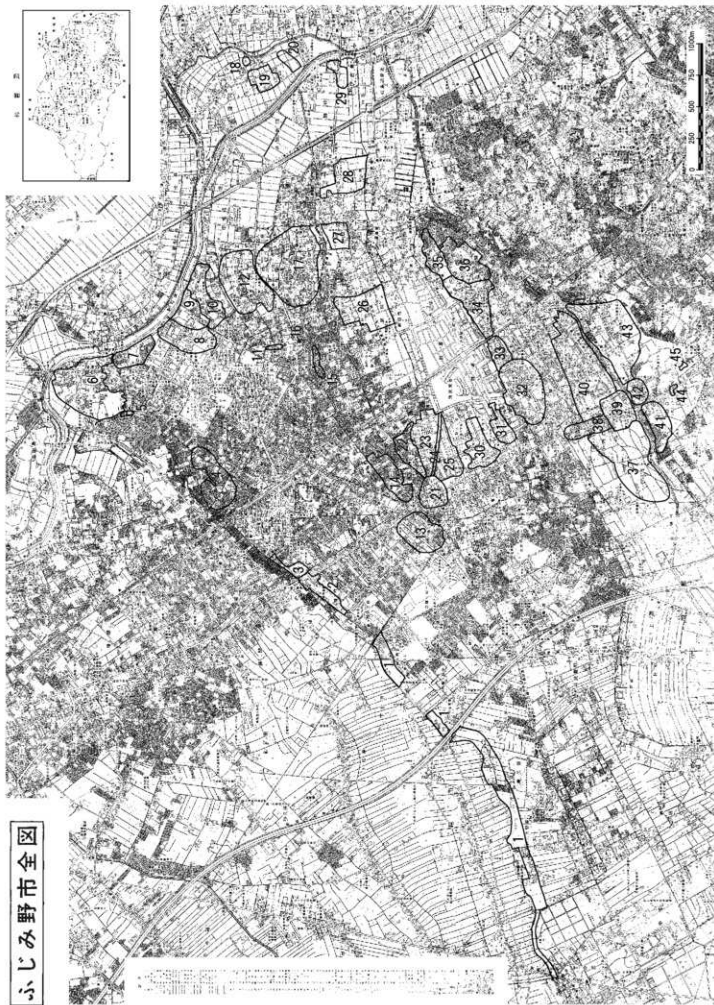
【中世】駒林遺跡では14世紀代に造立された板碑の

下に、蔵骨器が埋納された葺石墳墓を検出した。また本遺跡を囲む堀跡状の溝覆土層中から、茶毘跡などが確認されている。長宮遺跡、松山遺跡、本村遺跡などでは13~16世紀代の遺物を伴う遺構を検出する。特に本村遺跡では遺構を多数検出し、15世紀以降中世集落が発展したと思われる。16世紀後半から17世紀前半では川崎遺跡、長宮遺跡、松山遺跡、神明後遺跡、浄禅寺跡遺跡などで屋敷地とみられる遺構を検出し、「新田」といった地名と共に開発の歴史を偲ばせる。特に城山遺跡は荒川低地の自然堤防上に立地し、周囲を方形に堀跡で囲む中世から近世の居館跡と思われる。

また、松山遺跡、駒林遺跡、亀久保堀跡遺跡、神明後遺跡では時期不詳の長大な堀跡が検出されている。

【近世】近世以降の遺跡は、多数の遺跡で遺物などが確認されている。主な近世遺跡の分布は中世村落から続く集落跡や、街道沿いの宿場や新河岸川の河岸跡、寺院跡などにみられる。中でも、川越街道沿い大井宿の範囲にある大井氏館跡遺跡、大井戸上遺跡や大井宿遺跡、亀久保村地蔵院の江川南遺跡、田苗間村の寺院跡である浄禅寺跡遺跡、長宮氷川神社周辺の長宮遺跡、新河岸舟運で栄えた福岡河岸の福田屋などでまとまった遺構と遺物が確認されている。また鷺森遺跡で、近・現代の盛土の中から陶磁器が多数出土しているが、埋め立ての為に他から持ち込まれた可能性がある。

近世以降では、昭和初期の旧日本陸軍の軍需工場である東京第一陸軍造兵廠川越製作所(通称造兵廠「火工廠」)の跡地で、防弾土塁・防空壕・水溜・消火栓・排水枡などの遺構や遺物が、近年の調査で確認されている。



第2図 ふじみ野市遺跡分布図 (1/30,000)





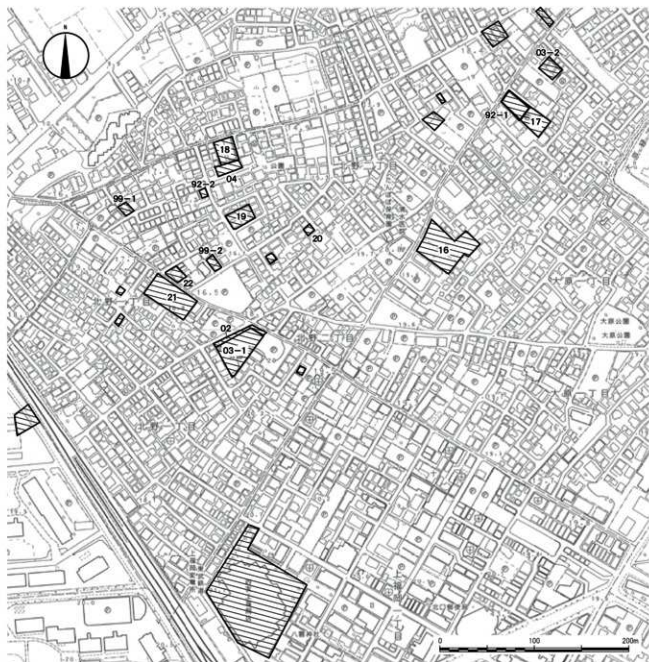
## 第2章 北野遺跡の調査

### 1 遺跡の立地と環境

北野遺跡は、藤間江川に面した標高17～18mの台地縁辺にあり、開析した小支谷を囲うように立地する南北250m、東西650m以上の遺跡である。上福岡駅まで600mに位置する利便性のため、昭和30年代から宅地開発され、ほとんど空き地は残っていない。

周辺の遺跡は、1km上流に縄文集落の西遺跡、下流に旧石器時代から縄文、古代、中近世にわたる複合遺跡の川崎遺跡、川崎横穴墓群がある。

1965年の分布調査、1970年代後半の宅地開発で縄文時代早～中期の土器片が採集され、1980年以來24ヶ所で試掘調査が行われている。縄文時代中期と平安時代の住居跡各1軒、中世以前とみられる溝を検出、縄文時代中期深鉢土器の顔面把手等も採集されている。



第3図 北野遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

## II 北野遺跡第19地点

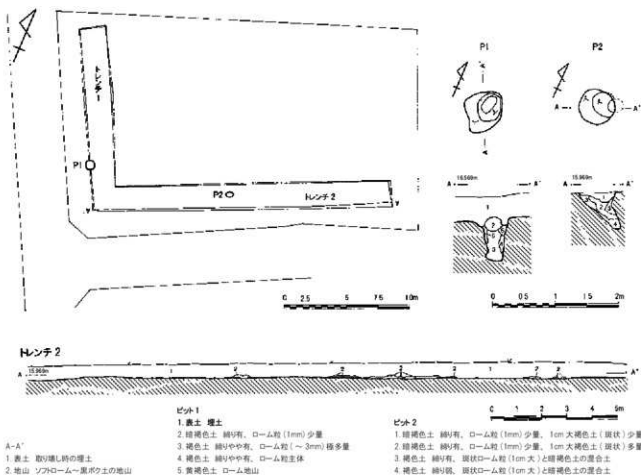
## (1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年11月17日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2010年12月1日～2日に行った。幅約2mのトレンチをL字形に1本設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行い、ピット2基を検出した。遺構確認面までの深さは約60cmである。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋め戻し、調査を終了した。

## (2) 遺構と遺物

【ピット】ピットは2基検出した。いずれも覆土の様子から縄文時代と思われるが、出土遺物はない。P1は平面楕円形、確認面径75×60cm、底径30×15cm、確認面からの深さ71cmである。P2は斜向ピットで深さ60cmまで掘ったが、完掘はしていない。確認面径60×60cmである。



第4図 北野遺跡第19地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)、ピット(1/60)

## 第3章 川崎遺跡の調査

### 1 遺跡の立地と環境

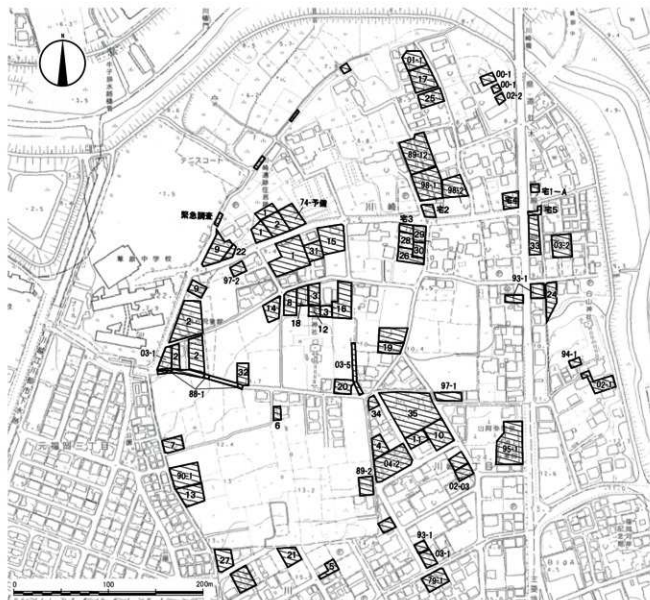
川崎遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の、いわゆる川崎台に立地している。台地の北側を東流してきた藤間江川は舌状台地の西側で新河岸川に合流し、かつては台地の先端より北東方向へ大きく蛇行していた新河岸川は、現在は台地東縁をなめるように流れる。

台地の幅は400～500m、台地の基部から先端へ1kmにわたり緩やかに傾斜しており、標高は最南部で18m、最北部では8mを測る。遺跡の範囲は南北600m、東西500m以上ある。虫食い状に宅地開発されるが、畑も良く残っている。

周辺の遺跡は、舌状台地の西側基部の急斜面上部に

川崎横穴墓群が隣接し、東側に縄文時代、古墳、奈良・平安時代のハケ遺跡がある。

1917(大正6)年頃、台地の先端部で貝層が確認され1928(昭和3)年の調査では川崎貝塚として報告された。1967年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、1980年以来2013年12月末現在40ヶ所で調査を行っている。主たる時代と遺構は、縄文時代早期の竈穴、早期から前期及び後期の住居跡、古墳時代住居跡、飛鳥時代住居跡、奈良時代住居跡、平安時代住居跡・掘立柱建物跡、中世以降の溝跡、地下式坑である。またローム層中からではないが、旧石器時代の遺物も出土している。



第5図 川崎遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第7表 川崎遺跡調査一覧表

地点	所在	調査期間	面積 (㎡)	調査内容	確認された遺構・遺物	所在報告書
牛橋南遺跡	川崎 160	1974.3.25～4.4	54	探検調査	伊沢3、土坑2、7ヶ所、縄文土器、石鏡	上遺跡
1次	川崎 162～176	1974.7.20～9.19	1,800	探検調査	住居跡 11軒、竪穴貯蔵3、古銅器1、漆器7、土器2、銅2、硝子瓦、地下土坑6、墓石1	川崎遺跡第1次調査報告
豊島倉庫遺跡	大田山崎学園地 160-3	1975.3.20～5.10	180	掘削調査	溝3、縄文土器、石鏡、平安土器類、遺骨類、石板類、赤瓦瓦、瓦葺	上遺跡
豊島倉庫3次(北地区)	大田山崎学園地 122	1975.8.8～29	50	掘削調査	縄文早期住居跡1軒、縄文土器、石鏡、埴	上遺跡
2次	川崎 137～174	1975.9.4～12.5	305.5	探検調査	縄文住居跡9軒、古銅器住居跡6軒、奈良平安住居跡10軒、中世遺構物	川崎遺跡第2次調査報告
3次	川崎 149-6	1977.11.1～12.3	300	住宅確認	縄文前期2軒(7ヶ所)、奈良平安住居跡6軒(11.2.4～6.8)、竪土器類、瓦片	川崎遺跡(第3次)-豊島遺跡
常盤池2次(南地区)	川崎 198	1978.5.15～25	170	常盤池遺構	土坑3、7ヶ所	掘1(1)
常盤池3次(北地区)	川崎 230	1978.9.23～31	130	常盤池遺構	竪穴貯蔵2、地下土坑1、溝1	掘1(2)
4次	川崎 2-5-2	1979.4.19～5.11	304	常盤池遺構	縄文前期住居跡1軒、溝1、竪土器類、石鏡	掘1(3)(4)
5次	川崎 1-1-4	1979.7.20～10.10	152	常盤池遺構	溝状遺構	掘1(5)
7年年度試験(遺構)	川崎 4-2-11	1979.11.12～19	260	常盤池遺構	溝1	掘1(6)
6次	川崎 102-6	1979.12.2～8	20	7ヶ所(常盤池)	縄文前期住居跡2軒、縄文土器片、平安土器片2軒	掘1(7)
7次	川崎 124-3	1981.11.27～30	216	掘削調査	古銅器1、平安土器片	掘1(8)
8次	大田山崎学園地 149-1	1984.11.7～26	400	住宅確認	溝1	掘1(9)
常盤池4次	川崎常盤池 219	1984.9.25～10.9	301	住宅確認	縄文住居跡1軒、平安住居跡1軒	掘1(10)
9次	川崎平安住居地 172-1.2	1986.9.11～20	490	掘削調査	溝2、縄文土器、埴器、平安土器類等	掘1(11)
10次	川崎 224-1	1987.11.24～30	603	掘削調査	溝1	掘1(12)
11次	川崎 2-6-2	1988.5.10～17	289	住宅確認	古土	掘1(13)
12次	川崎 402号棟	1989.9.19～21	60	平安土器確認	住居跡1軒	掘1(14)
13次(1)	川崎平安住居地 190-1	1989.4.10～18	104.5	住宅確認	古土	掘1(15)
13次(2)	川崎平安住居地 2	1989.10.13～40	284	住宅確認	古土	掘1(16)
13次(3)	川崎平安住居地 149-4.5	1990.4.20～27	311	住宅確認	溝2	掘1(17)
13次(4)	大田山崎学園地 122	1990.5.1～17	480	住宅確認	奈良住居跡1軒	掘1(18)
13次(5)	大田山崎学園地 123	1990.5.18～23	530	探検調査	古土	掘1(19)
14次	大田山崎学園地 143	1990.10.1～31	499	住宅確認	縄文前期住居跡1軒、奈良平安住居跡1軒	掘1(20)
15次	川崎平安住居地 160-1	1991.10.23～11.20	499	掘削調査	平安住居跡1軒、土坑1	掘1(21)
16次(1)	大田山崎学園地 9-6	1993.2.10～19	165	古銅器住居跡	古土	掘1(22)
16次(2)	川崎 2-10-11	1993.8.26～	131	掘削調査	古土	掘1(23)
16次(3)	川崎 1-1-1の一部分	1993.9.10～13	422	掘削調査	古土	掘1(24)
16次(4)	川崎平安 250 倉庫1棟	1994.11.17～24	230	埋蔵品確認調査		掘1(27)
16次(5)	川崎 2-1-2	1995.10.13～16	1124	探検調査	古土	掘1(28)
17次	川崎平安住居地 150-2.3	1995.12.11～1996.3.8	828	埋蔵品発見及び埋蔵品確認調査	縄文前期(奈良系)大形住居跡1、同期住居跡2、土坑2、平安住居跡4軒、中世住居跡6軒、中世竪穴貯蔵遺構2	7年報告
17次(1)	川崎平安住居地 204の一部分	1996.11.25～23	779	掘削調査	平安住居跡1	掘1(29)
17次(2)	川崎平安住居地 149-3	1997.4.14～25	189	掘削調査	平安住居跡1	掘1(30)
17次(3)	川崎平安住居地 21	1997.4.14～25	367	常盤池遺構	溝1(堀削不明)	掘1(31)
17次(4)	川崎平安住居地 160-6	1997.10.20	204	掘削調査	古土	掘1(32)
17次(5)	川崎平安住居地 199-1.2.5	1999.2.12～16	780	掘削調査	掘削調査	9年報告
17次(6)	川崎平安住居地 197-1	1999.10.27～11.6	990	常盤池遺構	縄文前期土坑1遺	掘1(33)
18次	川崎平安住居地 160-1	2000.2.21～25	496	遺構調査	縄文前期住居跡1	11年報告
19次(1)	川崎大田山崎学園地 209の一部分	2000.6.19～22	123.3	掘削調査	奈良の一部	掘1(34)
19次(2)	川崎平安住居地 230	2001.8.12～26	103	掘削調査	溝1	掘1(35)
20次	川崎平安住居地 157の一部分	2001.9.15～104	259	掘削調査	平安前期住居跡1	掘1(36)
20次(1)	川崎平安住居地 204-1	2001.10.29.30	820	常盤池遺構	古土	掘1(37)
20次(2)	川崎 249-1の一部分	2002.5.13	341	遺構	古土	掘1(38)
20次(3)	川崎 210-1.2の一部分	2002.10.28.29	551	古銅器住居跡	溝1【墓土保存】	掘1(39)
20次(4)	川崎 2-4-16	2002.12.24	228	掘削調査	古土	14年報告
20次(5)	川崎 2-5-12	2003.3.12	165	掘削調査	平安 401号棟	14年報告
20次(6)	川崎平安住居地 155 倉庫	2003.3.26	164	探検調査	古土	14年報告
20次(7)	川崎 137-1の一部分	2003.8.8.7	257	掘削調査	古土	掘1(40)
20次(8)	川崎平安住居地 226-14	2003.12.8.19	381	掘削調査	古土	掘1(41)
常盤池地区3次	川崎平安住居地 222-2倉庫	2004.2.16～18	80	古銅器埋蔵穴住居跡1軒【調査実施】		15年報告
24次(1)	川崎平安住居地 157-1の一部分	2004.6.14.15	421	掘削調査	平安時代竪穴住居跡の4ヶ所(1遺)	掘1(42)
24次(2)	川崎 2-5-1	2004.11.1～4	881	常盤池遺構	古土	掘1(43)
25次	川崎平安住居地 153-5	2005.11.22～27	257	掘削調査	古銅器住居跡1	16年1
21	川崎 1-6-10	2006.4.11	298	掘削調査	奈良住居跡1、溝	16年2
22	川崎 171-1.174-10	2007.4.16～23	104	埋蔵品確認調査	伊沢4、地下土坑2、穴蔵1、土坑2	16年4
24	川崎平安住居地 225-3	2007.10.6	319	掘削調査	古土	16年4
25	川崎字宅地遺 203 倉庫1の一部分 203 倉庫2の一部分	(2008.4.14) 2008.4.15～17	1033	掘削調査	奈良時代竪穴住居跡物1棟、溝、近代川崎の地下室1遺	16年6
26	川崎平安住居地 230 倉庫5	2008.4.22	223	掘削調査	奈良・平安時代竪穴住居跡2軒、土坑1、近代川崎の溝1	16年6
27	川崎 1-1-1	2008.5.15～5.23	350	埋蔵品住居跡	奈良時代の溝1、土坑1	16年6
28	川崎平安住居地 230-7	2008.7.4～7.8	434	掘削調査	奈良・平安時代竪穴住居跡2軒、土坑、7ヶ所	16年6
29	川崎平安住居地 230 倉庫1	2008.7.9～7.11	203	掘削調査	奈良・平安時代竪穴住居跡2軒、溝3	16年6
30	川崎平安住居地 230 倉庫6	2008.7.14～8.22	200	掘削調査	奈良・平安時代竪穴住居跡4軒、竪土器1、土坑1、溝5	16年6
31	川崎字宅地遺 161 倉庫5の一部分 161 倉庫6	2008.10.28 2008.10.28～11.27	304	掘削調査	縄文時代奈良系一時期住居跡2軒、奈良・平安時代竪穴住居跡2軒、土坑2	16年8
32	川崎平安住居地 140の一部分	2011.2.24～25 2011.3.2～25	396	掘削調査	奈良・平安時代竪穴住居跡3軒、土坑2、埋蔵物分米調査	16年10
33	川崎平安住居地 226-5	2011.4.14～21	438	掘削調査	古土	16年10
34	川崎 2丁目 5-4	2011.7.25～26	117	探検調査	古土	16年10
35	川崎 2丁目 6-4-7, 9	2011.9.27～11.24	1924	探検調査	奈良時代前期(奈良系)住居跡1軒、奈良平安時代住居跡1軒等	16年10
36	川崎平安住居地 100-1	2011.12.15～26 2011.12.26～ 2012.1.17	1096	古銅器調査	奈良平安時代住居跡6軒等	16年10

※注：上遺跡市教育委員会委託文化財の調査報告書、上遺跡：上遺跡市遺跡調査報告書、教育：上遺跡市教育委員会、16年：ふたふた市市内遺跡調査報告書



第8表 川崎遺跡古代住居跡一覧表 (単位cm)

住居 番号	調査年度	調査名	調査年	平面形( ) は法定	規模	伊 VYF K	瓦葺 K	方 VYF K	築 法	主軸方位	時期	備考	文献
1	1974	第1次LN72	発掘	隅丸方形	760 × 720 × 40	SP	地床跡	60 × 30	○	N-60-E	3世紀前半	考古学文化財	川崎遺跡第1次発掘
2	1974	第1次LN25	発掘	方形	390 × 320 × 40	K			○	N-5-E	部分		
3	1974	第1次LN26	発掘	隅丸方形	320 × 320 × 40	K			○	N-13-W	9C 4 半期		
4	1974	第1次LN27	発掘	方形	320 × 320 × 40	K		80 × 90	○	N-52-W	9C 中葉		
5	1974	第1次LN24	発掘	隅丸方形	470 × 340 × 50	K	北	120 × 75	○	N-5-E	10C 1 半期		
6	1974	第1次LN25	発掘	方形	320 × 300 × 40	K	北	40 × 40	○	N-42-E	9C 1 半期		
7	1974	第1次LN29	発掘	隅丸方形	× 300	K	東	50 × 60	○	N-69-W	9C 3 半期		
8	1974	第1次LN71	発掘	隅丸方形	× 600								
9	1975	第2次LN75	部分	(長方形)									川崎遺跡第2次発掘
10	1975	第2次LN82	発掘	(長方形)									
11	1975	第2次LN72	発掘	隅丸方形	250 × 250 × 13	K	南	50 × 80		N-18-E	部分		
12	1975	第2次LN27	発掘	方形	720 × 720	K	北		○	N-92-E	9C 後半	N10多数、主軸1	
13	1975	第2次LN24	発掘	方形	390 × 350	K	東	60 × 70	○	N-64-E	9C 前半	軒高6あり	
14	1975	第2次LN25	発掘	隅丸方形	450 × 370	K	北	100 × 90	○	N-1-E	10C 2 半期		
15	1975	第2次LN19	14世紀950s頃			K	東			N-4 半期	土壁跡のみ		
16	1975	第2次LN14	発掘	隅丸方形	370 × 280	K	北	90 × 80	○	N-4-E	9C 3 半期		
17	1975	第2次LN11	発掘	隅丸方形	700 ×						9C	前遺跡	
18	1975	第2次LN23	17世紀大車(遺構)の跡不明										
19	1975	第2次LN26	発掘	隅丸方形	410 × 420	K	北東		○	N-45-E	6C 後半	発掘	
20	1975	第2次LN22	発掘	隅丸方形	410 × 330	K	北	120 × 120	○	N-29-W			
21	1975	第2次LN53	発掘	隅丸方形	350 × 280	K	東	70 × 60	○	N-97-E	9C 2 半期	22柱目録あり	
22	1975	第2次LN54	部分	方形	330 × 320	SP	地床跡				瓦葺		
23	1975	第2次LN20	3/5	(長方形)	× 350	K	北		○	N-20-E	9C 2 半期	遺跡上層跡	
24	1975	第2次LN21	部分	方形	580	K	北西	50 × 70	○	N-43-W	瓦葺		
25	1977	第3次1号住居	発掘	隅丸方形	(長方形)	K	東		○				川崎遺跡第3次
26	1977	第3次2号住居	発掘	隅丸方形	350 × 330	K	北	× 70	○	部分	敷瓦葺あり		
27	1977	第3次4号住居	(発掘)	隅丸方形	350 × 400	K	東	170 × 110	○	部分	N10多数、土壁		
28	1977	第3次5号住居	(発掘)	隅丸方形	350 × 320	K	東	120 × 90	○	部分	N10多数、土壁		
29	1977	第3次6号住居	4/5	正方形	440 ×	K	北	155 × 90	○		9C 4 半期	遺失部あり	
30	1977	第3次7号住居	1/2	(方形)	410 ×				○		部分		
31	1979	第6次1号住居	1/2	(方形)	340 ×				○		9C 2 半期		遺跡文化財の調査 1
32	1979	第6次2号住居	1/3	正方形	340 ×	K	北→東	140 × 80	○		9C 1 半期	敷瓦葺あり	
33	1984	発掘調査4次3号	発掘	正方形	340 × 340	K	東	120 × 100	○		9C 3 半期		遺跡文化財の調査 7
34	1980	第13次1号住居	1/2→1/3		280 ×						7C 後半		遺跡文化財の調査 12
35	1990	第14次2号住居	棟1/2		340 ×	K	東		○		9C 1 半期		
36	1991	第15次1号住居		正方形	395 × 295	K	北東				9C → 10C		遺跡文化財の調査 14
37	1991	第15次2号住居		正方形	380 × 280	K	東				9C 前半		
38	1991	第15次3号住居	発掘	隅丸方形	265 × 430	K	南東		○		9C 前期		
39	1991	第15次4号住居	1/2	正方形	580 ×	K	東		○		9C 末→9C 前期		
40	1991	第15次5号住居	3/4	正方形	280 ×	K	北		○		9C 前半→中		
41	1991	第15次6号住居		正方形	425 × 270	K	北		○		9C 後半	3/5跡、柱止遺跡	
42	1991	第15次7号住居	1/2	正方形	570 ×	K	北		○		9C 前半	発掘調査、遺失部あり	
43	1994	第16次1号住居	1/2		490 ×				○		9C 前半→後半		本報告
44	1994	第16次2号住居	北西隅のみ								9C 前半→後半		
45	1994	第16次3号住居	2/3		440 ×	K	東		○		9C 前半→後半		
46	1994	第16次6号住居	方VYFのみ			K	東						
47	1994	第16次1号住居	2/3	隅丸方形									
1994	第16次2号住居	発掘跡のみ		隅丸方形									
1994	第16次3号住居	発掘	隅丸方形		南北2期								
1994	第16次4号住居	発掘	隅丸方形		南北2期、東西2期								
1994	第16次5号住居	発掘	隅丸方形		南北2期、東西2期								
1994	第16次6号住居	発掘	隅丸方形		南北2期								
1994	第16次6号住居	発掘	隅丸方形		南北3期、東西2期								
47	1996	第17次1号住居	発掘	隅丸方形	400 × 450	K	東		○		部分	藤原土層	遺跡文化財の調査 18
48	1996	第18次2号住居	発掘	隅丸方形	300 × 300	K	東		○		部分		遺跡文化財の調査 19
49	2001	第18次1号住居	1/2		360 ×	K	北西		○		部分		遺跡文化財の調査 24
50	2005	第25次1号住居	発掘	隅丸方形	320 × 350	K	北西		○	N-45-W	7C 前半→中		市内発掘 1
51	2006	第21次1号住居	発掘	方形	410 × 260 × 10	K	東	140 × 120	○	N-106-E	9C 後半		市内発掘 3
2009	第25次地蔵1号住居	発掘	隅丸方形	南北2期、東西2期									
52	2008	第29次地蔵H29号住居	発掘	方形	349 × 316 × 23	K	北	95 × 83	○	N-16-E	9C 後半		
53	2008	第29次地蔵H29号住居	北西隅のみ	(方形)	431 × 205 × 24	K	北	70 ×	○	N-16-E	9C 後半		
54	2008	第29次地蔵H30号住居	発掘	隅丸方形	424 × 296 × 20	K	北	98 × 71	○	N-4-E	9C 後半		
55	2008	第29次地蔵H31a号住居	北西隅のみ	(方形)	[290] × [233] × 11	K	北	88 × 84	○	N-19-E	9C 前半→中		
56	2008	第29次地蔵H31b号住居	北西隅のみ	(方形)	[404] × [325] × 2				○	N-18-E			
57	2008	第29次地蔵H32号住居	発掘	隅丸方形	357 × 293 × 24	K	東	108 × 90	○	N-106-E	9C 中→9C 前期		
58	2008	第29次地蔵H33号住居	北西隅のみ	(方形)	[214] × [205] × 16	K	東	[65] × [65]	○	N-98-E	9C 中→9C 前期		
59	2008	第29次地蔵H34号住居	発掘	方形	[378] × [372] × 12	K	北	71 × 90	○	N-16-E	9C 後半	藤原土層	
60	2008	第29次地蔵H35号住居	発掘	隅丸方形	294 × 232 × 26	K	東	141 × 93	○	N-104-E	9C 前半		
61	2008	第29次地蔵H37号住居	発掘	方形	415 × 414 × 21	K	北	89 × 140	○	N-19-E	9C 後半	巨形陶器	
62	2008	第29次地蔵H38号住居	1/2	(方形)	375 × [105] × 17						N-5-E	9C 後半	藤原土層

## II 川崎遺跡第32地点

## (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年12月9日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の西側に位置し、近隣地では古代住居跡を検出している。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するための試掘調査を実施した。

試掘調査は2011年2月24日に、調査区に幅約1.5mのトレンチ5本を設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行った。その結果、現地表面から約40cmの深さで平安時代の住居跡を確認した。再度協議の結果、工事による掘削が遺構に影響を与えるため、補助事業の対応で本調査を行った。

本調査は3月4日から3月25日まで行った。本調査の結果、9世紀の住居跡3軒、土坑3基、ピット5基を検出し、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、本調査を終了した。

## (2) 遺構と遺物

## ① H 65号住居跡

【位置・形状】調査区の中央部に位置する。4m東にH 66号住居跡、10m南東にH 67号住居跡がある。平面形態は長方形で主軸方位はN-27°-Eである。規模は主軸が南北4.6m×東西3.55m、確認面からの深さ35cmである。竈を含めた主軸長は4.95mである。【竈】住居跡北壁の中央やや東寄りに構築される。煙道は後世の掘削（イモビツ）で壊される。竈は灰色の粘土で構築され、天井部は崩落し袖の一部が残る。竈内部の底面に焼土面が残る。

焚口から奥壁までの長軸113cm、袖部の最大幅132cmである。焚口幅90cm、竈内部は幅69cm、奥行き90cmで床面からの深さは約5cmである。

竈の右側（東）は地山ではなく暗褐色土が堆積している。竈は暗褐色覆土を掘削したうえで、焼土塊が混入した粘土と灰色粘土で袖部を構築している。掘り方は住居東壁と連続しており、住居構築時に掘りすぎたか、当初の竈構築予定として掘った箇所を埋め戻したうえで竈を構築したと思われる。また、暗褐色覆土の上面は硬化していることから、棚状に使用していた可能性もある。

【入口・階段状遺構】東壁際中央に硬化面のある段が2段ある。出入り口部分と思われる。また、東壁の一



第7図 川崎遺跡第32地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)

部は段状面と同一面まで掘削されている。規模は奥行き75cm・幅48cmである。一段目はわずかな高まりで床面より3cmほど高く、平坦面の奥行き33cm・幅45cm。二段目は平坦面の奥行き35cm・幅32cm、床面からの高さ21cmである。硬く締まった黒褐色土で構築され、平坦面はローム塊が混入し特に硬い。

遺構の下は土坑状の窪みがあり、ロームを含む黒褐色土で埋め戻されている。規模は145×80cm、床面からの深さ17cmである。

【貼床・周溝】周溝は住居の西・南壁際と東壁際跡の一部に巡り、上幅12～30cm、下幅5～14cm、深さ5cmである。

貼床は床面全体に5～18cm厚で薄く貼られる。床面は住居北東から中央部の竈前から階段状遺構にかけて特に硬化する。

【掘り方】ほぼ平坦だが、竈前から中央部と東側にかけて20cm前後掘られた後、埋め戻されている。

【遺物出土状況】遺物はほぼ全面に散在するが、東壁の階段状遺構より北側にかけてやや集中する。

【時期】10世紀。

#### ② H 66号住居跡

【位置・形状】調査区の中央東側に位置する。4m西にH 66号住居跡、6m南にH 67号住居跡がある。北西部分は構成の乱れで壊される。平面形態は方形で主軸方位はN-99°-Eである。規模は主軸が東西4.2m×南北3.65m、確認面からの深さ50cmである。竈を含めた主軸長は4.35m以上である。

【竈】住居跡東壁の南寄りに構築される。煙道は調査区域外になる。竈は灰色の粘土で構築され、天井部は崩落し袖の一部が残る。竈内部の底面に焼土面が残る。

焚口から調査区内の奥行き49cm、袖部の最大幅105cmである。焚口幅40cm、竈内部は幅54cm、床面からの深さは約6cmである。

竈の中央に礫が立脚状態で残存していた。支脚と思われる。

【ピット】5基検出した。P1とP2は南壁から20cmの距離にあり、P1は西壁から90cm、P2は東西壁のほぼ中央に位置する。P1とP2の中心間の距離は85cmである。P3は北壁中央、P4は北東隅に位置する。いずれも深さ10cm前後と浅い。

【貼床・周溝】周溝は住居の北・西・東壁際の一部に巡り、北東隅と西壁中央から南壁にはない。上幅15

～28cm、下幅5～10cm、深さ5～9cmである。

貼床は床面全体に2～8cm厚で薄く貼られる。

【掘り方】ほぼ平坦だが、竈前から南側にかけては壁際が10cm前後浅く掘られた後、埋め戻されている。

【遺物出土状況】遺物はほぼ全面に散在するが、竈内にやや集中する。

【時期】8世紀後半～9世紀初頭。

#### ③ H 67号住居跡

【位置・形状】調査区の南東部に位置する。10m北西にH 65号住居跡、6m北にH 66号住居跡がある。東側は調査区域外であるため、主軸方位は不明だが、平面形態は方形で南北壁の方位はN-0°-Eである。規模は南北3.3m、調査区域内の東西2.2m、確認面からの深さ30cmである。竈は調査区域内では検出なかった。

【ピット】2基検出した。P1は北側中央、P2は南西隅にある。

【貼床・周溝】周溝は住居の北・西・南壁際に巡る。上幅15～25cm、下幅5～15cm、深さ4～7cmである。

貼床は床面全体に2～5cm厚で薄く貼られる。床面は住居中央が硬化する。

【遺物出土状況】遺物は中央から南側に散在する。

【時期】10世紀。

#### ④土坑

3基検出した。土坑1と土坑2は縄文時代。

第9表 川崎遺跡第32地点H65号住居跡ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	方形	18×17	8×6	37.9	
P2	円形	27×24	8×8	54.3	
P4	不明	(65)×(61)	10×9	35.6	
P5	不明	24×(23)	8×7	23.3	

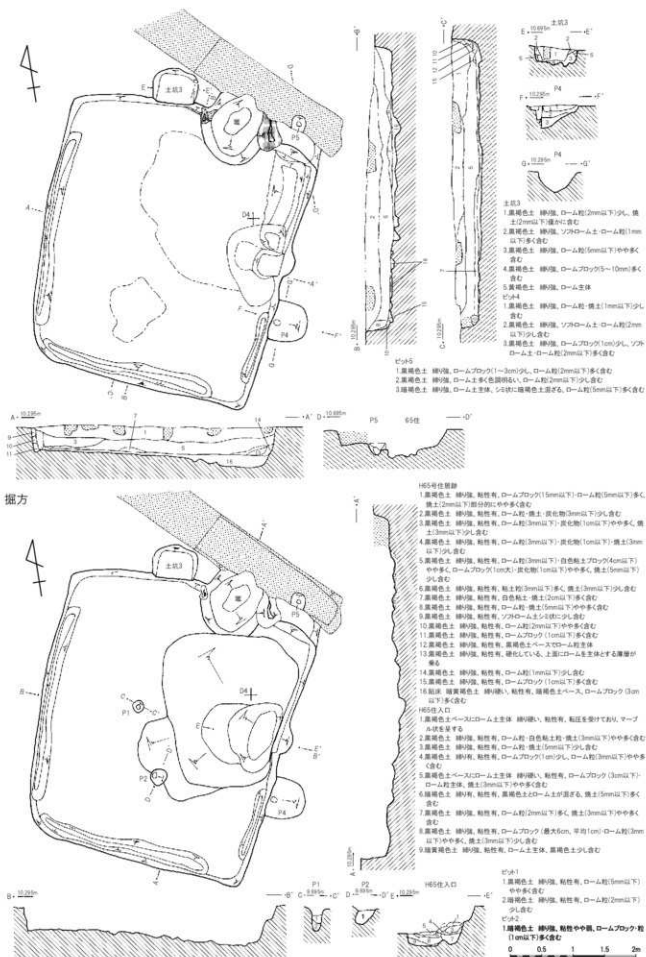
第10表 川崎遺跡第32地点H66号住居跡ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	方形	26×23	14×12	7.6	
P2	円形	29×22	12×9	23.5	
P3	ひょうたん形	67×53	27×14	15.4	
P4	楕円形	60×42	39×26	13.6	
P5	不明	25×(8)	7×3	4.9	

第11表 川崎遺跡第32地点H67号住居跡ピット一覧表(単位cm)

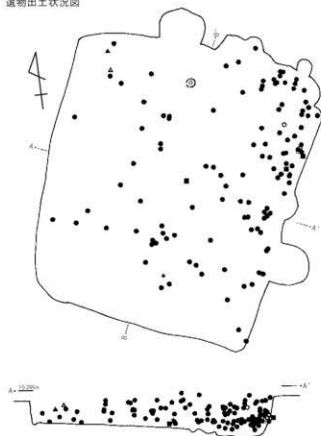
No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	楕円形	94×41	33×17	29.7	
P2	円形	36×33	15×14	15.6	



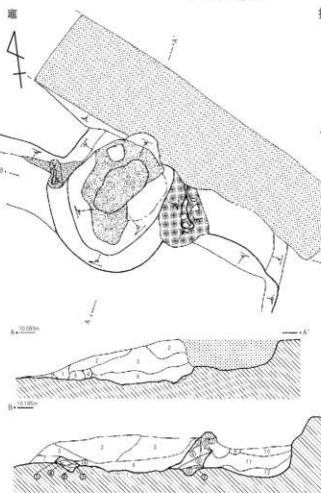


第8図 川崎遺跡第32地点H65号住居跡・掘方(1/60)

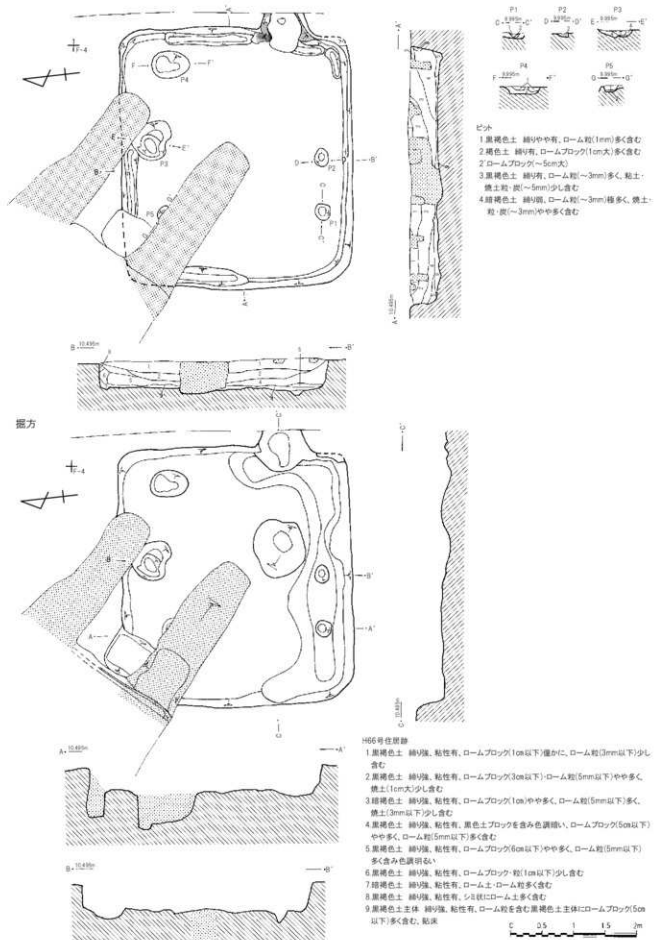
遺物出土状況図



- 遺
1. 黒褐色土 締り強、大型のロームブロックを含む、粘土の細粉・焼土(5mm以下)含む
  2. 黒褐色土 締り強、粘土ブロック(5~80mm)多く、焼土(5mm以下)やや多く含む
  3. 黒褐色土 締り強、粘土粒(3mm以下)多く、粘土ブロック(5~20mm)・焼土(5mm以下)少し含む
  4. 灰色粘土 締り強、黄白色粘土(5mm大)・焼土(3mm大)やや多く含む
  5. 黒褐色土 締り強、黒褐色土(1cm大)・焼土(3mm大)やや多く含む
  6. 赤褐色土 締り強、焼土(1.5cm以下)は灰色粘土が混ざる、シミ状に黒褐色土を含む
  7. 黒褐色土 締り強、粘性有、白色粘土・焼土(2cm以下)多く含む
  8. 2層に似る、粘土と焼土多い、これより下では焼土・粘土が急に少なくなる
  9. 緑褐色土 締り有、やや硬い、ロームブロック(2cm大)少し、ローム粒(2mm)様多く、粘土粒(1mm)・焼土粒(1mm)少し含む
  10. 緑褐色土 締り有、やや硬い、ローム粒(5mm)多く、粘土粒(1mm)・焼土粒(2mm)多く、炭(1mm)少し含む
  11. 緑褐色土 締り有、ローム粒(3mm)少し含む
  12. 黒褐色土 締り有、ロームブロック(3cm大)少し、ローム粒(5mm)様多く、炭・焼土粒(1mm)少し含む
- 1~7は産廃土、8~12は構状遺構もしくは産廃集積時のベースとなる築土、焼土が少ない
- 0 0.5 1 1.5 2m



第 9 図 川崎遺跡第 32 地点 H65 号住居跡遺物出土状況図 (1/60)、竈・掘方 (1/30)

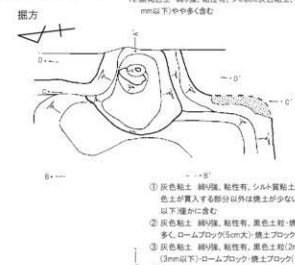
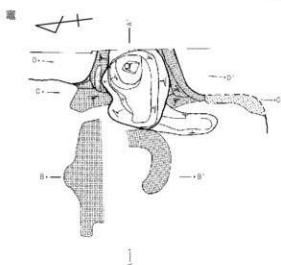


第10図 川崎遺跡第32地点 H66号住居跡・掘方 (1/60)

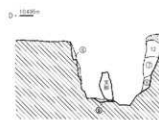
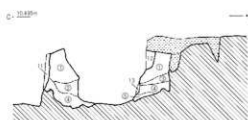
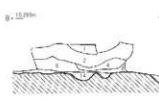
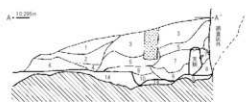
遺物出土状況図



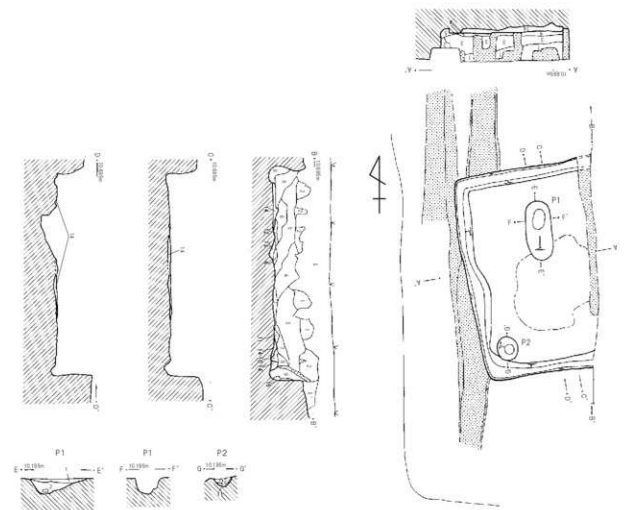
- 1 黒褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)・灰色粘(シミ状)やや多く、黒色土粒(3mm以下)・焼土(5mm以下)少し含む
- 2 黒褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)少し、灰色粘土ブロック(5~30mm)多く含む
- 3 灰色粘土 粘り強、粘性有、黒褐色土・ローム粒・黒色土粒(3mm以下)少し含む
- 4 黒褐色土 粘り強、粘性有、ロームブロック(最大5cm)・ローム粒(2mm以下)少し含む
- 5 黒褐色土 粘り強、粘性有、ロームブロック(2cm以下)少し、ローム粒(3mm以下)やや多く、灰色粘土(1cm以下)少し含む
- 6 黒褐色土 粘り強い、粘性有、土質は5層に同じ
- 7 黒灰色土 粘り強、粘性有、粘土分多含む、焼土(5mm以下)やや多く含む、全体の色調は赤褐色味を帯びる
- 8 黒褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒・焼土粒(3mm以下)やや多く、焼土ブロック(5~10mm)少し含む
- 9 黒褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒(5mm以下)多く、焼土(5mm以下)やや多く含む
- 10 黒褐色土 粘り強、粘性有、ロームブロック(5~15mm)やや多く含む
- 11 黒褐色土 粘り強、粘性有、シミ状に灰色粘土、ローム粒(2mm以下)少し含む
- 12 黒褐色土 粘り強、粘性有、シミ状に灰色粘土、ローム粒・焼土(3mm以下)やや多く含む



- ① 灰色粘土 粘り強、粘性有、シルト質粘土・動植物体の黒褐色土が買入する部分以外は焼土が少ない、ローム粒(3mm以下)混かに含む
- ② 灰色粘土 粘り強、粘性有、黒色土粒・焼土(2mm以下)やや多く、ロームブロック(5cm大)・焼土ブロック(3cm大)少し含む
- ③ 灰色粘土 粘り強、粘性有、黒色土粒(2mm以下)・ローム粒(3mm以下)・ロームブロック・焼土ブロック(1cm大)少し含む
- ④ 黒褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒(5mm以下)多く、ロームブロック(1~5cm)やや多く含む
- ⑤ 黒褐色土 粘り強、粘性有、シルト質ローム主体、シミ状に黒褐色土が買入する
- ⑥ 黒褐色土 粘り強、粘性有、灰色粘土混じりのローム土
- ⑦ 灰色粘土 粘り強、粘性有、シミ状に焼土をやや多く、焼土ブロック(1cm大)少し含む
- ⑧ 灰色粘土 粘り強、粘性有、ローム・黒色土粒(2mm以下)少し含む
- ⑨ 黒褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)やや多く、焼土(1mm大)混かに含む
- ⑩ ①~⑨は腐植層土



第 11 図 川崎遺跡第 32 地点 H66 号住居跡遺物出土状況図 (1/60)、竈・掘方 (1/30)



## 遺物出土状況図



## A-A'

- 1.黒褐色土 黒灰色土(5mm大)・ローム粒・焼土(3mm以下)少し含む
- 2.黒褐色土 ロームブロック(5~30mm)多く含む
- 3.黒褐色土 ローム粒(2mm以下)1層よりやや多く、焼土(2mm以下)僅かに含む
- 4.黒褐色土 ローム粒(3mm以下)1層よりやや多く含む
- 5.黒褐色土 ローム粒(3mm以下)やや多く含む

## B-B'

- 1.赤土 黒灰色土 練り肌、餅作土
- 1' ロームブロック層入、餅作土
- 1.黒褐色土 練りやや有、ローム粒少量、1層が層入、焼土粒(3mm以下)やや多く含む
- 2.黒褐色土 練りやや有、ローム粒少量、1層が層入
- 3.黒褐色土 練り有、ローム粒(~3mm)・焼土粒(~5mm)多く、粘土粒(~1mm)極少量含む
- 4.黒褐色土 練り有、黒灰色土(5mm大)・ローム粒・焼土(3mm以下)少し含む
- 5.黒褐色土 練り有、ローム粒(2mm以下)4層よりやや多く、焼土(2mm以下)僅かに含む
- 6.黒褐色土 練り有、ローム粒(3mm以下)5層よりやや多く含む
- 7.黒褐色土(3層より濃い) 練り有、ローム粒(~2mm)多く、焼土粒(~2mm)やや多く含む
- 8.黒褐色土 練り有、ローム粒(~1mm)少し含む
- 9.黒褐色土 練りやや有、ロームブロック(1cm大)少し、ローム粒(~3mm)極多く含む
- 10.暗褐色土 練り有やや練り、ローム粒(~1mm)極多く含む
- 11.暗褐色土 練り有やや練り、ロームブロック(2cm大)少し、ローム粒(~1mm)極多く含む
- 12.暗褐色土 練り有、ローム粒(~2mm)極多く含む
- 13.暗褐色土(やや中粒) 練り有、ロームブロック(1cm大)少し、ローム粒(~2mm)極多く含む
- 14.黄褐色土と黒灰色土の混合 非常に練り練る、ロームブロック(~3cm大)含む、粘床
- 15.ロームブロックと黒灰色土の混合 練り有

## ピット1

- 1.黒褐色土 練り有、硬い、ローム粒(~2mm)多量、焼土粒(~3mm)やや多く、炭(1mm)少し含む
- 2.褐色土 練り有、ロームブロック(1~3cm大)多く、ローム粒(~1cm)極多く、焼土粒(~2mm)少し含む

## ピット2

- 1.黒褐色土 練り有、ロームブロック(~1cm大)少し含む
- 2.褐色土 練り有、ローム粒(1~2mm)極多量に含む
- 3.黄褐色土 練り有、ソフトローム主体

第12図 川崎遺跡第32地点 H67号住居跡・遺物出土状況図 (1/60)

第12表 川崎遺跡第32地点遺構一覧表 (単位cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	方形	57×52	16×14	36.8	
P2	方形	49×41	10×9	29.4	
P3	方形	26×23	16×14	21.5	
土坑1	楕円形	140×116	128×104	30	
土坑2	円形	175×150	127×126	48.5	
土坑3	不明	72×(57)	57×(47)	30.6	

## H 65号住居跡出土遺物

1～3は須恵器。1は、口縁部が一部欠損するがほぼ完形。口径11.9cm、器高3.7cm、底径5.5cm。底部回転系切り。色調暗褐色でむらが無い。白色針状物質を多量に含み、2mm大の石英を混じる。外面体部中央から底部にかけて、4段ほどのとがり気味のロクロ痕。内面は滑らかである。2は、口径12.5cm、器高4.0cm、底径4.4cm。口径と底部の比は、2.84:1である。底部回転系切り。色調黄白色。白色針状物質を含み、5mm大の石英を多量に含み、1mm大の黒砂を多量に含む。外面体部中央に5段ほどのとがり気味のロクロ痕。内面は滑らか。3は、高台付き椀、完形。口径13.3cm、器高5.6cm、底径7.1cm。色調暗青灰色。回転系切り後に高台を付ける。白色針状物質を少量含む。外面中央に5段ほどのロクロ痕、内面の中央部に丸気味のロクロ痕。

4は、土師器甕、口唇部に図示したように、幅1.2cmほど片口状の凹みがある。丸い棒状の工具で、口唇部に水平に押し当て形成したものの。

5は、甕の支脚。上半部は欠損。外面は幅2.5cmで縦方向に面取りをほどこしたもの。混じりものは全くなく、ローム土をそのまま焼成したものであろう。

6は、甕の袖の補強にした軒丸瓦。外面に縄目叩き痕、内面には布目瓦痕。白色針状物質をわずかに含み、鳩山窯跡産。

7は、刀子の破片。鬩と柄の部分。両端部が大きく欠損。

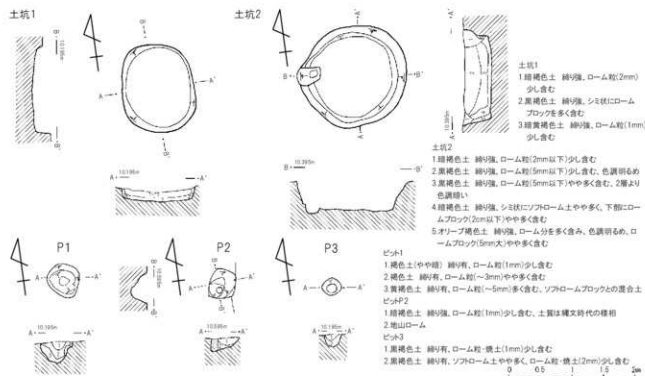
8・9は鉄釘の破片。両端部が大きく欠損している。

10は、小形須恵器環。口縁部1/8、体部1/2、底部欠損。口径10.5cm(推)。いわゆる環Gの系統の一種かもしれない。色調青色、東金子窯跡産。内外ともに滑らかである。住居には伴わない混入品であろう。

11は、縄文時代の磨石で、両面に敲打による凹みの痕跡がある。石質は、閃緑岩。

## H 66号住居跡出土遺物

1～4は須恵器環。1は、口径12.5cm、器高3.7cm、底径7.0cm。現存1/2。底部回転系切り後、周辺部回転ヘラ削り。暗青灰色。白色針状物質が混入。内面爪立てにより凹んだ稜がある。2は、口径12.7cm、器



第13図 川崎遺跡第32地点土坑・ピット (1/60)

高3.5cm、底径7.8cm。底部は回転糸切りのみ。暗青色。口唇部外面に3mm程度の自然釉がかかる。重ね焼きによるもの。2mm程度の石英が混入。外面調整滑らか。体部中央に輪積痕がある。3は、口径12.6cm（現存1/2）、器高3.6cm、底径7.7cm。底部回転糸切りのみ。色調全体に明ベージュ。口唇部外面暗褐色（重ね焼成痕）。外面調整滑らか。底部に「」のヘラ記号。4は、口径12.6cm、器高3.8cm、底径8.0cm。底部回転糸切りのみ。色調明ベージュで3に似る。口唇部直下7mm前後にロク口痕による凹みが一週している特徴がある。外面調整全体に滑らか、底部にヘラ記号「」で3に同じ。

白色針状物質は含まない。外面の底部から口唇部にカーボンが付着、内面の口唇部にも一部帯状に付着。灯火具に転用使用か。

5、6は須恵器椀形。5は口径15cm（1/2現存）、器高5.5cm、底径8.0cm。色調青灰色。底部は回転ヘラ削りによる切り離し。外面内面調整はわずかにロク口痕が残り滑らか。胎土は1cmの茶色の砂利を含み、1mmの白色の砂を含み、白色針状物質も含む。6は、口径16cm（現存1/2）、器高5.7cm、底径8.0cm。色調青灰色で底部にかけて灰白色が強くなる。底部は回転糸切り後、周辺部回転ヘラ削り調整。2mmの石英を含み、黒色の砂を含む。白色針状物質を含む。体部外面に、口唇部より1.5cm下方に外面にロク口痕による凸一週する特徴がある。その他外面内面ともに滑らか調整。

7、8は砥石。7は長台形の4面に使用面がある。8は、長台形、幅が広く扁平になっているが、主な使用面は2面であるが、側面も使用している。図示上方に穿孔がある。紐を付ける穴か。

9は、鉄滓。10は、刀子の破片。11は、鉄釘。先端が曲がっている。12は、馬具の破片か。

#### H 67号住居跡出土遺物

1は須恵器環。口径12cm（2/3現存）、器高3.8cm、底径5.7cm。口径底径比は約2.0：1。底部回転糸切り離し。色調暗褐色。5mm以下の石英を含み、白色針状物質を含む。内面にカーボンが付着。内外面のロク口痕は太く丸い。

#### 遺構外出土遺物

縄文晩期の土器が出土している。1は、沈線による三叉文と点列文がうかがえる口縁部破片。色調黄味が強い。口唇部先端はとがり気味に丸く処理されてい

る。2も、斜状に沈線の間に点列文を加えたもの、口唇部先端、色調は1に同じ。

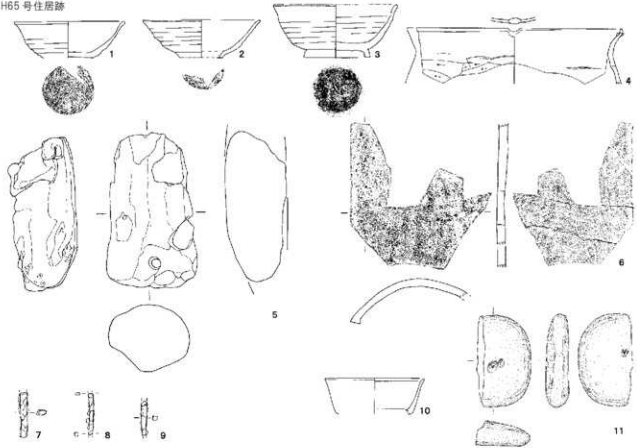
3は入り組み三叉文の直前とその間を逆「U」で埋めたもの。口唇部は丸く整形。器面はヘラで磨いた後に文様を「刻んだ」もの。刻んだというのは器面の乾燥が進んだ後、彫り込むような力が働いているからである。胎土には2～3mm程度の茶色の小砂利が混入。

4は、入り組み三叉文によるもの。色調は、1・2よりもやや暗い。胎土には黄色・白色の砂が多量に混じる。

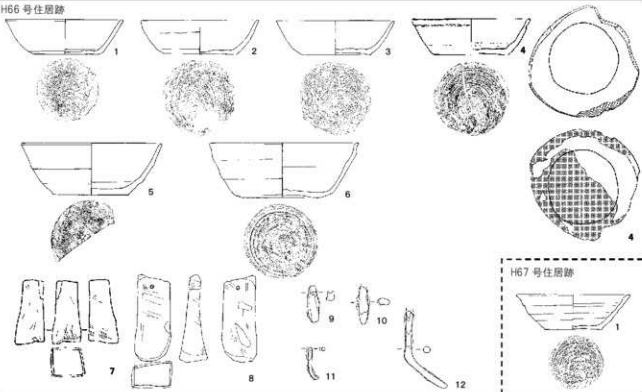
5・6は、器面外面に指頭による凹凸が激しい粗製土器。5には、輪積みの痕跡がある。両者ともに、6mmから3mmの石英や粘板岩を多量に含み、1～4とは、胎土を異にする。

なお、1・2は安行3c式、3・4は安行3d式であろう。5・6は1～4に伴う粗製土器である。

H65 号住居跡



H66 号住居跡



遺構外



第 14 図 川崎遺跡第 32 地点 出土遺物 (1/4)



## 第4章 滝遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

滝遺跡は武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の台地東側の一段低い立川段丘面の縁に立地している。

「滝」の地名は、近年までこの段丘上から滝が落ちていたことに由来する。北西側は段丘面、北東側は新河岸川を挟んで荒川低地の沖積地と接し、南側は排水溝として利用される緩やかな小支谷を流れる旧清水に挟まれ、標高9～12m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北250m、東西500m以上ある。宅地開発が進むが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、北西側の段丘上に縄文時代前期、中期、晩期、古墳時代の遺跡である著名な上福岡貝塚と権現山遺跡群が新河岸川沿いに並び、旧清水を挟んだ南側には、縄文時代、飛鳥時代、中近世の長宮遺跡が広がる。

1976年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、遺跡の谷口に当たる旧丸橋遺跡（1981年の変更増補で滝遺跡と合併）で古墳時代前期と後期の住居跡を検

出以来35ヶ所で調査を行っている。なお、本遺跡の第3・5・9～11次調査、1995年度試掘調査・2002年度試掘調査（1）は権現山遺跡の範囲に入っているため、今後は本遺跡では欠番とし、権現山遺跡1・2・5～7・14・17地点とする。

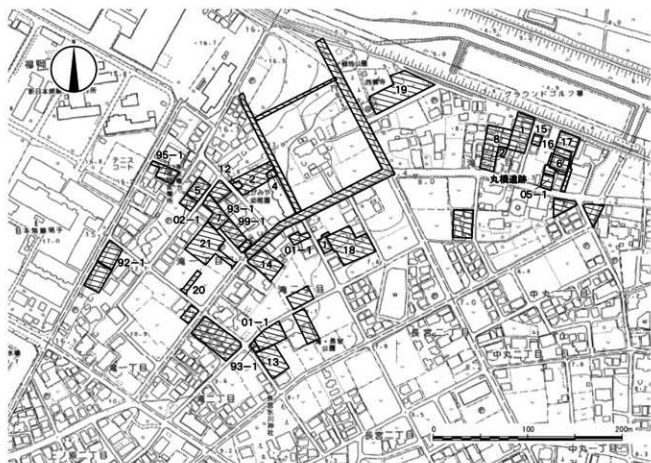
遺跡の主たる時代と遺構は、縄文時代早期・前期の土坑、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡、近世の段切り遺構（集石を伴う）である。

### II 滝遺跡第17地点

#### (1) 調査の概要

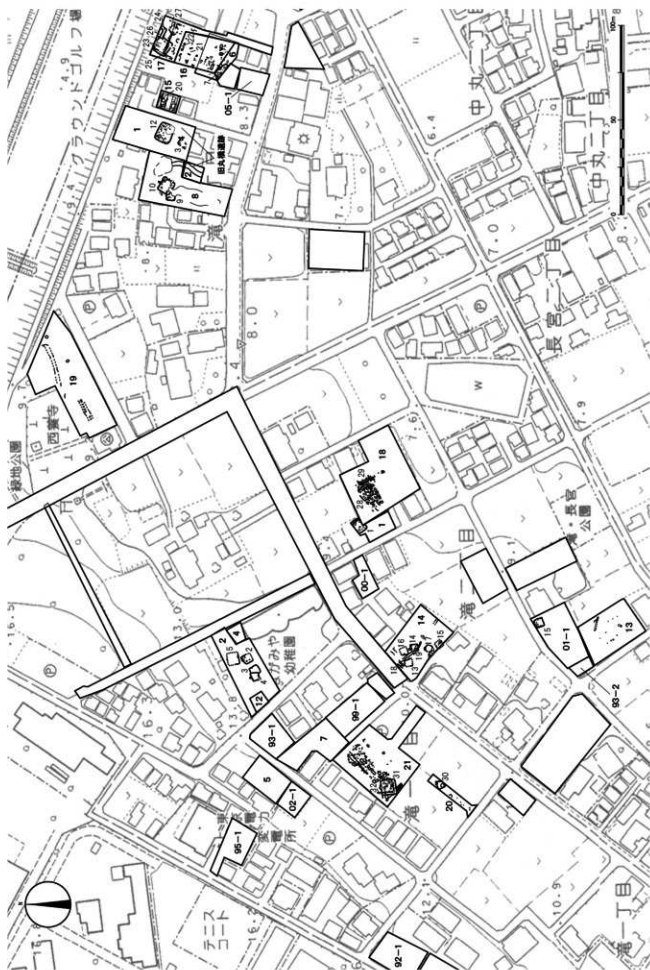
調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年4月15日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内に位置するため、原因者と協議の結果、遺構などの存在を確認するための試掘調査を実施した。

試掘調査は2010年5月6日から31日までと6月17日・18日に行った。幅約1～3mのトレンチ4本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を



第15図 滝遺跡の地形と調査区 (1/4,000)





第16図 流道跡選構分布図 (1/2,000)

行った結果、古代の住居跡、近世以降の土坑、井戸、ピット等を確認した。旧石器時代の確認調査は行ってない。

地表面から遺構確認面までの深さは約60cmであり、開発による遺跡への影響が避けられないため原因者と協議した結果、30cmの盛土保存を行うこととなった。

## (2) 遺構と遺物

### ① H 23号住居跡

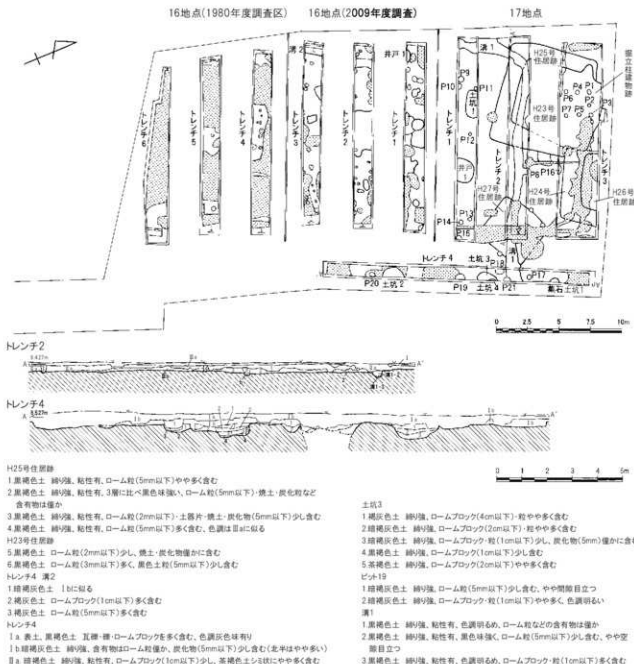
【位置・形状】調査区の北部に位置する。H 24・H 25号住居跡、掘立柱建物跡、溝1と重複し、両住居跡より新しく、掘立柱建物跡・溝1より古い。0.4m東にH 26号住居跡、5.8m南東にH 27号住居跡があ

る。プラン確認と主軸方向及び主軸と直行する方向に幅30cmのサブトレッチを設定し、確認調査を行った。平面形態は長方形で主軸方位はN-46°-Wである。規模は主軸が南北5.95m×東西7.0m、確認面からの深さ27cmである。竈を含めた主軸長は6.75mである

【竈】住居跡北西壁の中央やや北寄りに構築される。【貼床・周溝】サブトレッチにより周溝を確認した。周溝は住居の西・南壁際と東壁際跡の一部に巡り、上幅20cm、下幅8cm、深さ11cmである。

【時期】8世紀。

### ② H 24号住居跡



第17図 滝遺跡第17地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)

【位置・形状】調査区の北東部に位置する。北側は調査区域外である。H 23・H 25・H 26 号住居跡と重複し、H 23・H 26 号住居跡より古く、H 25 号住居跡より新しい。1.4 m 南に H 27 号住居跡がある。プラン確認と、サブトレンチによる確認調査を行った。サブトレンチは壁と平行に幅 30 cm で設定した。規模は東西 5.90 m で、南北方向には 2.65 m 検出した。確認面からの深さ 30 cm である。

【貼床・周溝】サブトレンチにより周溝を確認した。住居の西・南壁際と東壁際跡の一部に巡り、上幅 20 cm、下幅 8 cm、深さ 4 cm である。

【時期】8 世紀

#### ③ H 25 号住居跡

【位置・形状】調査区の北部に位置する。H 23・H 24 号住居跡、掘立柱建物跡、溝 1 と重複し、全ての遺構のなかで一番古い。0.4 m 東に H 26 号住居跡、4.4 m 南東に H 27 号住居跡がある。プラン確認と主軸方向及び主軸と直行する方向に幅 30 cm のサブトレンチを設定し、確認調査を行った。平面形態は長方形で長軸方位は  $N-46^{\circ}-W$  である。規模は長軸が 8.1 m × 短軸 7.0 m、確認面からの深さ 12 cm である。

【時期】4 世紀。

#### ④ H 26 号住居跡

【位置・形状】調査区の北東部に位置する。北側は調査区域外である。H 24 号住居跡と重複し、H 24 号住居跡より新しい。0.4 m 西に H 23・H 25 号住居跡、3.5 m 南に H 27 号住居跡がある。プラン確認と、サブトレンチによる確認調査を行った。サブトレンチは壁と平行に幅 30 cm で設定した。規模は東西 4.5 m で、南北方向には 1.1 m 検出した。確認面からの深さ 40 cm である。

【時期】8 世紀。

#### ⑤ H 27 号住居跡

【位置・形状】調査区の南部に位置する。溝 1 と重複し、溝より古い。4.4 m 北西に H 23・H 25 号住居跡、3.5 m 北に H 24 号住居跡がある。プラン確認と、サブトレンチによる確認調査を行った。形態は正方形、規模は南北 4.0 m で、東西 4.2 m である。確認面からの深さ 10 cm である。

【時期】8 世紀。

#### ⑥ 掘立柱建物跡

調査区の北部に位置する。H 23・H 24 号住居跡と重複し、両住居より新しい。トレンチ 3 内で 2 間

× 2 間を検出したが、南側へ範囲が広がるかどうかの確認はしていない。規模は東西 1.8 m × 南北 1.8 m、柱の芯間距離は 0.85 ~ 0.9 m である。

#### ⑦ 井戸 1

調査区の西側、トレンチ 1 内に位置する。トレンチ内のみ調査し、表土から 1.9 m まで掘削したが、底面は未検出である。規模は上端幅 2.05 m、下端幅 1.12 m、漏斗状にすぼまる。

#### ⑧ 土坑・ピット

土坑は 4 基、ピットは 21 基検出した。

#### ⑨ 集石土坑 1

調査区の東部、トレンチ 4 内に位置する。時期不明。

#### ⑩ 溝 1

調査区北西から東端にかけて位置する。H 23・H 25・H 27 号住居跡と重複し、新しい。北方向に 5.5 m の位置でほぼ直角に曲がり、東方向へ 17 m で調査区域外へ向かう。上幅 45 ~ 90 cm、下幅 15 ~ 25 cm、確認面からの深さ 30 ~ 40 cm、断面形は「U」字形を呈する。

#### 23 号住居跡出土遺物

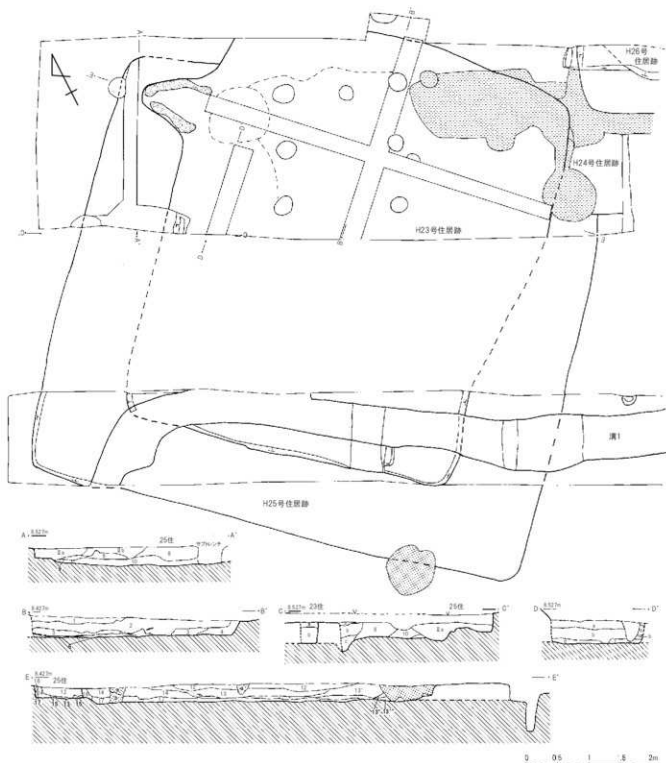
1 は口径 (1/4 現存) 15 cm、丸い体部から口縁部が垂直に立ち上がる。口唇部上端に沈線が巡る。色調茶褐色。体部外面はヘラ削りで底部を丸く整形。2 は、口縁部欠損、底部のみ。高台の付いた、いわゆる東海系の出尻の須恵器杯。高台は全周する。色調灰褐色で器面は滑らかに調整。

#### 24 号住居跡出土遺物

1 は土師器長甕、口径 ((1/4 現存) 21 cm。色調茶褐色。口縁部は強い横ナデを施す。胴部は、縦ヘラ削りを丁寧に施している。

2 から 4 は土師器杯。2 は、口径 (1/4 現存) 14 cm、器高 3.5 cm。平底気味の丸底。内面に赤彩。口唇部下 3 mm の内面に沈線。体部上半を円形にヘラ削り。底部は一方方向にヘラ削り。3 は丸底の杯、口径 (現存 1/4) 12 cm。口縁部と体部の境は、口縁部を細く垂直に立ち上げて区分している。4 は、口径 (1/4 現存) 12 cm。器高 3.8 cm。内面と外面口縁部に赤彩。口唇部を赤彩によって区分。口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。

5 は、口径 (現存 1/5) 21 cm。盤状の皿形土器。口唇部は体部と同じ器厚で平坦に整形されている。体部は強い横ナデ、底部はヘラ削り。胎土は細かく精錬され、地元産ではないようだ。



## H23号・25号住居跡

II a 黒褐色土 締り強、薄く灰状にロームブロック(2cm以下)多く含む。H23号住居跡のプランが上面に見られるが、近代・近世陶磁器を所々に含む

II b 黒褐色土 締り強、ローム粒少し含む

1 黒褐色土 締り強、ロームブロック・粒(1cm以下)少し含む

2 黒褐色土 締り強、シミ状にロームブロック(5cm以下)をシミ状に、焼土(5mm以下)やや多く含む

3 黒褐色土 締り強、シミ状にロームブロック・粒をシミ状に、焼土(1cm以下)少し含む

4 黒褐色土 締り強、黒色味強く、うすすらシミ状にローム粒(3mm以下)少し、焼土(1cm以下)やや多く含む

5 黒褐色土 締り強、色調明るめ、ローム粒(2mm以下)少し含む

6 黒褐色土 締り強、転圧を受けたようなローム粒(5mm以下)少し含む、締り非常に良い

7 黒褐色土 締り強、bより色調明るめ、ローム粒(5mm以下)・灰化物少し含む

8 黒褐色土 締り強、ローム粒(2mm以下)少し、灰化物(3mm以下)僅かに含む、黒色味強い

9 黒褐色土 締り強、ローム粒(2mm以下)やや多く含む

10 黒褐色土 締り強、ローム粒(5mm以下)多く含む

11 黒褐色土 締り強、ローム粒(3mm以下)主体

12 黒褐色土 締り強、ローム粒(3mm以下)やや多く含む

13 黒褐色土 締りやや弱、ローム粒(3mm以下)やや多く含む

13' 黒褐色土 灰色土粒(5mm内外)多く、ローム粒・焼土やや多く含む

13'' 黒褐色土 色調明るく、シルト質、含有物は少ない

13''' 黒褐色土 灰色シルト質土を含み、色調明るめ、シミ状にローム粒・焼土(3mm以下)少し含む

14 黒褐色土 締り強、ローム粒(3mm以下)少し含む、雨漬層土か

15 黒褐色土 締り強、ローム粒(3mm以下)多く含む

16 暗褐色土 締り強、ローム粒(5mm以下)やや多く含む

17 暗褐色土 締り強、色調明るめ、うすすら粒状にローム粒(3mm以下)やや多く含む

ピット

a 暗褐色土 締り強、ロームブロック・粒(1cm以下)やや多く含む

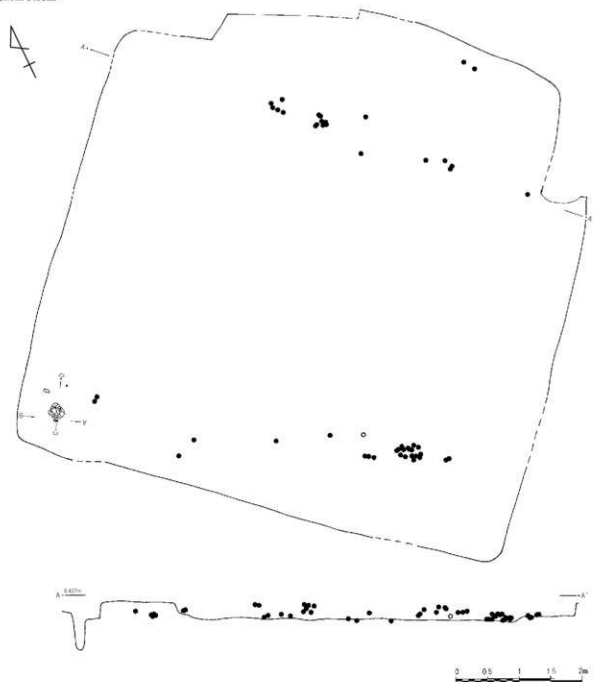
b 暗褐色土 締り強、色調暗め、ロームブロック・粒(1cm以下)・焼土(5mm以下)少し含む

c 暗褐色土 締り強、ローム粒僅か

d 穴丸 黒褐色土 若干灰色味が有り、含有物はローム粒・焼土(3mm以下)僅かのみ

第18図 滝道跡第17地点 H23・H25号住居跡・掘立柱建物跡 (1/60)

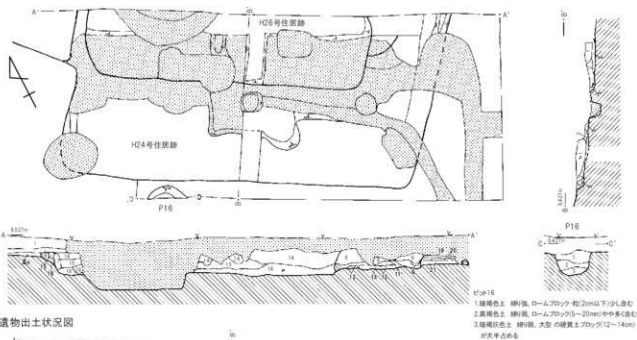
遺物出土状況図



微細図



第19図 流遺跡第17地点 H23・H25号住居跡遺物出土状況図 (1/60)、微細図 (1/30)



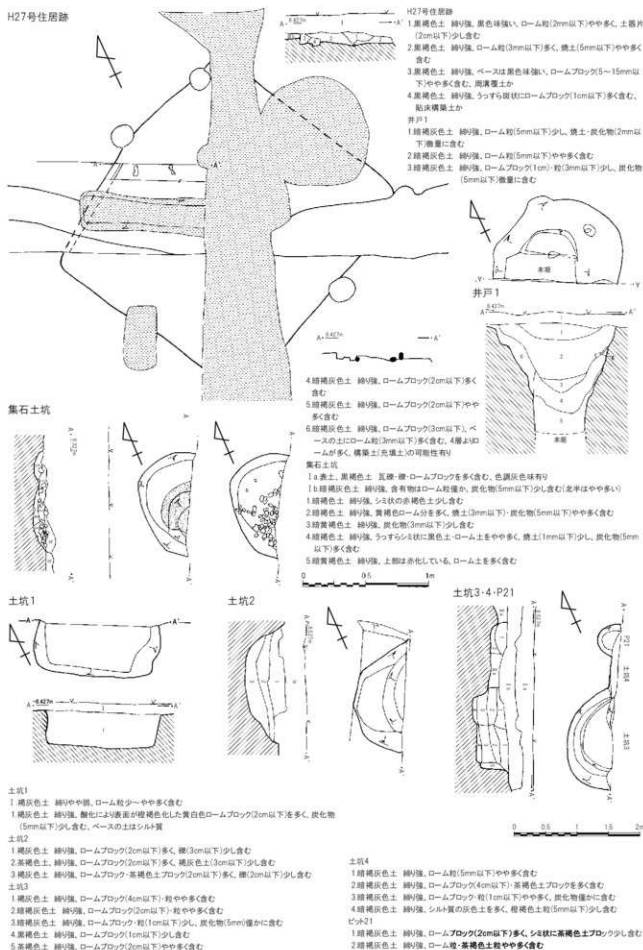
遺物出土状況図



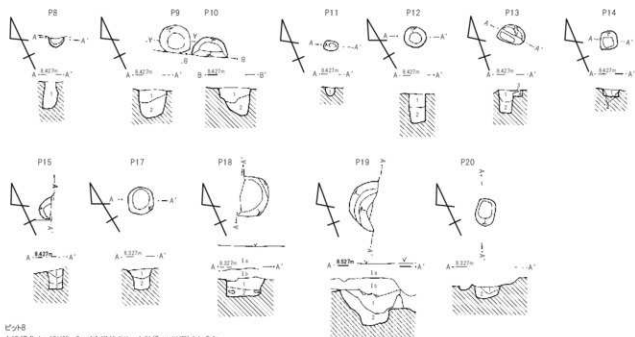
微細図







第21図 流遺跡第17地点H27号住居跡(1/60)、集石土坑(1/30)、井戸・土坑・ピット(1/60)



ピット8

1 暗褐色土 締り強、うっすら粒状のローム粒(5mm以下)少し含む

ピット9-11-12-14-15

1 黒褐色土 締り強、ロームブロック(1cm以下)多く含む

2 暗褐色土 締り強、うっすら粒状(ロームブロック1cm以下)多く含む

ピット10

1 黒褐色土 締り強、P9の1層に似る、ロームブロックは3cm以下と大きい

2 黒褐色土 締り強、ロームブロック(2cm以下)やや多く含む

ピット12

1 暗褐色土 締り強、ローム粒・焼土(むしろ土器碎片)少し含む

2 暗褐色土 締り強、ローム粒少し含む

3 黒褐色土 締り強、ローム・焼土少し含む

4 暗黄褐色土 締り強、ローム土主体、シズクに黒褐色土少し含む

ピット17

1 黒褐色土 締り強、ローム粒少し含む、灰色味有り、Iに似る

2 黒褐色土 締り強、色調は明るい、ややうっすら粒状(ロームブロック1cm以下)やや多く含む

ピット18

1 a 黄土、黒褐色土 瓦礫・漆・ロームブロックを多く含む、色調灰色味有り

b 暗褐色土 締り強、含有物(ローム粒含む、皮化物5mm以下)少し含む(北半はやや多い)

1 暗褐色土 締り強、ロームブロック(粒1cm以下)やや多く含む

2 暗褐色土 締り強、うっすら粒状(ロームブロック(粒1cm以下)やや多く含む

ピット19

1 暗褐色土 締り強、ローム粒(5mm以下)少し含む、やや隙間目立つ

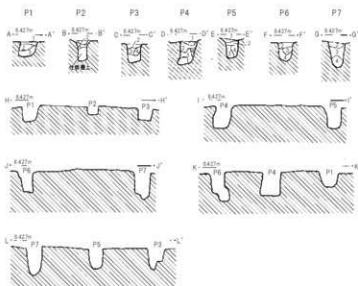
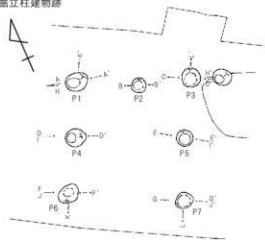
2 暗褐色土 締り強、ロームブロック(粒1cm以下)やや多く、色調明るい

ピット20

1 黒褐色土 締り強、厚く粒状(ロームブロック(2cm以下)多く含む

2 黒褐色土 締り強、薄く粒状(ローム粒(5mm以下)やや多く含む

掘立柱建物跡



ピット1-7

1 黄褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土・ローム粒(2mm以下)やや多く、焼土・皮化物(2mm以下)少し含む

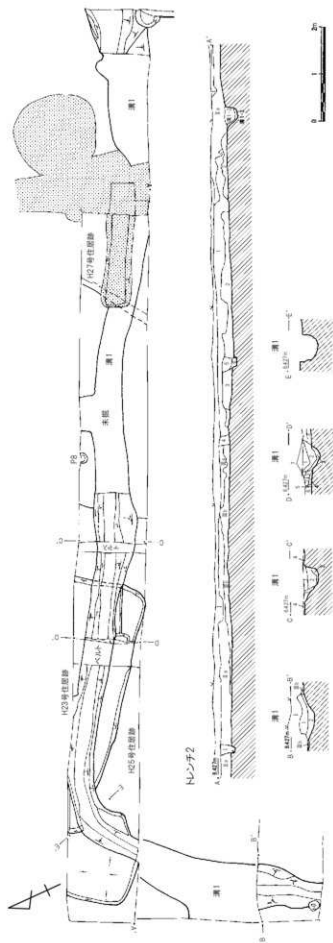
2 褐色土 締り強、粘性有、焼土(2mm以下)少し含む

3 黒褐色土 締りやや弱、粘性有、暗褐色土も含み、ブロック状でボソソしている

4 黒褐色土 締り強、粘性有、うっすら粒状に暗褐色土ブロックを含む



第22図 滝道跡第17地点ピット・掘立柱建物跡(1/60)



## トレンチ2

1 黄土及び埋土、褐色土、粘土層にて、粘土層が中心、粘土層が中心、下部に灰色シスト、粘土を含む  
 2 黒褐色土、砂質土、色澤不明、ラッパ型灰石にローム状や中多量含む、黄土少し含む  
 3 黒褐色土、砂質土、色澤不明、ラッパ型灰石にローム状(5mm以下)多く含む、空層目立つ  
 4 黒褐色土、砂質土、粘土や中層  
 5 黒褐色土、砂質土、粘土や中層

1 黒褐色土、砂質土、粘土や中層  
 2 黒褐色土、砂質土、粘土や中層、ローム状(5mm以下)多く含む  
 3 黒褐色土、砂質土、粘土や中層、ローム状(5mm以下)多く含む  
 4 黒褐色土、砂質土、粘土や中層、ローム状(5mm以下)多く含む、粘土層が中心を占める  
 5 黒褐色土、砂質土、粘土や中層、ローム状(5mm以下)多く含む、粘土層が中心を占める  
 6 黒褐色土、砂質土、粘土や中層、ローム状(5mm以下)多く含む  
 7 黒褐色土、砂質土、粘土や中層、ローム状(5mm以下)多く含む

1 黒褐色土、砂質土、粘土や中層、ローム状(5mm以下)多く含む、粘土層が中心を占める

2 黒褐色土、砂質土、粘土や中層、ローム状(5mm以下)多く含む、粘土層が中心を占める

3 黒褐色土、砂質土、粘土や中層、ローム状(5mm以下)多く含む、粘土層が中心を占める

4 黒褐色土、砂質土、粘土や中層、ローム状(5mm以下)多く含む、粘土層が中心を占める

5 黒褐色土、砂質土、粘土や中層、ローム状(5mm以下)多く含む、粘土層が中心を占める

6 黒褐色土、砂質土、粘土や中層、ローム状(5mm以下)多く含む、粘土層が中心を占める

7 黒褐色土、砂質土、粘土や中層、ローム状(5mm以下)多く含む、粘土層が中心を占める

## D-D'

1 黒褐色土、砂質土、粘土や中層、ローム状(5mm以下)多く含む  
 2 黒褐色土、砂質土、粘土や中層、ローム状(5mm以下)多く含む、粘土層が中心を占める  
 3 黒褐色土、砂質土、粘土や中層、ローム状(5mm以下)多く含む、粘土層が中心を占める  
 4 黒褐色土、砂質土、粘土や中層、ローム状(5mm以下)多く含む、粘土層が中心を占める  
 5 黒褐色土、砂質土、粘土や中層、ローム状(5mm以下)多く含む、粘土層が中心を占める  
 6 黒褐色土、砂質土、粘土や中層、ローム状(5mm以下)多く含む、粘土層が中心を占める  
 7 黒褐色土、砂質土、粘土や中層、ローム状(5mm以下)多く含む、粘土層が中心を占める

第23図 流道跡第17地点溝1 (1/80)

第15表 滝道跡第17地点井戸一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
井戸1	不明	205 × (132)	80 × 34	173.1	

第16表 滝道跡第17地点集石土坑一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
集石土坑1	不明	82 × (41)	30 × (8)	9.6	

第18表 滝道跡第17地点 ビット一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	方形	34 × 29	20 × 15	24.9	
P2	円形	23 × 23	16 × 15	15.5	
P3	円形	30 × 28	19 × 18	20.3	
P4	方形	30 × 29	17 × 14	39.2	
P5	円形	26 × 25	18 × 12	33.8	
P6	楕円形	34 × 27	18 × 13	32.7	
P7	方形	26 × 24	19 × 18	34.0	
P8	不明	24 × (14)	13 × (9)	27.1	
P9	円形	47 × 42	26 × 26	45.3	
P10	不明	56 × (30)	37 × 15	43.7	

第17表 滝道跡第17地点土坑一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
土坑1	不明	199 × (82)	167 × (72)	50.2	
土坑2	不明	178 × (80)	91 × (17)	42.9	
土坑3	不明	163 × (71)	34 × (4)	59.0	

第19表 滝道跡第17地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

調査地	出土遺物名	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・その他	推定産地	推定年代
1		磁器 / 小杯	6.9	3.0	4.8	ロクロ成形 / クロム・黄色銅版絵付 / 竹葉文	瀬戸・美濃	1890年代～
2		磁器 / 小杯	6.7	3.1	4.2	ロクロ成形 / コバルト染付 / 口縁外・高台部に蒔絵	瀬戸・美濃	1870年代～
3	土坑3	磁器 / 小杯	7.0	3.4	4.3	ロクロ型打成形 / 銅版絵付・正円子 / 菊水文	瀬戸・美濃	1890年代～
4		磁器 / 小杯	7.0	2.5	2.7	ロクロ成形 / コバルト染付 / 高台に菊雲文 / 底裏に銘	瀬戸・美濃	1870年代～
5		土製品 / 人形	2.8	2.4	1.4	型合わせ成形	在地	1790～1890年代
1		土器(瓦質) / 甕倉火鉢底蓋	25.2	22.0	2.0	タタラ成形 / 受部貼付	在地	近代～
2	遺構外	磁器 / 小杯	5.1	3.0	4.1	ロクロ成形 / 外クロム緑 / 黒・緑土絵花文 / 底裏赤土絵「九谷」銘	九谷	近代～
3		土製品 / 泥メンチ	2.6	2.1	0.7	型抜き成形 / 裏面に指部瓦直	在地	1790～1890年代

## 25号住居跡出土遺物

いわゆる五領期のものである。1は蓋形土器。つまみ部は完形。下部口縁部径(底径)20cm。つまみ部先端から2/3は現存。下部口縁部内外面ともに横位にヘラ磨き。外面の中央部は斜めヘラ削り。工具の角が斜めの筋となる。内面口縁部(底径部)から上方へ約2/3は、横ヘラ磨きされ赤彩の範囲に重なる。その上方は斜めに下方にヘラナデ、つまみ状の狭い箇所は指頭による横ナデで整形。色調は黄褐色で、外面つまみ部を中心に黒斑が付く。外面は凹凸があって、丁寧な作りとはいえない。いわゆる北陸系の土器。

2は、口径(1/8現存)19.8cm。「く」の字口縁の壺形土器。口唇部先端と「く」の字部に縦に5mm間隔で刻み加えられている。内外面はハケ目調整。胎土に黄白色の小砂利が混じる。色調灰褐色。西日本系統の土器。3は、胴部径21.5cm。底部径6.3cm。壺形

土器の胴下半部。胴下半部の輪積み接合面で割れている。同上部の接合以後に内面の横ハケを胴上半に付けたものの一部が付いたもの。底部内面の底は木口状工具で削したもので、工具先端が放射状に付く。内面上部は木口状工具によりナデあげている。色調黄褐色で砂利が多量に混じる。

4は、大形の埴形土器底部。底径3.3cm。底部はヘラで伏った後ナデにより整形。色調茶褐色。胎土は石英などが混じるがよく精錬されている。5は、小形埴形土器の底部。底部は直径2.3cm程度で平坦に整形されている。色調黄白色で粘板岩などの小砂利が混じる。6は、壺形土器の底部破片。残存部少なく、詳細不明。

7・8は、台付き甕の脚部破片。ともに風化が激しく器面調整などは観察できない。7は非常に細かい白色の砂利を含む。色調暗灰色。S字口縁の台付き甕

の可能性が高い。8は外面は縦下手削り、内面は木口上工具により横へら削り調整。在地の台付き裏。

#### 26号住居跡出土遺物

1は、土師器環。口径(1/5現存)10cm。器高3.0cm。底部は丸底。外面は全体にへら削りで調整。内面には工具の当てによる2条の沈線があるが全体にへ

ラナデ調整。色調暗褐色。

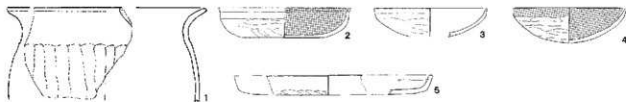
#### 27号住居跡出土遺物

1は、土師器長甕。胴部径の1/5の現存。口縁部の内外面は強い横ナデ。胴部は縦へら削りにて調整。砂粒を多量に含み、雲母が少量混じる。色調黄白褐色。土抗3・遺構外(第19表参照)

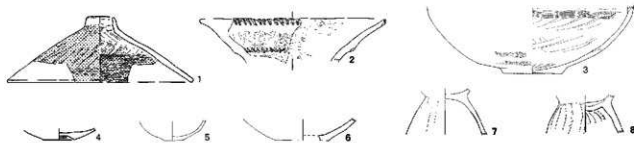
#### 23号住居跡



#### 24号住居跡



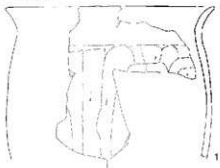
#### 25号住居跡



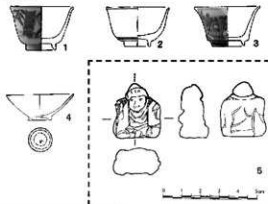
#### 26号住居跡



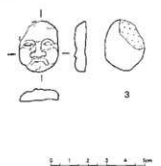
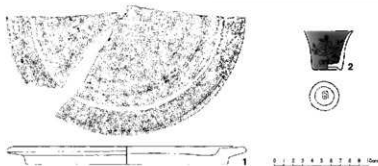
#### 27号住居跡



#### 土抗3



#### 遺構外



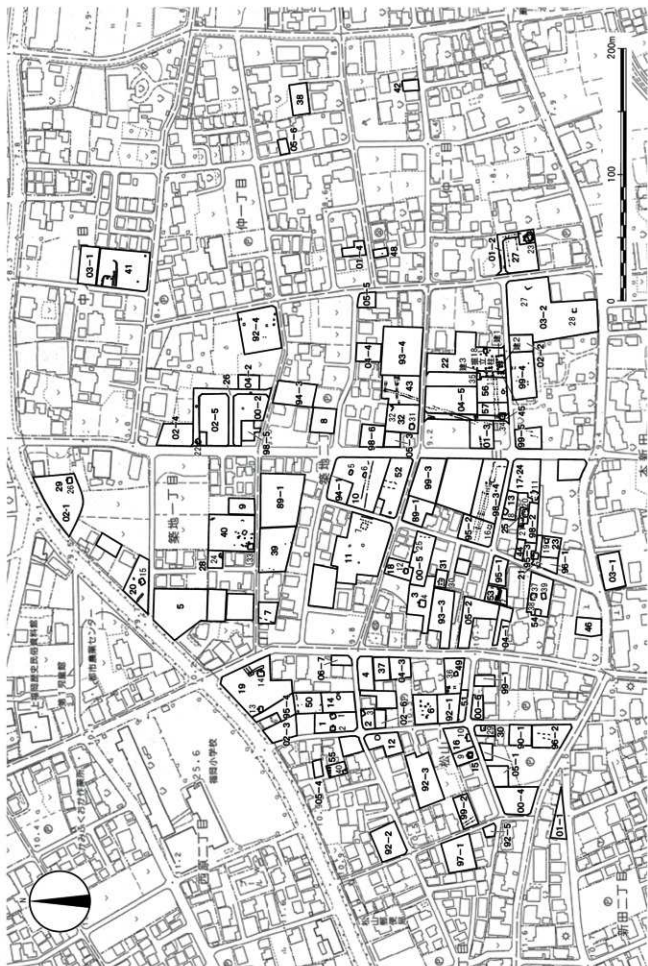
第24図 滝遺跡第17地点出土遺物(1/2・1/4)











第26図 松山道跡遺構分布図 (1/3,000)

## II 松山遺跡第51地点

## (1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年3月29日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置するが、申請地の北側は1992年4月17日試掘調査済みのため、残りの未調査区域について原因者と協議の結果、遺構などの存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2010年5月10日～13日に行った。幅約1.5mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果ピット1基を検出した。遺構確認面までの深さは約70cmである。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

## (2) 遺構と遺物

P1は斜向ピットで深さ70cmまで掘ったが、完掘はしていない。確認面径57×42cmである。

## III 松山遺跡第52地点

## (1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年6月8日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

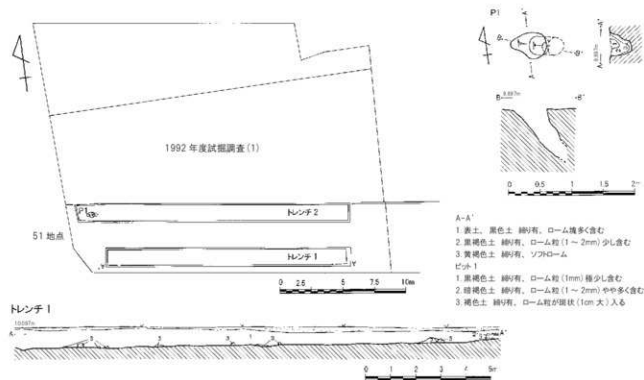
試掘調査は同年8月26日～9月3日まで幅約1.5mのトレンチを6本設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。時期不明の落とし穴1基と溝を検出したが遺物は出土しなかった。遺構確認面までの深さは約30～60cmである。

旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

## (2) 遺構と遺物

## ① 落とし穴

調査区の南西隅に位置する。平面形態は隅丸長方形で、確認面径165×125cm、底径136×76cm、確認面からの深さ88cmである。



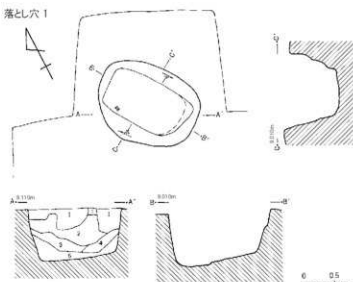
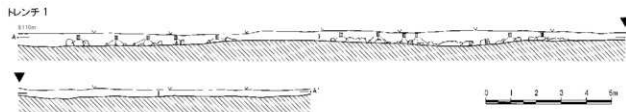
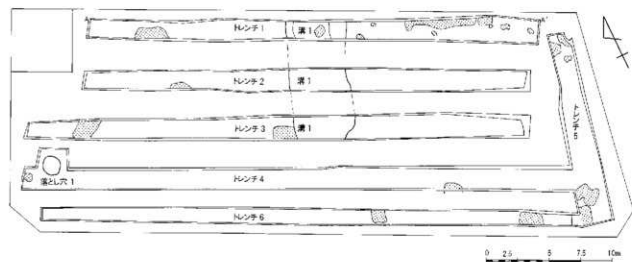
第27図 松山遺跡第51地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)、ピット(1/60)

## ②溝1

調査区北側、南北方向に10mにわたって検出した。上幅470～500cm、下幅10～15cm。断面は西側が急で、東側が緩やかな「V字形」を呈する。確認面からの深さ60cm前後である。

第22表 松山遺跡第52地点出土土物観察表 (単位 cm・g)

発掘地	遺構名	種別	長さ	幅	厚さ	重量	石材/推定生産地	推定年代	残存/備考
1	溝1	磁石	6.3	2.9	2.2	65.32	流紋岩	時期不明	一部欠損
1	遺構外	磁石	5.3	2.1	2.0	37.89	砂岩	時期不明	定形



A-A'

I. 表土、黒色土 締り強、ローム粒(～3mm)多く含む

II. 褐色土 締りやや有、ローム粒(～5mm)種多く含む

III. 黄褐色土 ソフトローム

落とし穴

I. 表土

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、含有物は少ない

2. 黒褐色土 締り強、粘性有、ラッパら層状にローム土を少し含む

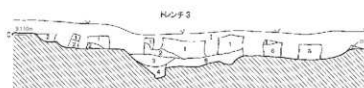
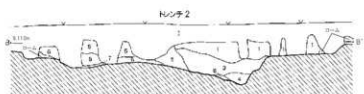
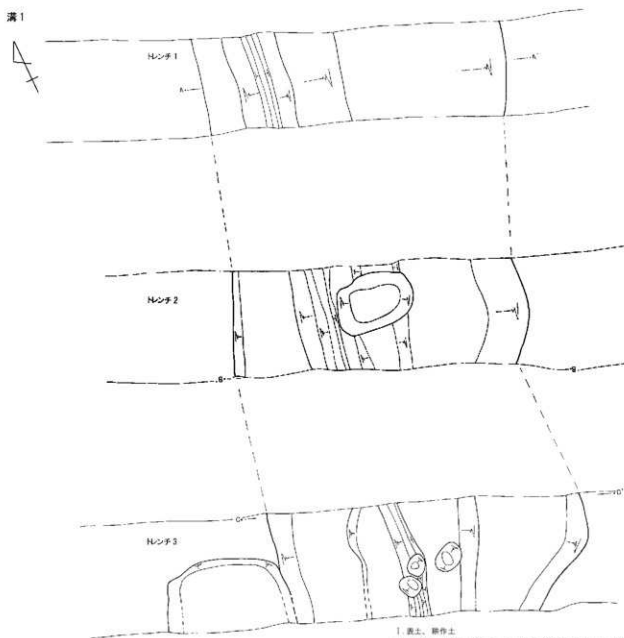
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、ラッパら層状にロームブロック・粒(1cm以下)やや多く含む

4. 黒褐色土ベース 締り強、粘性有、ローム土多く、ロームブロック(2cm以下)少し含む、締り地より弱め

5. 黒褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック・粒(1cm以下)やや多く含む

第28図 松山遺跡第52地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)、落とし穴(1/60)

溝 1



1. 表土、耕作土  
 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック(1cm)少し、ローム粒(2mm以下)やや多く含む  
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック・粒(5~10mm)多く含む  
 3. 黒褐色土ベース 締り強、粘性やや弱、ロームブロック(6cm)主体  
 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)多く含む  
 5. 黒褐色土 締り強、粘性やや弱、ロームブロック(1cm)、ローム粒(3mm以下)やや多く含む  
 6. 黒褐色土 締り強、粘性やや弱、ロームブロック(4cm以下)多く含む  
 7. 黒褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)少し含む



第 29 図 松山遺跡第 52 地点溝 (1/60)、出土遺物 (1/4)



## IV 松山遺跡第53地点

## (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年8月11日付でふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構などの存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2010年9月10日～21日まで行った。幅約1mのトレンチ6本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。建築予定地西側で近現代の農耕用穴蔵1基と溝4条を確認した。遺構確認面までの深さは約40cmである。なお、旧石器時代の確認調査は行ってない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

## (2) 遺構と遺物

## ①穴蔵

調査区の西側中央に位置する。平面方形の竪坑の南

北方向に横穴があるが、横穴は天井まで埋め戻されていた。横穴は掘削せず未調査である。竪坑の上端78×70cm、下端55×48cm、現地表面からの深さ240cmである。

## ②溝

4条検出した。いずれも調査区南側、東西方向に10m以上あり、調査区域外へ延長すると思われる。

溝1aは上幅35～70cm、下幅15～35cm。断面は「U」字形、確認面からの深さ25～30cm前後である。溝1bより新しい。

溝1bは上幅35～70cm、下幅15～35cm。断面は「U」字形、確認面からの深さ30～35cm前後である。溝2は上幅50～80cm、下幅45cm。壁は垂直、確認面からの深さ35cmである。

溝3は上幅50～55cm、下幅45cm。壁は垂直、確認面からの深さ25cmである。

第23表 松山遺跡第53地点出土遺物観察表 (単位cm・g)

掲載No	出土遺構名	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・その他	推定産地	推定年代
1	遺構外	磁器/小坏	6.9	3.0	4.3	ロクロ成形/刷版絵付/松竹梅文	瀬戸・美濃	1890年代～
2		磁器/碗	(8.0)	2.9	4.7	ロクロ成形/ゴム版絵付/花文/底裏にプリント「建國」銘	瀬戸・美濃	1920年代～
3		磁器/湯呑	(7.3)	3.4	7.7	ロクロ成形/白染染付/草花文/胴部・底裏に青上絵「柳川」銘	瀬戸・美濃	1930年代～
4		陶器/急須	5.5	4.9	6.3	ロクロ・貼付成形/透明釉/軸下彫「藤岡/パン蒸菓子製造」字	不明	近代～
5		陶器/蓋類	4.6	—	1.1	型打成形/透明釉/胎土:白色	不明	近代～
6		焼締陶器/急須蓋	8.1	—	2	型打成形/貼付成形/撫み部に穿孔/陰刻草(藤)文	万古	1940年代～
7		土器/七厘引き戸	8.2	7.8	1.2	タタラ成形	東海	近代～

## 溝 1a

- 1 黒褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)少し含む
- 2 黒褐色土 粘り強、粘性有、ロームブロック(2cm以下)・ローム粒(5mm以下)多く含む
- 3 黒褐色土 粘り強、粘性有、ローム土を多く含む、黄灰色味を帯びる、ロームブロック・粒(5mm以下)やや多く含む
- 4 黒褐色土 粘り強、粘性有、ローム土を多く含む、黄灰色味を帯びる、ローム粒(2mm以下)少し含む
- 5 黄褐色土 粘り強、粘性有、ソフトローム主体

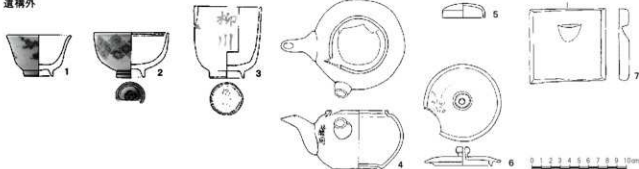
## 溝 1b

- 1 黒褐色土 粘り強、粘性有、ロームブロック(5～50mm)少し、ローム粒(3mm以下)やや多く含む
- 2 黒褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒(5mm以下)多く含む

## 溝 2

- 1 耕作土、黒褐色土、ロームブロック・粒少し、硬い土粒を含み、ややのりボン
- 2 耕作土、黒褐色土、ローム粒(2mm以下)やや多く含む、全体の色調黄灰色味を帯びる
- 1 黒褐色土 粘り強、粘性有、ロームブロック(1～2cm)少し、ローム粒(3mm以下)やや多く含む
- 2 黒褐色土 粘り強、粘性有、ロームブロック・粒(10cm以下)少し含む

## 遺構外



第31図 松山遺跡第53地点出土遺物(1/4)

## V 松山遺跡第55地点

## (1) 調査の概要

調査は宅地造成に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年12月10日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の北西部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。試掘調査は2011年1月17日から幅約1.5mのトレンチを2本設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、住居跡などの遺構を確認した。遺構確認面までの深さは約50cmで、盛土等による遺構の保存が困難なため、補助事業の対応で1月18日から1月31日まで本調査を行った。奈良平安時代の住居跡1軒、掘立柱建物跡1棟を検出した。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成など記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

## (2) 遺構と遺物

## ① H 40号住居跡

【位置・形状】調査区の南西隅に位置する。9.5m北に掘立柱建物跡がある。南側と西側は調査区域外になる。平面形態は方形もしくは長方形で主軸方位はN-90°-Eである。規模は主軸方向に東西3.0m×南北3.2m検出した。確認面からの深さ30cmである。竈は東壁から70cm突出する。

【竈】住居跡東壁に構築される。竈は灰色の粘土で構築され、天井部は崩落し袖の一部が残る。竈内部の底面に焼土面が残る。

焚口からの奥行き95cm、袖部の最大幅123cmである。焚口幅65cm、竈内部は幅46cm、床面からの深さは約9cmである。底面から須恵器環が出土した。

【土坑】1基検出した。竈の1.2m西に在り、南側は調査区域外。方形もしくは長方形を呈する。東西長69cm、床面からの深さ39cmである。土器が集中する。

【貼床・周溝】周溝は住居の北・東壁際に巡る。上幅26~30cm、下幅14~18cm、深さ4~11cmである。貼床は床面全体に5~15cm厚で貼られる。

【掘り方】壁際にかけて深く掘られる。

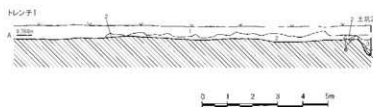
【遺物出土状況】遺物はほぼ全面に散在する。

【時期】9世紀。

## ② 掘立柱建物跡

【位置・形状】調査区北端に位置する。主軸方位はN-5°-E、3間×1間以上の規模があり、北側の調査区域外へ広がる。検出した規模は柱の芯間で東西6.4m×南北2.3m。柱の中心間は2.1~2.3mである。各柱穴ともに黒褐色土にロームブロックが多量に混入した土を版築している。P1からは須恵器環破片が出土している。

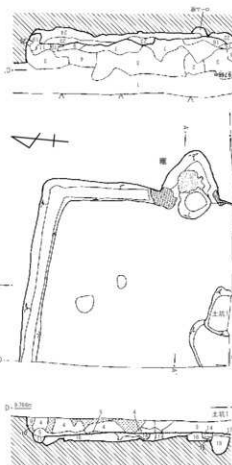
【時期】9世紀。



- 1 赤土、暗褐色土 埴り有、ガラスプラスチック等が入る。本層は溝の埋土になる。焼土
- 2 埴りやや有、黄褐色土ローム塊(2~5cm)多量混入の混合土
- 3 黄褐色土 埴りやや有、ローム粒(1~3mm)少し含む
- 4 暗褐色土 埴りやや有、ローム粒(1mm)多く含む
- 5 埴り有、黄褐色土ローム塊(1~3cm)大の混合土
- 6 地山 黒ガク層-ソフトローム

第32図 松山遺跡第55地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)

H40号住居跡

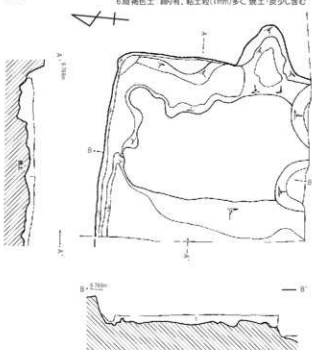


H40号住居跡 A-A'・D-D'

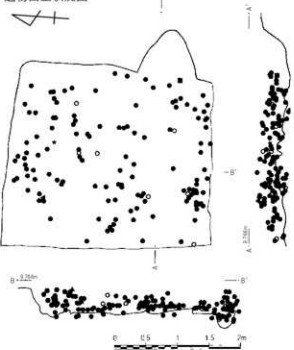
- 1 黒褐色土 締りやや中、ローム粒(1mm)・焼土粒(1-2mm)・炭(1-2mm)少し含む
- 2 黒褐色土 締りやや中、ローム粒(1-2mm)やや多く、焼土粒(1-2mm)・炭(1-2mm)少し含む
- 3 黒褐色土 締り有、ローム粒(1-3mm)多く、焼土粒(1-2mm)・炭(1-2mm)少し含む
- 4 黒褐色土 締りやや中、ローム粒(1mm)少し含む
- 5 緑褐色土 締り有、硬い、ローム粒(1-5mm)多く含む
- 6 緑褐色土 締り有、粘土粒(1mm)多く、焼土・炭少し含む

- 7 緑褐色土 締り有、粘土粒(1-3mm)多く、焼土粒(1-3mm)やや多く、炭(1-3mm)少し含む
- 8 黒褐色土 締り有、ローム粒(1-3mm)多く、焼土粒・炭(1-3mm)やや多く含む
- 9 黒褐色土 締り有、ローム粒(1-3cm)少し含む
- 10 黒褐色土 締り有、硬い、ローム粒(1mm以下)少し含む
- 11 黒褐色土 締り有、ローム粒(1-10mm)多く、焼土粒(1mm)少し含む
- 12 黒褐色土 締りやや中、ローム粒(1-3mm)多く含む
- 13 褐色土 締り有、ローム粒(1-5mm)種多く、ローム塊(1-2cm大)多く含む
- 14 緑褐色土 硬く硬い、ローム粒(3-5mm)種多く、焼土粒(1-3mm)多く、炭(2mm)少し含む
- 15 黄土ブロック主体 締り有
- 16 黒褐色土 締り有、硬い、ガサガサ、ロームブロック(3-10cm大)と黒褐色土の層合土
- 17 緑褐色土 締り有、硬い、ローム粒(1-10mm)種多く、焼土粒(1-3mm)やや多く含む
- 18 黒褐色土 締り有、ロームブロック(1-3cm大)少し、ローム粒(1-5mm)多く、焼土粒(1-3mm)少し含む
- 西壁・南壁 B-B'・C-C'
- 1 黄土、黒褐色土 締り有
- 2 黄土、褐色土 締り有、種乱、ばら出
- 3 黄土、黒褐色土 締り有、ロームブロック(1-3cm大)やや多く、ローム粒(1-5mm)多く含む
- 4 黄土、黒褐色土 締り有、ロームブロック(1-3cm大)粒(1-5mm)少し含む
- 5 黄土、黒褐色土 締り有、ロームブロック(1-3cm大)粒(1-5mm)少し含む
- 6 黄土、黒褐色土 締り有、ローム粒(1-5mm)少し含む
- 7 黄土、黒褐色土 締り有、ローム粒(1-3mm)多く、焼土粒(1-3mm)炭(1mm)少し含む
- 8 黄土、黒褐色土 締り有、ローム粒(1-3mm)少し、焼土粒(1-3mm)炭(1mm)種少し含む
- 9 黄土、黒褐色土 締りやや中、ローム粒(1-3mm)多く含む
- 10 黄土、緑褐色土 締り有、ローム粒(1-3mm)少し含む、種乱
- 11 黄土、緑褐色土 締り有、ローム粒(1mm)少し含む
- 12 黄土、黒褐色土 締り有、ローム粒(1-3mm)・焼土粒(1-5mm)多く、炭(1-3mm)少し含む
- 13 黄土、黒褐色土 締り有、ローム粒(1-3mm)種少し、焼土粒(1-5mm)種多く、炭(1-3mm)少し含む
- 14 黄土、黒褐色土(黒い) 締り有、ローム粒(1-3mm)・焼土粒(1-3mm)少し含む
- 15 黄土、黒褐色土 締り有、ローム粒(1-3mm)多く、焼土粒(1-3mm)少し含む
- 16 緑褐色土 締り有、ローム粒(1-5mm)・焼土粒(1-3mm)多く、炭(1-2mm)少し含む
- 17 緑褐色土 締り有、ローム粒(1-5mm)多く、焼土粒(1-3mm)少し含む
- 18 黒褐色土 締り有、ロームブロック(1-3cm大)少し、ローム粒(1-5mm)多く、焼土粒(1-3mm)少し含む
- 19 緑褐色土 締り有、ロームブロック(1-2cm大)少し、ローム粒(1-5mm)種多く含む
- 20 緑褐色土 締り有、硬い、ローム粒(1-5mm)多く、焼土粒(1-3mm)やや多く、炭(1-3mm)少し含む

掘方

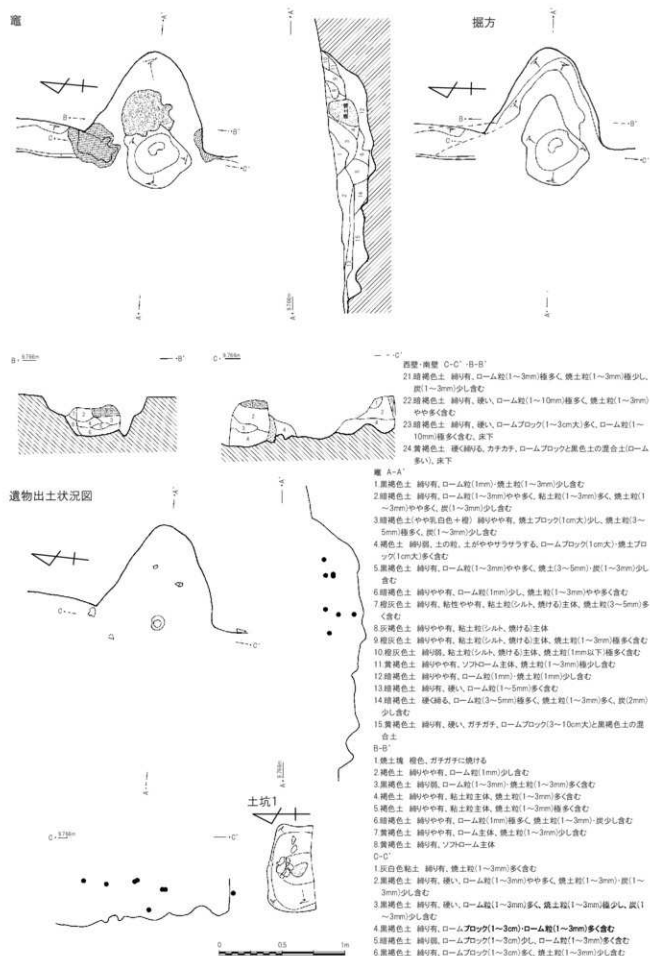


遺物出土状況図

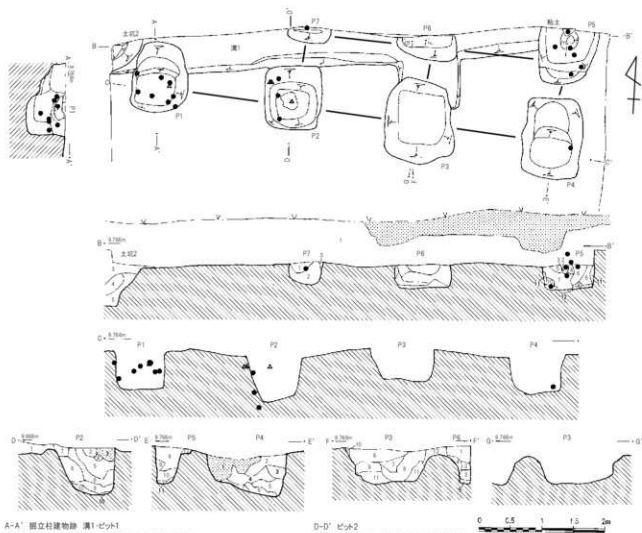


第33図 松山道跡第55地点 H40号住居跡・掘方・遺物出土状況図(1/60)





第34図 松山遺跡第55地点H40号住居跡窟・掘方・遺物出土状況図(1/30)



## A-A' 掘立柱建物跡 溝1ピット

- 1 暗褐色土 締りやや有、ローム粒(1~5mm)やや多く含む
- 2 黒色土 締りやや有、ローム粒(1mm)少し、粘土粒(1mm)以下やや多く、炭(1mm)極少含む
- 3 黒褐色土 締り有、ローム粒(1mm)少し、粘土粒(1mm)やや多く含む
- 4 灰白色粘土 締り有、粘土塊(1~3cm大)・粘土粒(1~3mm)多く、炭(1mm)やや多く含む
- 5 暗褐色土 締り有、ローム粒(1~3mm)・粘土粒(1~3mm)多く、炭(1mm)やや多く含む
- 6 暗褐色土 締り有、ローム粒(1~3mm)やや多く、ローム塊(1cm大)・粘土粒(1mm)極少含む
- 7 黒褐色土 締り有、ローム粒(1~5mm)極多、ローム塊(1~3cm大)少し含む
- 8 黒褐色土(やや明ぬい) 締り有、ローム粒(1~3mm)多く含む
- 9 黒褐色土 締り有、硬い、ローム粒(1~3mm)多く含む
- 10 黄褐色土 締り有、硬い、ローム塊(主体、褐色土混入)

## B-B'

- 1 表土 暗褐色土 締り有、ガラスプラスチック等が入る、北端は溝の堰土になる、焼土粒
- 2 黒褐色土 締りやや有、ローム粒(1~3mm)少量
- 3 暗褐色土 締り有、ローム粒(1mm)多量
- 4 黒褐色土とローム塊(1~3cm大)の混合土 締り有

## ピット5

- 2 灰白色粘土 締り有、粘性有、硬い、焼土粒(1mm)極少含む
- 3 褐色土 締りやや有、粘土粒(1~3mm)や多く含む
- 4 暗褐色土 締り有、ローム粒(1~3mm)やや多く含む
- 5 暗褐色土 締り有、硬く、ローム粒(1mm)多く、粘土粒(1mm)少し、焼土粒(1mm)極少、炭(1mm)少し含む
- 6 暗褐色土 締り有、硬い、ローム粒(1~3mm)多、焼土粒(1~3mm)炭(1mm)少し含む
- 7 黒褐色土(明ぬい) 締り有、ロームブロック(1~5cm)少し、炭(1~3mm)極多含む
- 8 暗褐色土 締り有、やや硬い、ローム粒(1mm)やや多く、焼土粒(1~3mm)極少、暗褐色土が入る
- 9 暗褐色土 締りやや有、ローム粒(1mm)少し含む
- 10 黒色土 締り有、ローム粒(1mm)多く、焼土粒(1mm)や多く、炭(1~3mm)少し含む
- 11 黒色土とロームブロックの混合土 締り有
- 12 黒褐色土 硬く、黒、ロームブロック(1~3cm大)極多含む

## ピット7

- 1 黒褐色土 締り有、ローム粒(1mm)少し含む
- 2 黒褐色土(明ぬい) 締り有、ローム粒(1~3mm)やや多く含む、暗褐色ブロックが混入
- 3 黒色土とロームブロックの混合土

## D-D' ピット2

- 1 表土 暗褐色土 ガラスプラスチック等が入る
- 2 暗灰色粘土 締り有、硬い、粘性有、黄赤粘土の塊、焼土ブロック(2cm大)含む
- 3 暗褐色土 締り有、ローム粒(1~10mm)多く、粘土粒(1~3mm)少し含む、焼土塊
- 4 灰褐色土 締り有、粘土粒(1mm)以下と暗褐色土の混合土
- 5 黒褐色土 締り有、ローム粒(1~10mm)多く、粘土粒(1~3mm)少し含む
- 6 暗褐色土 締りやや有、ローム粒(1~5mm)極多含む
- 7 暗褐色土 締り有、硬い、ローム粒(1mm)以下極少含む
- 8 黒褐色土 締り有、硬い、ローム粒(1~3mm)やや多く、炭状ソノアローム(1cm大)多く含む
- 9 黒色土 締りやや有、ローム粒(1mm)少し含む
- 10 黒褐色土 締り有、硬い、ロームブロック(1cm大)多、ローム粒(5mm)極多含む

## E-E' ピット4-5

- 1 腐乱 締り有、暗褐色土とロームブロック(1~5cm大)の混合土
- 2 暗褐色土 締り有、ロームブロック・粘土ブロック(1cm大)少し、焼土(生焼け)多く含む
- 3 暗褐色土とロームブロック(1cm大)の混合土、ローム粒(1~3mm)極多含む
- 4 黒褐色土 締り有、ローム粒(1~3mm)多く、焼土粒(1mm)少し含む
- 5 暗褐色土 締り有、ローム粒(1mm)多く含む
- 6 黒褐色土 締り有、ロームブロック(3cm大)多く含む
- 7 黄褐色土 締りやや有、ロームブロック(主体、褐色土混入)
- 8 暗褐色土 締り有、ローム粒(1~3mm)極多、炭(1mm)少し含む
- 9 黒褐色土 締り有、8層に暗褐色土ブロック(1~3cm大)混入
- 10 黒褐色土(やや明ぬい) 締り有、ローム粒(1~3mm)多含む
- 11 暗褐色土 締り有、硬い、ロームブロック(1cm)と2色土の混合土
- 12 黒色土とローム粒の混合土 締り有

## F-F' 溝1ピット3-6

- 1 暗褐色土 締りやや有、表土から隠れる、ローム粒(1~5mm)多く含む
- 2 黒褐色土 締り有、ローム粒(1mm)少し含む
- 3 暗褐色土 締り有、ローム粒(1~3mm)少し含む
- 4 黒褐色土 締り有、ロームブロック(1~3cm大)少し、ローム粒(1~3mm)多く含む
- 5 暗褐色土 締り有、硬い、ロームブロック(1cm大)少し、ローム粒(1~3mm)やや多く含む
- 6 暗褐色土 締りやや有、ロームブロック(3~10cm大)・ローム粒(1~3mm)多く含む、天地返された土
- 7 暗褐色土 締り有、ロームブロック(1cm大)少し、ローム粒(1~3mm)多く、焼土粒(5mm)極少含む
- 8 暗褐色土 締り有、硬い、ローム粒(1~3mm)多、炭(1mm)少し含む
- 9 暗褐色土 締りやや有、ローム粒(1~3mm)多く含む
- 10 暗褐色土 6層よりやや色調明ぬい
- 11 黒色土 締り有、ローム粒(1mm)極多含む
- 12 暗褐色土 締り有、ロームブロック(1cm大)少し、ローム粒(1~3mm)やや多く、炭(1mm)少し含む、別遺構、硬い土块か

第35図 松山遺跡第55地点掘立柱建物跡・土坑・溝 (1/60)

## H 40 号住居跡出土遺物

1～3は須恵器環形土器。1は、大略成形。口径12.5 cm、器高3.8 cm、底径6.3 cm。底部は回転系切りのみ。白色針状物質を含む比企窯跡産。内外面は滑らかに調整。外面中央部に幅4 mmのロクロ凹みがある。色調暗褐色。2は、現存1/2。口径12 cm、器高3.7 cm、底径7 cm。底部は回転系切りのみ。白色針状物質を含む。色調青灰色。2～3 mmの石英など砂粒を含む。内外面の調整は滑らか。全体に厚ぼったい。3は、口径12 cm (1/8 現存)、底径7.0 cm、器高3.8 cm。口唇部先端が緩くつまみだし外湾する。外面は非常に滑らかで、ロクロ痕の凹凸はない。胎土は非常に精練され、白色針状物質を含む。色調暗黄色。

4は、須恵器椀形土器。口径(現存1/8)14.8 cm、底径8.0 cm、器高6.3 cm。底部回転系周辺部回転系切り離し、周辺部回転ヘラ削り調整。内面下半部、外面下半部ともにロクロ痕が著しい。上半部は滑らか。白色針状物質を含む。色調灰白色。

第24表 松山遺跡第55地点土坑一覽表(単位 cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
土坑1	不明	75 × (37)	57 × (33)	39.0	
土坑2	不明	(50) × (48)	(16) × (13)	68.9	

5は、コの字口縁の武蔵型甕。口径(現存1/10)20 cm。口唇部～12 mm下まで強い横ナデで、その下は指頭の圧痕、さらにその下方に横位ヘラ削り。白色の砂粒を混じる。6・7は小形台付き甕。6は口径(現存1/12)11.8 cm。コの字口縁で、コの字部分は全体に横ナデ。胴部は上半が横位の、下半が斜め下方にヘラ削り。7は口縁部が欠。6と同じ整形だが、同一個体ではない。内外面にカーボンがこびりついている。

8は、覆土中から出土した石鏝。石質は、チャートで完形。両側面は一直線で、側面の長さは2 cm。幅は、13 mm。厚みは、3.5 mm。Uの字状の挟り長は、3 mm。左側面には、第一次剥離面が残る。

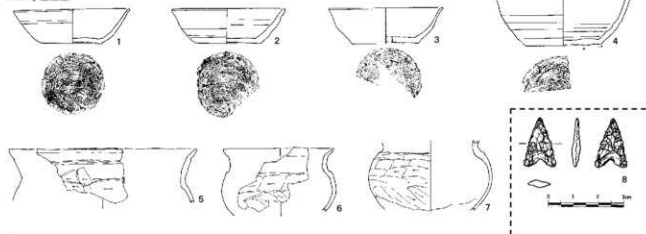
## 土坑1出土遺物

1は須恵器蓋形土器、口径(現存1/3)18.3 cm。高さ3.2 cm。色調暗青色白色針状物質を多量に含む。3 mm程度の石英等を含む。上面に回転系切りにより切り離し痕、上面・円の矢印の範囲は周辺部回転ヘラ削り調整痕あり。

第25表 松山遺跡第55地点掘立柱建物跡ピット一覽表(単位 cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	長方形	106 × 83	70 × 21	29.4	
P2	方形	100 × 90	30 × 24	78.7	
P3	方形	120 × 97	91 × 80	56.4	
P4	長方形	127 × 96	66 × 47	68.9	
P5	不明	94 × (90)	9 × 6	65.7	
P6	不明	95 × (39)	80 × (25)	46.6	
P7	不明	67 × (25)	48 × 4	31.1	

H40 号住居跡



土坑1



第36図 松山遺跡第55地点H40号住居跡・土坑1出土遺物(2/3・1/4)

## 第6章 東久保遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

東久保遺跡は入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約500～1,000m程下った右岸に位置している。標高17～20mで現谷底との比高差は3～4mを測る。福岡江川の左岸の南面は急傾斜を成す。本遺跡をのせる右岸の台地は県道東久保・大井線を境に南北および西側に緩やかに傾斜する。遺跡の南側縁辺には用水路が流れており、用水路以前にも流水があったものと考えられる。

遺跡周辺は急激な市街化によって工場や住宅、市立亀久保小学校が建ち、区画整理事業が実施され今後更に開発が予想される。

周辺の遺跡は、本遺跡と福岡江川の間に平安時代の遺物を出土する江川東遺跡が位置する。西側約50mに江川南遺跡、南側に隣接して亀久保跡遺跡が位置する。本遺跡の調査は1976年以来2013年12月現在、70地点で試掘調査および発掘調査を行っている。これまでの調査で、旧石器時代礫群、縄文時代の落とし穴・土坑・集石土坑など、中近世は溝や柵跡が確認されている。

### II 東久保遺跡第69地点

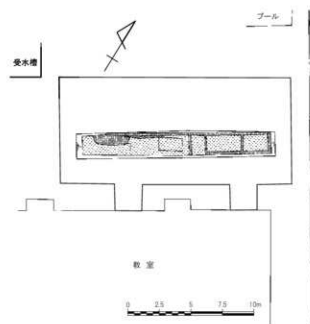
#### (1) 調査の概要

調査は小学校増築に伴うもので、ふじみ野市長より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年12月1日付け

で市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の東部に位置するため、原因者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2011年3月28日に行った。幅約2mのトレンチ1ヶ所を設定し、重機で表土除去後に表面精査を行ったが遺構遺物は確認されなかった。

遺構確認面までの深さは約150cmである。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。



第38図 東久保遺跡第69地点調査区地図 (1/300)



第37図 東久保遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

## 第7章 駒林遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

駒林遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の右岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地し、標高12～15m前後の平坦地を形成する。もともと遺跡の範囲は南北300m、東西800mの範囲であったが、2002年から2004年に行った駒林土地区画整理事業に伴う試掘調査の結果、大溝を検出した南北160m、東西80mの範囲に遺跡を縮小し、さらに地下式坑を検出した周辺を駒林新田前遺跡として独立させ、新たな包蔵地として2004年3月に追加した。第3地点で検出した溝と過去の試掘調査で検出した溝の配置を再検討した結果、一辺140～160mの台形区画に溝が巡る事が明らかとなり、2008年2月に遺跡範囲の変更増補を行った。区画整理後は開発が進み、宅地と商業地に変貌を遂げ部分的に畑が残っている。

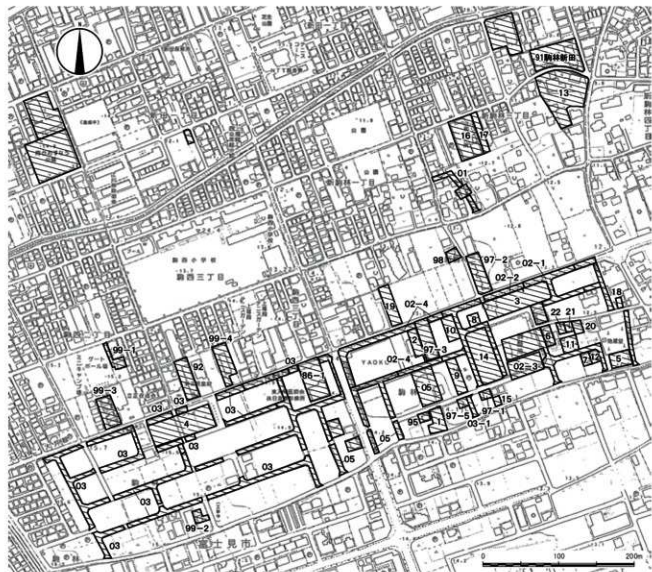
周辺の遺跡は、北側に葺石と板碑を検出した駒林中世墳墓、東側に地下式坑を検出した駒林新田前遺跡、500m下流に福岡新田遺跡、南側にも地下式坑を検出した富士見市の稲荷久保北遺跡がある。2002年以降の試掘調査の結果、幅5m、深さ2mの大溝や茶毘跡、縄文時代の集石土坑等を検出する。

### II 駒林遺跡第11地点

#### (1) 調査の概要

調査は個人住宅の建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年3月1日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の南東部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は同年4月12日から21日まで、幅約1



第39図 駒林遺跡の地形と調査区(1/5,000)

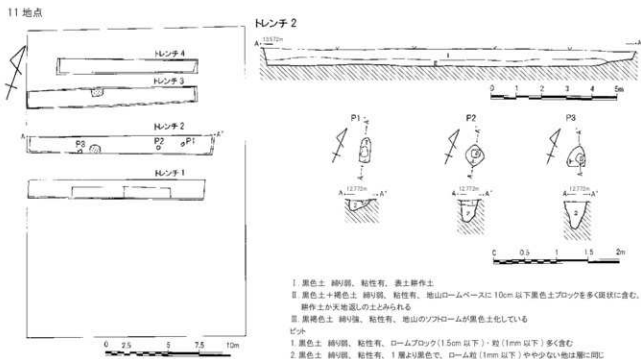
～1.5 mのトレンチ4本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。遺構らしき覆土3ヶ所を検出したので確認したが、遺物の出土はなく、時期不明のピットであった。遺構確認面までの深さは約60 cmである。写真撮影・全測図作成等記録保存を行い、

埋め戻して調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

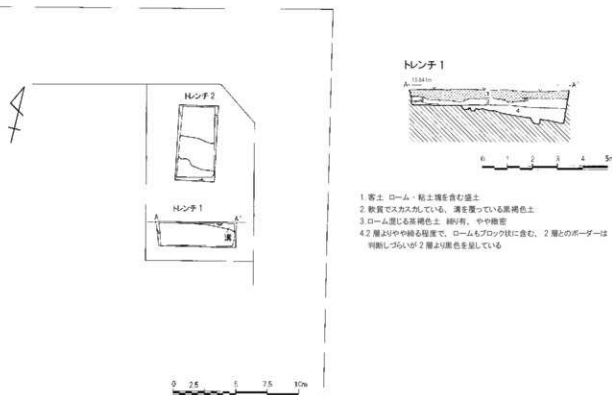
## (2) 遺構と遺物

### ①ピット

3基検出した。出土遺物なく時期不明。



## 12 地点



第40図 胸林遺跡第11・12地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)、ピット(1/60)

### Ⅲ 駒林遺跡第12地点

#### (1) 調査の概要

調査は個人住宅の建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年7月2日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の南東部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は同年7月14日に行い、幅約2mと3mのトレンチを1本ずつ設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。遺構らしき覆土を検出したので確認した結果、調査区東側の5地点で検出した大溝と連続する可能性のある東西方向の溝であった。遺構確認面までの深さは約90cmであり、30cmの保護層が確保できるため、遺構保存を行うこととした。写真撮影・全測図作成等記録保存を行い、埋め戻して調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

#### (2) 遺構と遺物

##### ①溝1

東西方向に位置する。大溝として東側の第5地点の溝に続くと思われる。上幅7m、深さは確認していない。ロームブロックが混入する黒色土で覆われる。

### Ⅳ 駒林遺跡第13地点

#### (1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2009年11月9日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の北東部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2010年7月27日から29日まで、幅約1.5mのトレンチを5本設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。遺構らしき覆土を検出したので確認した結果、柵列状に並ぶピット群や土坑であった。土坑からは瓦や鉄滓が出土した。遺構確認面までの深さは約100～130cmであり、30cmの保護層が確保できるため、遺構保存を行うこととした。写真撮影・全測図作成等記録保存を行い、埋め戻して調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

#### (2) 遺構と遺物

##### ①土坑

2基検出した。土坑2は平面長方形を呈し、暗褐色

土と黒褐色土が薄い層をなして堆積する。近世丸瓦と製鉄関連の炉壁片出土。

##### ②ピット

11基検出した。締りのある黒褐色土で埋まり、柵列状で南北方向に並ぶ。

第26表 駒林遺跡第11地点 ピット一覧表(単位cm)

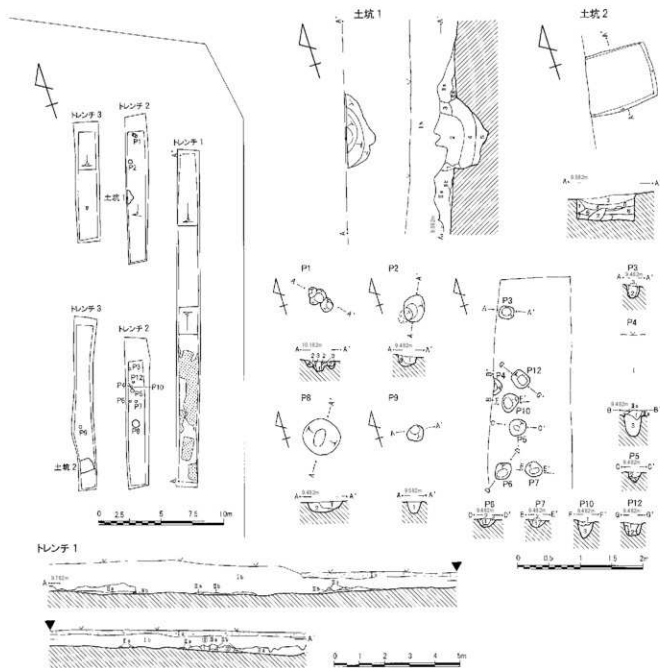
No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	楕円形	39×16	19×12	23.8	
P2	方形	29×28	8×4	35.6	
P3	方形	33×(24)	7×5	49.0	

第27表 駒林遺跡第13地点 土坑一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
土坑1	不明	(118)×(46)	(27)×(9)	57.1	
土坑2	長方形	(109)×97	(102)×88	45.3	

第28表 駒林遺跡第13地点 ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	不整形	50×31	15×14	25.6	
P2	方形	42×33	11×9	35.2	
P3	方形	25×20	15×13	30.5	
P4	不明	(28)×(13)	(12)×(5)	31.3	
P5	方形	27×27	10×8	16.9	
P6	方形	26×26	19×12	16.2	
P7	円形	28×23	17×10	15.2	
P8	方形	58×55	30×16	20.7	
P9	方形	27×26	14×13	24.5	
P10	方形	30×23	18×14	37.2	
P11	欠番				
P12	方形	28×26	15×14	31.1	



- I a 黄土 灰色砂石層
- b 黄土 黒褐色土 粘性弱、ロームブロックを多く含む(北半は少ない)
- II a 自然堆積層 暗褐色土 粘性弱、粘性有、粒状の含有物ほとんど含まない
- b 自然堆積層 灰オリーブ色 粘性弱、粘性有、樹皮状もじり状(ローム土)が混在し、強い黄白色が見える

①②③暗褐色土 ④より黒色味強し、ローム粒・焼土(1mm以下)少し含む

土坑 1

- 1 黒褐色土 粘性弱、ソフトローム土を少し含む
- 2 黒褐色土 粘性弱、明黄褐色土粒(2~10mm)、赤褐色土粒(2~5mm)、炭化物(5~10mm)少し含む
- 3 黒褐色土 粘性弱、含有物は少なく、ローム粒(1mm以下)僅かに含む
- 4 黒褐色土 粘性弱、2層より黒色味強し、ローム粒・焼土・炭化物(5mm以下)、灰色粘土(1cm大)僅かに含む
- 5 黒褐色土 粘性弱、最上層に厚厚1cmの黄灰色土、以下黒褐色土と暗黄褐色土が層厚1~2cm程度で互層を成す

土坑 2

- 1 黒褐色土 粘性弱、粘性弱、粒状(5mm以下)の土が多く、ボロボロしている
- 2 黒褐色土 粘性弱、粘性弱、ローム粒少し含む
- 3 暗褐色土 粘性弱、水平な赤・黒褐色土層(層厚2~3mm)を複数枚挟む、4層以下に比べややボロボロ
- 4 暗褐色土 粘性弱、3層より色調明るめ、赤褐色土層(層厚5mm)を下部に挟む、黒褐色土は無い

- 5 黒褐色土 粘性弱、黒褐色土の層厚
- 6 暗褐色土 粘性弱、ほぼ水平な赤褐色土層(層厚2~3mm)を複数枚挟む
- 7 暗褐色土 粘性弱、最上層に黒褐色土(層厚3~4cm)が有り全体に色調暗め、黒褐色土の下に赤褐色土(層厚5mm程度)を断続的に含む、立ち上がり付近はボロボロしている

ピット 1-2

- 1 黒褐色土 粘性弱、深い戻状にローム土少し含む
- 2 黒褐色土 粘性弱、ローム土を食み色調明るい
- 3 灰オリーブ色 粘性弱、ローム土・黒褐色土を混在に含む
- 4 黄褐色土 粘性弱、ローム土主体

ピット 3-5-10

- 1 黒褐色土 粘性弱、色調明るめでローム粒(5mm以下)やや多く含む
- 2 黒褐色土 粘性弱、粒形は均一なローム粒(5mm以下)多く含む
- 3 黒褐色土 粘性弱、2層に広がるが、ローム粒の他にブロック(1~6cm)も多く含む
- 4 黄灰色土 粘性弱、ローム土・粒を多く含む

ピット 6-7-9-12

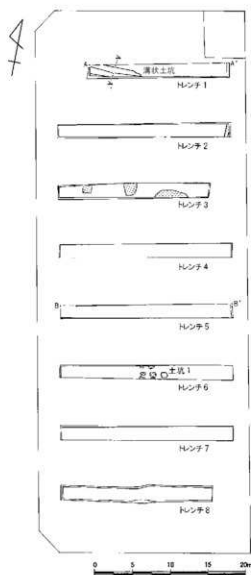
- 1 黒褐色土 粘性弱、ローム粒僅かに含む
- 2 黒褐色土 粘性弱、ソフトローム土をやや多く含む
- 3 黒褐色土 粘性弱、戻状にロームブロック多く含む

ピット 8

- 1 暗褐色土 粘性弱、含有物少ない、ローム粒僅かに含む
- 2 暗褐色土ベース 粘性弱、深い戻状にローム土を多く含む

第 41 図 駒林遺跡第 13 地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)、土坑・ピット(1/60)





## V 駒林遺跡第14地点

### (1) 調査の概要

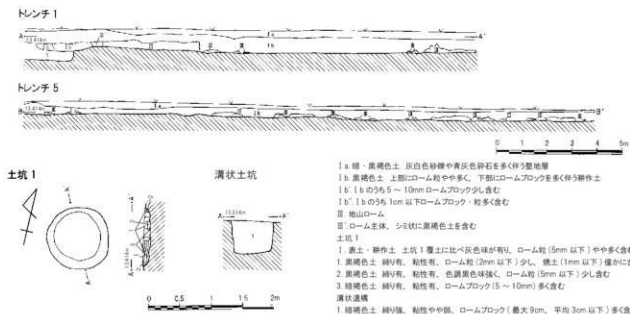
調査は公園工事に伴うもので、駒林土地区画整理組合より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年5月20日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2010年9月1日から8日まで、幅約2mのトレンチを8本設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。遺構らしき覆土を検出したので確認した結果、時期不明の土坑1基と、近世以降の溝状土坑（イモビツ）であった。遺物の出土はない。遺構確認面までの深さは約50cmである。写真撮影・全測図作成等記録保存を行い、埋め戻して調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

### (2) 遺構と遺物

#### ① 土坑1

調査区中央南寄りに位置する。平面形態は円形で上端規模98×97cm、下端77×74cm、確認面からの深さ11cmである。出土遺物なく、時期不明。



- I a 緑・黒褐色土 灰白色砂礫や灰色砕石を多く伴う層地層  
 I b 黒褐色土 上部にローム粒やや多く、下部にロームブロックを多く伴う耕作土  
 I b' I bのうち5～10cmロームブロック少し含む  
 I b'' I bのうち1cm以下ロームブロック・粒多く含む  
 II 地山ローム  
 III ローム主体、シロ状に黒褐色土を含む  
 土坑1  
 1 表土・耕作土 土坑1覆土に比べ灰色味が有り、ローム粒(5cm以下)やや多く含む  
 1 黒褐色土 締り有、粘性有、ローム粒(2cm以下)少し、焼土(1cm以下)僅かに含む  
 2 黒褐色土 締り有、粘性有、色黒黄色味強く、ローム粒(5cm以下)少し含む  
 3 暗褐色土 締り有、粘性有、ロームブロック(5～10cm)多く含む  
 溝状遺構  
 1 暗褐色土 締り強、粘性やや弱、ロームブロック(最大9cm、平均3cm以下)多く含む

第42図 駒林遺跡第14地点遺構配置図(1/500)、土層図(1/150)、土坑・溝状土坑(1/60)

## VI 駒林遺跡第15地点

## (1) 調査の概要

調査は個人住宅の建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年12月28日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の南東部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

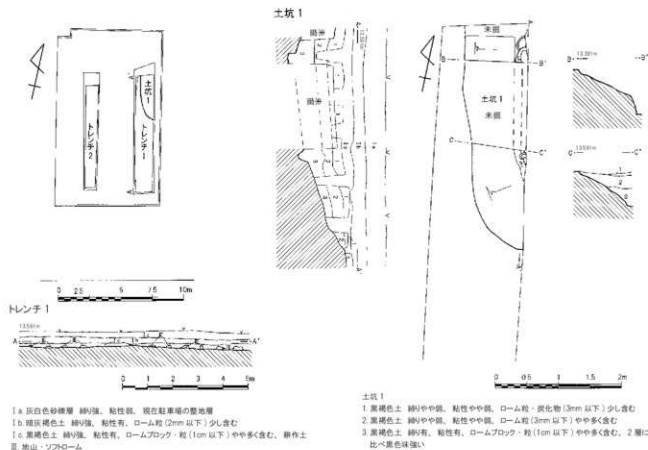
試掘調査は2011年2月16日から17日に、幅約1mと1.5mのトレンチを1本ずつ設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。遺構らしき覆土を検出したので確認した結果、土坑もしくは溝であった。遺構確認面までの深さは約70cmであり、30

cmの保護層が確保できるため、遺構保存を行うこととした。写真撮影・全測図作成等記録保存を行い、埋め戻して調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

## (2) 遺構と遺物

## ①土坑1

調査区北西部に位置する。北と東は調査区域外のため平面形態は不明だが、端部は楕円形を呈する。溝の可能性もある。検出した上端規模南北357cm×東西103cm、下端182cm、確認面からの深さ92cmである。出土遺物はないが、時期はおそらく中世以降。



第43図 駒林遺跡第15地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)、土坑(1/60)

## 第8章 東中学校西遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

東中学校西遺跡は人間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川とさかい川の間の標高は20.0～21.0mの低位台地に位置する。現在は平坦であるが、区画整理事業以前は遺跡の北側に、西から北東側にかけて埋没河川(現在用水路)が流れ、東側には僅かな窪地もみられた。遺跡は埋没河川と窪地の縁に位置するが、遺構は埋没河川からやや離れた遺跡の中央部から西部にかけて分布する。周辺の遺跡は、前述した埋没河川を隔てた北側約50mに東久保西遺跡、南東に東久保南遺跡が隣接する。

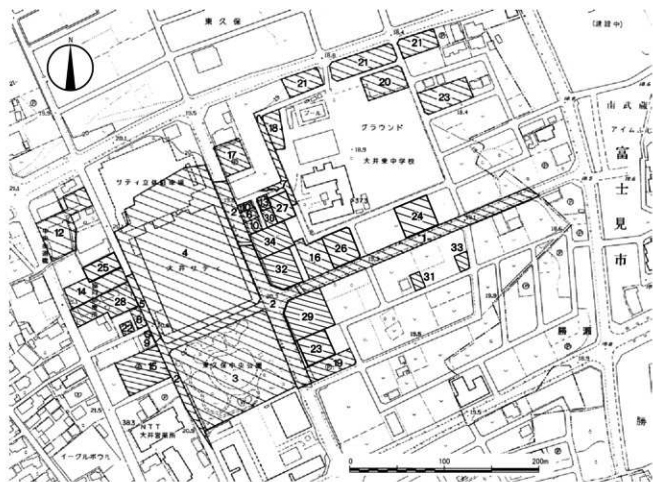
遺跡の時期は縄文時代では早期の竪穴群、縄文時代中期前葉の屋外埋裏、落とし穴や集石土坑などを検出している。中・近世では墓塚・溝・櫛列などが確認されている。本遺跡の調査は1995年以来2013年12月現在、34ヶ所で試掘調査および発掘調査が行われている。

### II 東中学校西遺跡第34地点

#### (1) 調査の概要

調査は宅地造成に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年12月27日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央に立地しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。試掘調査は2011年2月2日から3日まで行った。幅約1.5mのトレンチを3本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行った。

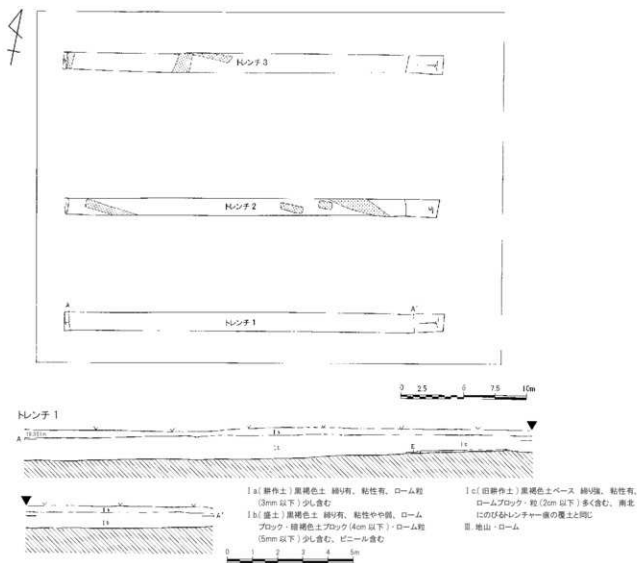
遺構・遺物を検出しなかったため慎重工事とし、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。遺構確認面まで60～120cmを測り、南側が深くなっている。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。



第44図 東中学校西遺跡の地形と調査区(1/4,000)

第29表 東中学校西遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ( )は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	東久保551.526.531 他	1994.10.6～11.9 -A区>1996.10.7～11.15 -B区>1996.12.12～17 -C区>1997.3.5～19 -D区>1997.6.12～19 -E区>1997.7.8～8.8 -F区>1996.1.18～31 -G区>1996.1.25 (1996.8.29～9.13) 1996.10.7～21	3,168 3,308 1,168 880	区画整理道路 区画整理道路	縄文:土坑1、ビット8 縄文早期:竪穴26、集石 土坑1、落とし穴4、土坑2、 ビット26、中近世の溝5	遺跡調査報告第14集
2	龜久保466-1 他	(1997.2.6～10.29) 1997.6.12～8.8	24,681	店 舗	縄文:落とし穴3、集石上 坑2、屋外埋戻し、近世: 土壇1、溝9、欄列1、ビ ット多数	遺跡調査報告第14集
3	東久保465.500 他	1997.6.12～7.24	688	区画整理道路	縄文早期:竪穴6、落とし 穴1、溝2、ビット2	遺跡調査報告第14集
4	東久保326 他	(1997.6.26～27) 1997.7.21～31	136 636	事務所 区画整理道路	遺構・遺物無し 欄列1、ビット5	町内遺跡群Ⅶ
5	東久保487・1.474・4 他	1997.8.5～9	252	個人住宅	縄文:落とし穴1、溝1、 ビット9、(落とし穴は第 5地点で報告)	遺跡調査報告第14集
6	龜久保325.1.7.8.9	(1997.8.19～9.1) (1997.12.10～20)	325 135	個人住宅 店 舗	溝2、ビット9 遺構・遺物無し	町内遺跡群Ⅶ
7	東久保402-1 他	(1998.1.6～24) (1998.6.9～11) (1998.6.23～26)	1,879 218 1,231	店 舗 専用住宅 共同住宅	遺構・遺物無し ビット1 ビット2、風倒木痕	町内遺跡群Ⅶ 町内遺跡群Ⅶ 町内遺跡群Ⅶ
8	東久保44街区13.14 両地	(1998.8.17～24)	2,649	店舗専用駐車 場	中世以降:ビット2	町内遺跡群Ⅶ
9	東久保45街区2.3 両地	(1998.8.17～31)	1,347	店舗専用駐車 場	ビット2	町内遺跡群Ⅶ
10	東久保42街区1 両地	(1998.8.19～24)	1,131	店舗専用駐車 場	縄文:石蔵1	町内遺跡群Ⅶ
11	東久保38街区7.8 両地	(1999.2.8～24) (1999.3.17)	850 944	テニスコート 7カ所駐車場	ビット5、欄列1 遺構無し、両器2	町内遺跡群Ⅶ 町内遺跡群Ⅶ
12	東久保44街区3.23.24 両地	(1999.6.16～7.19)	900	区画整理調整 池	溝1、ビット26	町内遺跡群Ⅶ
13	東久保2街区12 両地	(1999.11.18～12.9)	1,311	店 舗	縄文:土坑1、溝3、ビ ット23	町内遺跡群Ⅶ
14	東久保44街区15 両地	(2000.3.7～9)	150	個人住宅	中世以降:溝1、ビット5	町内遺跡群Ⅶ
15	東久保33街区6 両地	(2003.8.5～13)	1,233	共同住宅	後土跡1、ビット1	町内遺跡群Ⅶ
16	ふじみ野4-1.6の一部	(2005.5.24～30) (2005.6.20～7.7)	926	店 舗	土坑1	市内遺跡群2
17	ふじみ野3-9.5	2005.7.11～13	1,425	店 舗	縄文時代早期:竪穴5	市内遺跡群2
18	ふじみ野1-1.9.10	(2005.6.28～7.2)	604	分譲住宅	遺構・遺物無し	市内遺跡群2
19	ふじみ野3-10.8～11	(2006.1.5～10)	1,060	店 舗	遺構・遺物無し	市内遺跡群2
20	ふじみ野3-10.3の一部-4	(2006.1.11)	120	個人住宅	遺構・遺物無し	市内遺跡群2
21	ふじみ野1丁目 1-13.14.15.32.23	(2006.4.24～5.10)	1,568	共同住宅	遺構・遺物無し	市内遺跡群3
22	ふじみ野4-4-1	(2006.5.15～19.7.28～8.1)	2,004	店舗	縄文:土坑検出	市内遺跡群3
23	ふじみ野3-10-13	(2006.7.3)	634	保育所	遺構・遺物無し	市内遺跡群3
24	ふじみ野4-3-14	(2008.2.14)	165	個人住宅	遺構・遺物無し	市内4
25	ふじみ野3-10-12	(2008.6.13～25)	1,231	分譲及び店舗	遺構・遺物無し	市内6
26	ふじみ野4-3-8の一部	(2008.10.3)	215	個人住宅	遺構・遺物無し	市内6
27	ふじみ野3-10-6	(2011.2.2～4)	1,032	宅地造成	遺構・遺物無し	市内10



第45図 東中学校西遺跡第34地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)

## 第9章 東久保南遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

東久保南遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐさかい川の谷頭部から、約400～500m程下った左岸に位置している。標高19～21mで現谷底との比高差は1m以下でほぼ平坦である。現在は盛土されているが、東端には大雨の時に冠水して池になる窪地がみられた。さかい川は富士見市勝瀬字茶立久保付近に湧水源をもつ伏流水で現在は下水路となっている。なお、富士見市にも遺跡範囲は広がっており、同じ東久保南遺跡で登録され、同遺跡と接して「オトウカヤマ」と呼ばれる塚があり、1982年と1999年に富士見市教育委員会により試掘調査が実施されている。

周辺の遺跡はさかい川の対岸に縄文時代中期の大規模集落である西ノ原遺跡、さかい川下流には縄文時代中期後半の集落である中沢遺跡がある。

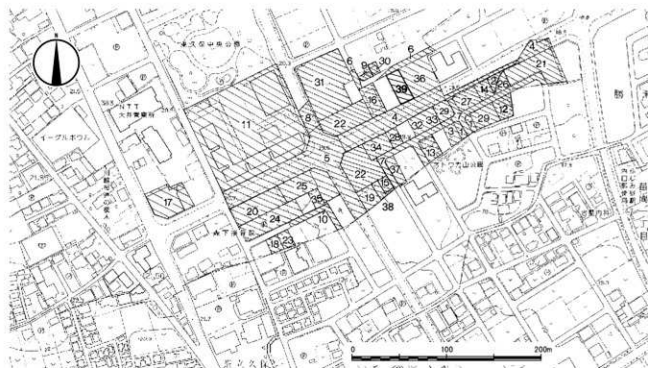
1981年以来2013年12月現在39ヶ所で調査が行われ遺跡全体の90%を調査し、縄文時代中期の住居跡2軒、奈良・平安時代の住居跡4軒（1軒は富士見市域内）、縄文時代の落とし穴・土坑・炉穴や時期不明の溝跡が確認されている。遺跡の現況は区画整理事業がほぼ完了し、町内でも開発が最も活発な地域である。

### II 東久保南遺跡第38地点

#### (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年9月22日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央南端に位置しているため申請者と協議の結果、遺跡範囲と遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

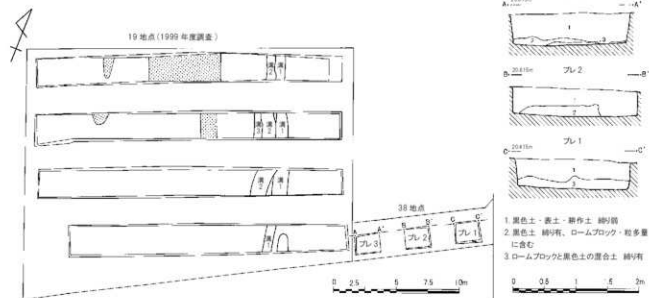
試掘調査は2010年10月13日に行った。幅約1.5×2mのグリッドを3ヶ所設定し、人力により表土除去と表面精査したが遺構の検出はなかった。縄文土器片、近世陶磁器片等が僅かに出土した。遺構確認而まで40cmを測る。写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。



第46図 東久保南遺跡の地形と調査区(1/4,000)

第30表 東久保南遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ( )は拡張調査	面積 (㎡)	調査内容	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	東久保字久保 547	S56.11.24 ~ 56.12.14	320	掘削大塚遺址	溝1本、縄文土層、石階、近郊内土層3点	東内遺跡調査Ⅱ
2	東久保字久保 546-2	S58.5.30 ~ 58.6.27	204	住居跡	ビット3	東内遺跡調査Ⅱ
3	東久保字久保 549-4	S58.6.7 ~ 58.7.4	326	住居跡	溝1本、縄文土層、炭水遺物1点	東内遺跡調査Ⅱ
4	東久保 549-1 他	H5.12.1 ~ 6.3.18 H6.9.26 ~ 6.11.22	444	区画整理遺跡	縄文中期:住居跡1軒、溝1本、H6.9.3基、土坑8基、ビット37、平安:住居跡1軒、縄文土層等コンテナ1基、炭水遺物、土層跡	大井遺跡調査Ⅳ 14集
5	東久保 557-1, 559, 560 他	H6.9.26 ~ 6.12.19 H8.6.17 ~ 8.6.21	2,500	区画整理遺跡	縄文:土坑2基、ビット12、石階3点、縄文土層片	大井遺跡調査Ⅳ 14集
6	東久保 551-4 他	H7.6.20 ~ 7.7.11 H7.11.22 ~ 7.12.6	490	区画整理遺跡	縄文:土坑3基、ビット24、溝1本、縄文土層片、陶磁器片	大井遺跡調査Ⅳ 14集
7	東久保 554 他	H7.7.12 ~ 7.12.5 H8.8.23 ~ 8.8.26	1,500	区画整理遺跡	縄文:溝1穴1基、土坑30基、ビット60、近郊:溝6本、欄干1本、縄文土層片、陶磁器片	大井遺跡調査Ⅳ 14集
8	東久保 494 他	H7.11.30 ~ 7.12.13 H8.2.14 ~ 8.2.22	407	区画整理遺跡	縄文:土坑7基、ビット48、縄文土層片	大井遺跡調査Ⅳ 14集
9	東久保 518-1	H8.7.1 ~ 8.7.3	225.02	個人住宅	縄文早期:伊の1基、ビット2、近郊内土層1本	町内遺跡調査Ⅱ
10	東久保 562 他	H8.8.19 ~ 8.8.26	440	区画整理遺跡	ビット3	大井遺跡調査Ⅳ 14集
11	東久保 464, 499 他	H8.11.22 ~ 9.1.31	10,500	共同住宅	初期利用:ビット7、土坑1基、溝8本	町内遺跡調査Ⅱ
12	東久保 64 地区1画地	H9.5.9 ~ 9.5.16 H9.5.19 ~ 9.6.7	446	個人住宅	縄文:溝1穴1基、平安:住居跡1軒、土坑1基、炭水遺物、土層跡	町内遺跡調査Ⅱ
13	東久保 62 地区1・2・3画地	H9.9.23 ~ 9.9.31	460	個人住宅	縄文:土坑1基、ビット4、溝1本	町内遺跡調査Ⅱ
14	東久保 63 地区2画地	H10.6.23 ~ 10.7.1	332	個人住宅	縄文:溝1穴1基、炭水遺物2基、土坑1基、ビット4、溝1本	町内遺跡調査Ⅱ 大井遺跡調査Ⅳ
15	東久保 60 地区6画地	H10.7.4 ~ 10.7.9	143	個人住宅	縄文:溝1穴1基	町内遺跡調査Ⅱ
16	東久保 59 地区3画地	H10.12.12 ~ 10.12.14	541	共同住宅	遺構無し、縄文土層片	町内遺跡調査Ⅱ
17	東久保 46 地区9・10・17画地	H11.1.27 ~ 1.2.3	2,264	自動車展示場	ビット9、溝1本	町内遺跡調査Ⅱ
18	東久保 48 地区4画地	H11.5.14 ~ 11.5.18	202	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡調査Ⅱ
19	東久保 60 地区6画地	H11.7.8 ~ 11.7.12	466	駐車場	溝1穴のプランク本埋込	町内遺跡調査Ⅱ
20	東久保 49 地区1画地	H11.12.22 ~ 12.1.16	1,106	店舗	遺構・遺物無し	町内遺跡調査Ⅱ
21	東久保 64 1地区	H13.1.15 ~ 1.31.14	1,283	共同住宅	遺構・遺物無し、水成埋積した黒色土層埋込	町内遺跡調査Ⅱ
22	東久保 60 地区1画地	H13.2.16 ~ 13.2.19 H13.2.14 ~ 13.2.26	2,703	中古車販売場	縄文早期:黒石土坑1基、伊の14基、溝1穴1基、縄文土層、石階	ビット11、中近郊:溝2本、大井遺跡調査Ⅳ
23	東久保 48 地区6画地	H13.3.7 ~ 13.3.8	208	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡調査Ⅱ
24	東久保 49 地区6画地	H13.4.2 ~ 13.4.8	1,051	共同住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡調査Ⅱ
25	東久保 49 地区2・3画地	H13.9.26 ~ 13.10.12	1,388	中古車販売場	溝4本、ビット33	町内遺跡調査Ⅱ
26	東久保 63 地区3画地	H13.10.30 ~ 13.11.11	208	店舗	遺構・遺物無し	町内遺跡調査Ⅱ
27	東久保 60 地区1画地	H14.5.29 ~ 14.6.7	610	共同住宅	炭層調査、整理作業中	町内遺跡調査Ⅱ
28	東久保 549-1, 553 (60地区3・4画地)	H14.9.13 ~ 14.9.21	322	共同住宅	炭層調査、整理作業中	町内遺跡調査Ⅱ
29	東久保 64 1地区1・4画地	H15.3.17 ~ 15.3.20 H15.3.24 ~ 15.4.7	736	駐車場造成	炭層調査後本調査、縄文中期:住居跡1軒、伊の12、土坑3基、奈良・平安:住居跡1軒、溝3本、縄文土層、石階、土層跡	大井遺跡調査Ⅳ 14集
30	東久保 58 地区13画地	H15.8.4 ~ 15.8.5	164	個人住宅	炭層調査、整理作業中	町内遺跡調査Ⅱ
31	東久保 59 地区1・2画地	H15.8.21 ~ 15.10.5 H15.9.3 ~ 15.10.2	2,948	店舗	炭層調査後本調査、縄文早期:伊の32、土坑6基、縄文土層	ビット19、溝1本、縄文土層 大井遺跡調査Ⅳ 14集
32	ふじみ野4丁目9-4の一部 (60地区4画地)	H16.1.26 ~ 1.6.19	289	店舗	炭層調査、整理作業中	町内遺跡調査Ⅱ
33	ふじみ野4丁目9-4	H16.7.8 ~ 16.7.9	354	店舗	炭層調査、整理作業中	町内遺跡調査Ⅱ
34	ふじみ野4丁目9番2号 (60地区2画地)	H16.7.8 ~ 16.7.12	553	共同住宅	炭層調査、整理作業中	町内遺跡調査Ⅱ
35	ふじみ野4丁目5番8号	H17.1.17	194	個人住宅	炭層調査、整理作業中	町内遺跡調査Ⅱ
36	ふじみ野4丁目8番7号	H17.1.19 ~ 1.27 H17.2.2 ~ 2.17	1,003	事務所建設	縄文:溝と穴1基、土坑2基(欄干跡)、溝3本、縄文土層片	町内遺跡調査Ⅱ 大井遺跡調査Ⅳ 14集
37	ふじみ野4丁目10-1	H17.1.7	693	駐車場	遺構・遺物無し	町内遺跡調査Ⅱ
38	ふじみ野4丁目9-11, 12	H22.10.13	177	個人住宅	遺構無し、縄文土層片、近郊陶磁器片	町内遺跡調査Ⅱ



第47図 東久保南遺跡第38地点調査区域図(1/300)、土層図(1/60)

## 第 10 章 西ノ原遺跡の調査

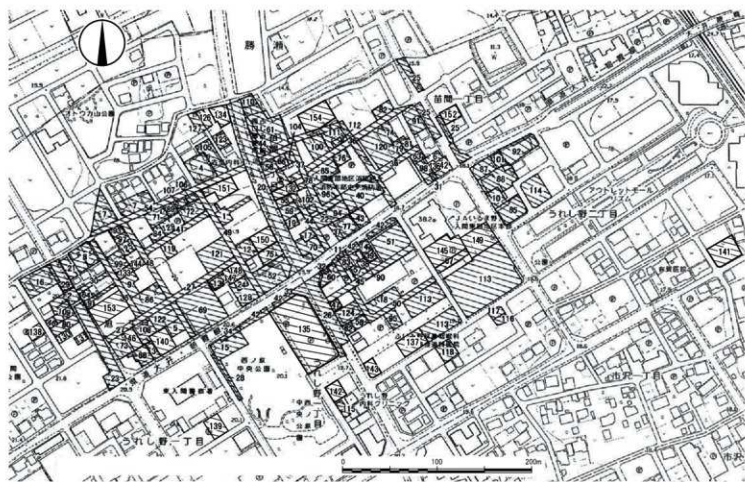
## 遺跡の立地と環境

西ノ原遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約 300 m、さかい川の谷頭部から約 500 m 下った右岸、標高 18～21 m に位置する。さかい川は現在の富士見市勝瀬字茶立久保付近に湧き源を持つ伏流水で、東から西へ流れて人間川の支流新河岸川に注ぐ。かつては水量も豊富であったと言われるが、現在は下水路となっている。西ノ原遺跡とさかい川との高低差は 2～3 m で、武蔵野台地縁辺で一段低い部分、さかい川が侵食によって作り出した低位台地上に立地する。

周辺の遺跡は、下流に中沢前遺跡が隣接し、さらに下流域には神明後遺跡、苗圃東久保遺跡、浄禅寺跡遺跡等縄文時代の集落が存在する。さかい川対岸には東

久保南遺跡と富士見市のオトウカ山があり、その下流には縄文時代中期後半集落の中沢遺跡が広がる。

本遺跡は昭和 40 年代頃までは武蔵野の面影を残す農村地帯であったが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、ここ数年開発の増加に伴い遺跡の破壊が進んでいる。同時に発掘調査も遺跡面積 10 h a の約 40% が調査されてきている。1971 年以来 2013 年 12 月現在で 158 地点に及ぶ調査で明らかになった遺跡の時期は、旧石器時代、縄文時代早期・中期・後期、平安時代、中世、近世である。特に縄文時代中期には、180 軒を越す住居跡が環状集落として形成され、市内において東台遺跡と共に中期全般を通した良好な大規模集落跡であったことがわかる。

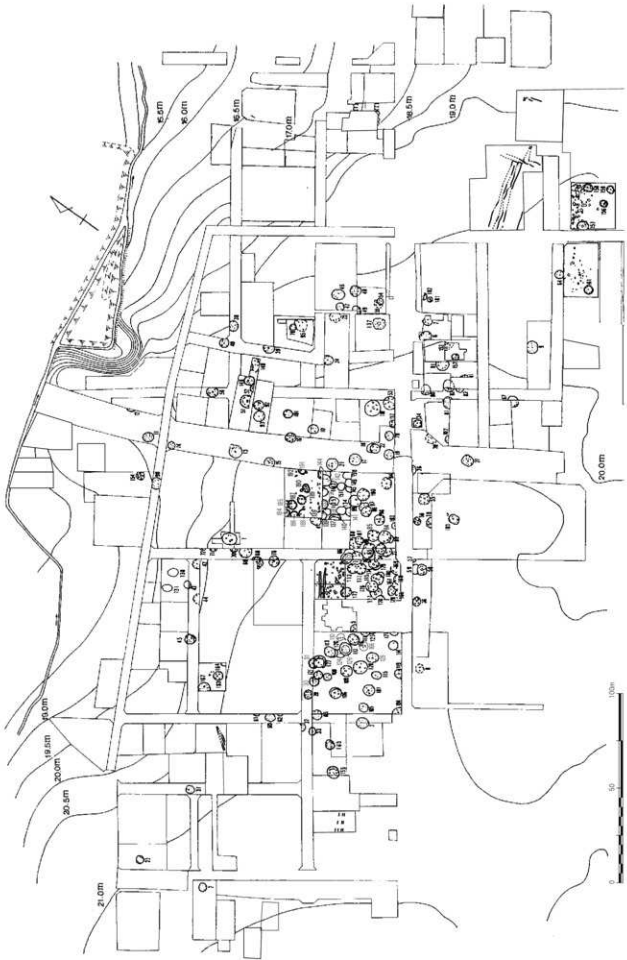


第 48 図 西ノ原遺跡の地形と調査区 1 4 000



第 31 表 西ノ原遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間	面積	調査内容	確認された遺構・遺物	所在地	調査期間	面積	調査内容	確認された遺構・遺物	所在地	
1	1971			住居跡 1 区画 1 棟の遺構		85	西原 181.3	1996.10-12.6	5.54	クワコト	遺構確認なし	西
2	西ノ原 83	1976.12.6-12.26	27.0	住居跡 1 棟 2 区画、埋蔵物、埋蔵物出土品	1976 <sup>1)</sup> 西ノ原遺跡	86	西原 152.83.1	1996.4-19	6.00	個人住居	土坑 6、ピット 26、溝 2	西
3	1977.9			住居跡 1 棟		87	西原 182.7	1996.16-16.17	3.40	住居跡	遺構確認なし	西
4	西ノ原 123.1	1977.9-8.14	6.00	住居跡 1 棟	西ノ原遺跡	88	西原 182.3	1996.16-12.1	7.40	住居跡	遺構確認なし	西
5	1978.8.1-8.14			住居跡 1 区画 1 棟の遺構、溝、土坑、土坑跡	大谷町史跡 1 区画	89	西原 182.3	1997.12.4-1997.12.11	1.77	個人住居	土坑 3、ピット 26、溝 1、溝と土坑跡、溝跡	西
6	西ノ原 170.2	1980.6.19-6.27	4.00	住居跡 1 棟		90	西原 170.2	1980.7.17-7.19	1.40	個人住居	溝、土坑跡のみ	西
7	西ノ原 84.1	1980.10.19-10.28	5.40	住居跡 1 棟		91	西原 182.3	1996.3.25-1996.8.7	4.77	個人住居	溝、土坑跡、溝跡 2、ピット 2、土坑 1、ピット 1	西
8	西ノ原 93.25	1980.10.20-11.14	6.40	住居跡 1 棟		92	西原 182.3	1996.10.24-1996.11.1	1.77	個人住居	遺構確認なし	西
9	西ノ原 93.188.1	1981.6.1-6.23	4.00	住居跡 1 棟		93	西原 182.3	1996.11.25-12.1	1.77	個人住居	遺構確認なし	西
10	西ノ原 180.2	1981.11.4-11.13	4.00	住居跡 1 棟		94	西原 182.3	1996.11.25-12.1	1.77	個人住居	遺構確認なし	西
11	西ノ原 143.8	1981.12.2-12.7	1.90	住居跡 1 棟		95	西原 182.3	1996.12.22-10.23	1.40	個人住居	遺構確認なし、土坑跡のみ	西
12	西ノ原 123.3	1982.7.6-8.11	3.30	住居跡 1 棟		96	西原 182.3	1996.11.18-12.1	1.00	個人住居	溝跡、土坑跡のみ	西
13	西ノ原 114.8	1983.9.11-10.18	2.50	住居跡 1 棟		97	西原 182.3	1996.11.18-11.20	1.30	個人住居	遺構確認なし	西
14	西ノ原 143.1	1983.10.24-11.7	2.40	住居跡 1 棟		98	西原 154	1996.12.17-12.29	3.30	個人住居	溝、土坑跡、溝跡 2、ピット 1、土坑 1、ピット 1	西
15				住居跡 1 棟		99	西原 182.3	1997.1.9-1.14	1.40	個人住居	遺構確認なし	西
16				住居跡 1 棟		100	西原 177.2	1996.12.19-12.20	1.40	個人住居	遺構確認なし	西
17	西ノ原 135.3	1985.5.17-5.22	1.60	住居跡 1 棟		101	西原 177.2	1997.1.16	2.00	個人住居	遺構確認なし	西
18	西ノ原 141.2	1985.7.24-8.15	3.60	住居跡 1 棟		102	西原 97.1	1997.10.1-10.14	3.60	個人住居	土坑 1、溝と土坑跡 1、ピット 2、溝 1	西
19	西ノ原 131.1	1986.7.8-7.21	2.30	住居跡 1 棟		103	西原 150.2	1997.6.4-12.1	4.40	個人住居	遺構確認なし、土坑跡 2、ピット 2	西
20	西ノ原 131.1	1986.11-10.874	3.15	住居跡 1 棟		104	西原 183.3	1997.2.2-2.25	1.60	個人住居	土坑跡、溝跡	西
21	西ノ原 55.1	1986.12.11-1987.19	4.40	住居跡 1 棟		105	西ノ原 183.3	1997.10.19-10.20	1.70	個人住居	土坑跡 2、溝 2	西
22	1987			住居跡 1 棟		106	西原 22.6	1997.10.6-10.8	2.00	個人住居	溝 2	西
23	1987			住居跡 1 棟		107	西原 22.6	1997.10.6-10.8	2.00	個人住居	溝 2	西
24	1987			住居跡 1 棟		108	西原 22.6	1997.10.6-10.8	2.00	個人住居	溝 2	西
25	1988-1-2			住居跡 1 棟		109	西原 112	1997.11.21-11.23	1.60	個人住居	土坑跡、溝跡	西
26	1988-1-2			住居跡 1 棟		110	西原 91	1987.11.29-12.3	4.20	個人住居	溝、土坑跡 3	西
27	1988.3-4	1.64.0		住居跡 1 棟		111	西原 34.424.9	1988.3.11-3.18	4.20	住居跡	遺構確認なし	西
28	1988.10	96.2		住居跡 1 棟		112	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	溝と土坑跡 1、土坑 1、近辺溝 1	西
29	1988.11			住居跡 1 棟		113	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
30	1988.12			住居跡 1 棟		114	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
31	1989-2-3			住居跡 1 棟		115	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
32	1989.11.11-11.11			住居跡 1 棟		116	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
33	1989.12.1-11.9			住居跡 1 棟		117	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
34	西ノ原 153.2	1989.1.10-1.19	2.50	住居跡 1 棟		118	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
35	西ノ原 171	1989.1.24-1.31	2.50	住居跡 1 棟		119	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
36	1989-2-3	4.00		住居跡 1 棟		120	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
37	1989-2-3	4.00		住居跡 1 棟		121	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
38	西ノ原 142.2	1989.2.20-3.12	7.40	個人住居		122	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
39	西ノ原 142.2	1989.2.20-3.12	7.40	個人住居		123	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
40	1989.3.10-10.18	96.2		住居跡 1 棟		124	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
41	1989.10-11.4	96.2		住居跡 1 棟		125	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
42	1989.10-11.4	96.2		住居跡 1 棟		126	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
43	1989.12-19.82.7			住居跡 1 棟		127	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
44	1989.12-19.82.7			住居跡 1 棟		128	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
45	1989.12-19.82.7			住居跡 1 棟		129	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
46	1989.12-19.82.7			住居跡 1 棟		130	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
47	1989.12-19.82.7			住居跡 1 棟		131	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
48	1989.12-19.82.7			住居跡 1 棟		132	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
49	1989.12-19.82.7			住居跡 1 棟		133	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
50	1989.12-19.82.7			住居跡 1 棟		134	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
51	西ノ原 153.2.5.6	1991.12.2-12.12	1.90	住居跡 1 棟		135	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
52	1992.2.11-10.28	96.2		住居跡 1 棟		136	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
53	1992.2.11-10.28	96.2		住居跡 1 棟		137	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
54	西ノ原 131.2	1992.6	2.80	住居跡 1 棟		138	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
55	西ノ原 135.5.6	1992.5.1-6.22	2.40	住居跡 1 棟		139	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
56	西ノ原 133.2	1992.6.23-6.26	2.00	住居跡 1 棟		140	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
57	西ノ原 143.3.4	1992.7.6-9.1	7.40	個人住居		141	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
58	西ノ原 137.2	1992.8.8	1.40	個人住居		142	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
59	西ノ原 135.1	1992.10.6-11.12	4.80	個人住居		143	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
60	西ノ原 136.2	1992.12.10-12.25	2.50	個人住居		144	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
61	西ノ原	1992.12.22	2.24	住居跡 1 棟		145	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
62				住居跡 1 棟		146	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
63	西ノ原 142.3.5.6	1993.4.13-4.22	1.40	住居跡 1 棟		147	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
64	西ノ原 84.1	1993.4.27-4.28	0.70	住居跡 1 棟		148	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
65	西ノ原 145.1	1993.6.7-8.11	4.10	住居跡 1 棟		149	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
66	西ノ原 133.2	1993.6.30-7.18	4.70	住居跡 1 棟		150	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
67	西ノ原 150.2	1993.7.21-11.30	5.00	住居跡 1 棟		151	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
68	西ノ原 81.2	1993.8.23-2.25	2.35	住居跡 1 棟		152	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
69	1994.4-2.27	1.62.3		住居跡 1 棟		153	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
70	1994.5.16-10.26	1.62.3		住居跡 1 棟		154	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
71	1994.5.17	1994.5.17-5.17	1.50	住居跡 1 棟		155	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
72	1994.5.17	1994.5.17-5.17	1.50	住居跡 1 棟		156	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
73	1994.5.17	1994.5.17-5.17	1.50	住居跡 1 棟		157	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
74	1994.5.17	1994.5.17-5.17	1.50	住居跡 1 棟		158	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
75	1994.5.17	1994.5.17-5.17	1.50	住居跡 1 棟		159	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
76	1994.5.17	1994.5.17-5.17	1.50	住居跡 1 棟		160	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
77	1994.5.17	1994.5.17-5.17	1.50	住居跡 1 棟		161	西原 140.2	1988.10.2-8	3.80	個人住居	ピット 1、近辺溝 1、溝跡 1	西
78	1994.5.17	1994.5.17-5.17	1.50	住居跡 1 棟		162						



第49図 西ノ原遺跡遺構分布図(1/2000)



## 西ノ原遺跡第 145地点

## (1) 調査の概要

調査は事務所建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年5月12日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の東部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は同年7月23日から8月25日まで、幅約1〜2mのトレンチを15本設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。調査の結果、近

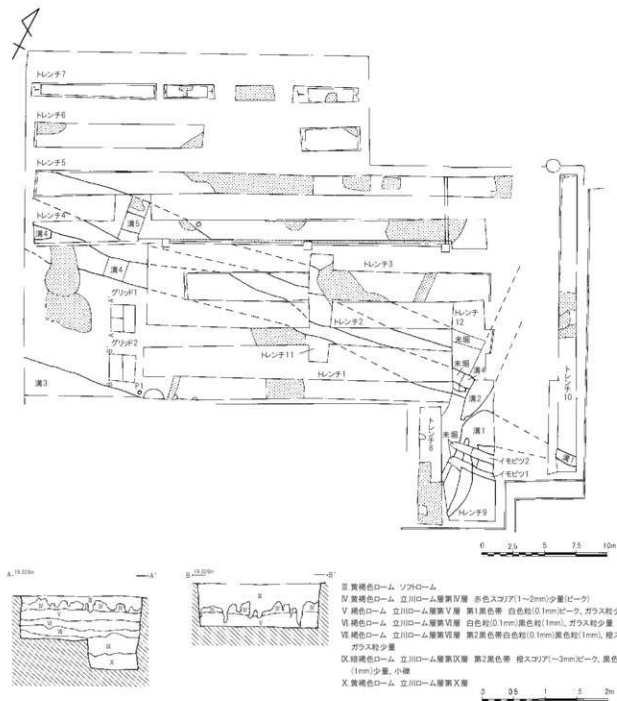
世遺構の溝5本を検出した。遺構確認面までの深さは約10〜20cmである。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

## (2) 遺構と遺物

## 溝

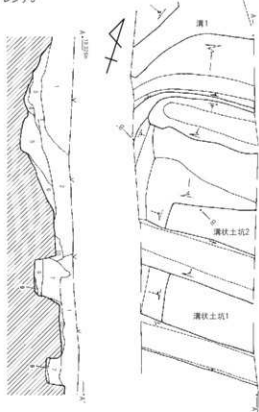
東西方向の溝と南北方向の溝を検出している。いずれも1957年以前の土地境と位置が一致しており、近世以降の土地境の溝である。

溝1は調査区南東部に位置する。南北方向9m、

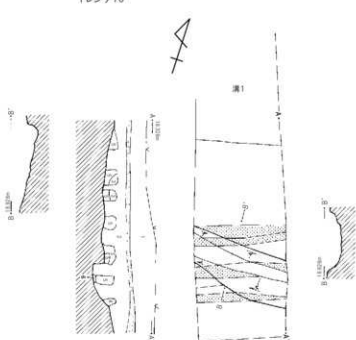


第 50 図 西ノ原遺跡第 145地点 遺構配置図 1 300、土層図 1 60

トレンチ9



トレンチ10



トレンチ9 溝1

- 1.黒色土 硬く締る、ローム粒(1mm)やや多く含む
- 2.暗褐色土 硬く締る、ロームブロック(1cm大)少し、ローム粒(1~3mm)多く含む
- 3.ロームブロック主体 締り有、黒色土少量
- 4.黒褐色土 締り有、ローム粒(1~3mm)少し含む
- 5.ロームブロック主体 締り弱
- 6.暗褐色土 締り有、ロームブロック(1~3cm大)多く含む
- 7.暗褐色土 締り有、ロームブロック(1cm大)少し、ローム粒(~5mm)極多く含む
- 8.暗褐色土 締りやや有、ロームブロック(1cm大)少し、ローム粒(~5mm)多く含む
- 9.黒褐色土 締り有
- 10.黒褐色土とロームブロックの混合土、締り有

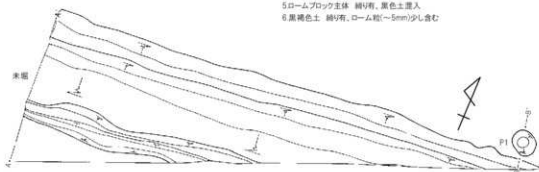
トレンチ10 溝1

- 1.表土 コンクリート層を入れた跡に埋めた土、ローム・黒土・砂利
- 2.表土・耕作土・黒褐色土 締り有、ロームブロック(1cm大)・ローム粒(5mm)多く含む、

トレンチ9

- 1.暗褐色土 締り有、ローム粒(5mm)多く含む
- 2.暗褐色土 締り有、ロームブロック(1cm大)多く含む
- 3.ロームブロック主体 締り有、黒色土混入
- 4.黒褐色土 締り有、ローム粒(~5mm)少し含む

溝3・ピット1



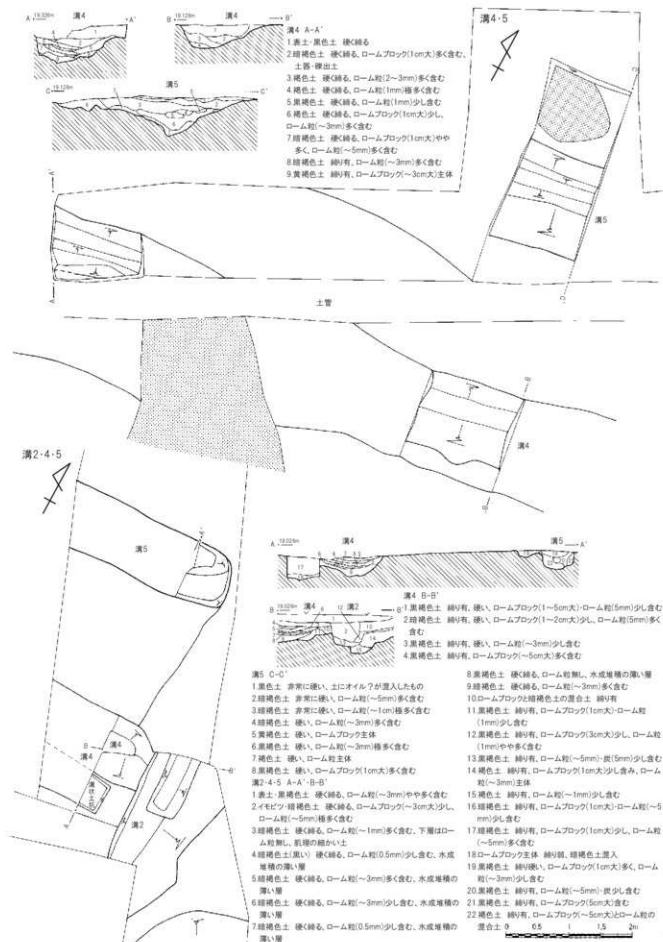
溝3

- 1.黒褐色土 硬く締る、ローム粒(0.1mm)少し含む
- 2.暗褐色土 硬く締る、ローム粒(1mm)少し含む
- 3.暗褐色土 硬く締る、ローム粒(0.5mm)多く含む
- 4.黒褐色土 硬く締る、ローム粒(1mm)多く含む
- 5.褐色土 締り有、ロームブロック(1cm大)多く含む
- 6.褐色土 硬く締る、ローム粒(~5mm)多く含む
- 7.褐色土 硬く締る、ロームブロック(1cm大)少し、ローム粒(~5mm)多く含む
- 8.黒褐色土 締り有、ローム粒(1mm)少し含む
- 9.暗褐色土 硬く締る、ローム粒(~3mm)多く含む
- 10.褐色土 硬く締る、ローム粒(~1mm)極多く含む

ピット1

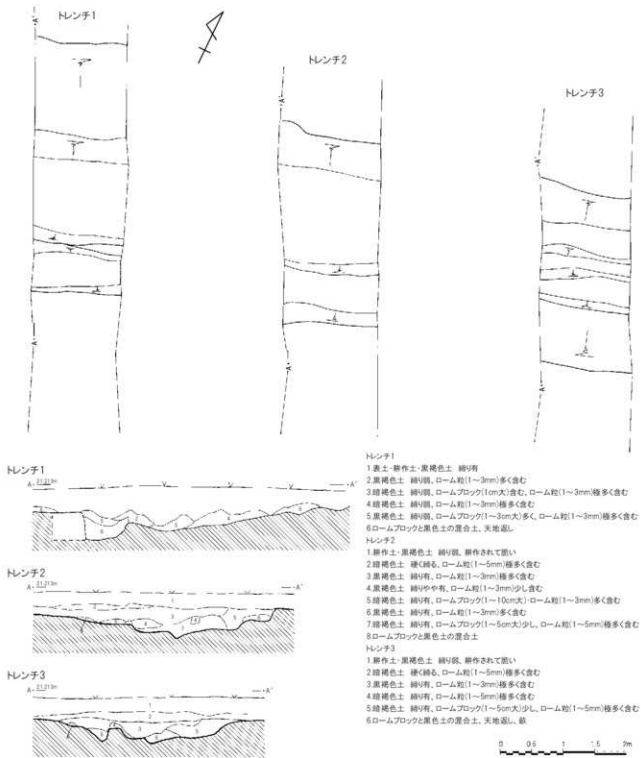
- 1.暗褐色土 締り有、ローム粒(~3mm)少し含む
- 2.褐色土 締り有、ローム粒(~3mm)多く含む
- 3.暗褐色土 締り有、ローム粒(~5mm)多く含む

第51図 西ノ原遺跡第145地点溝・ピット 1/60



第 52 図 西ノ原遺跡第 145地点 溝 1 60





溝



遺構外



第 54 図 西ノ原遺跡第 146地点溝 160、出土遺物 14



力による表面精査を行った。調査の結果、近世以降の溝 2本を検出した。遺構確認面までの深さは約 40cm であるが、溝より南側は 1m 近い深さまで天地返しされていた。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

## (2) 遺構と遺物

### 溝

調査区中央で東西方向の溝を検出した。天地返しされた後に掘削された溝で、北側から南側の溝へ 2〜3 回掘り直されている。全体の上幅は 2.8〜4m、単体の溝幅は 0.7〜1.6m 程度、表土からの深さは 70cm ほどである。近世陶磁器が出土する。近世以降の土地境の溝である。

### 溝出土遺物

1は縄文時代中期の浅鉢口縁部。2は瀬戸・美濃産の太白手染付陶器皿。蛇ノ目凹形高台。19世紀後半。遺構外出土遺物

3はリング状の鉄製品。径 26.6mm 幅、8.4mm、厚さ 2.7mm。4は鉄釘。

## 西ノ原遺跡第 147・148地点

### (1) 調査の概要

調査は両地点とも個人住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が 2010年 11月 18日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部西部に位置し周囲からは縄文時代中期の住居跡を多数検出するため、申請者と協議の結果、両地点合わせて遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は同年 12月 8日から 16日まで、幅約 2m のトレンチを 2本設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。調査の結果、住居跡をはじめピットや土坑等多数の遺構を検出したため申請者と協議した。遺構確認面までの深さ 130cm、工事は約 30cm 掘削であるが、地盤強化の補強杭打ち込みにより遺構の保存が困難なため、補助事業の対応で同年 12月 17日から翌 2011年 2月 1日まで本調査を行った。縄文時代中期住居跡 2軒、集石土坑 2基、土坑 4基、ピット 71基、近世以降溝 2条を検出した。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

### (2) 遺構と遺物

### 172号住居跡

【位置・形状】147地点調査区の南端に位置する。第 128地点で確認した 172号住居跡の北半分を検出した。本調査で 172号住居跡の全体を検出したことになる。13m 東に 75号住居がある。

過去調査分を合わせると平面形はほぼ円形を呈する。直径は 4.4〜5.0m、確認面からの深さ 47cm である。

【炉】住居中央部に位置した埋燬炉である。128地点との境界際まで調査したが、炉の北半分のみを検出となった。土器は深鉢口縁部が正位に埋設される。炉の径は東西 52cm、床面からの深さ 18cm、炉体土器内側の覆土に焼土粒は多い。128地点の調査区では、床面に直径 26〜30cm の焼土面が広がる。

【周溝】上幅 20cm 前後、下幅 12cm 前後、床面からの深さ 25cm の周溝が、住居跡西側に 2.5m 検出した。

【柱穴】新たに 1基検出し、全体で 4基になった。主柱穴と推定できる。

【時期】加曾利 E 新式。

### 75号住居跡

【位置・形状】148地点調査区の南東端に位置する。第 49地点・第 128地点で確認した 75号住居跡の一部を検出した。本調査で 75号住居跡の全体を検出したことになる。3軒の住居跡が重複し、本住居(75号) 77号住居 66号住居跡の順に新しくなる。13m 西に 172号住居がある。

過去調査分を合わせると平面形はほぼ円形を呈する。直径は推定で 5.6〜6m、確認面からの深さ 28cm である。

【炉】住居中央部やや北寄りに位置した埋燬炉である。土器は底部が欠失した深鉢である。

【周溝】上幅 40〜50cm、下幅 10〜20cm、床面からの深さ 26cm である。

【柱穴】新たに 1基検出し、全体で 14基になった。主軸方向の炉を挟んだ右側に 49地点の調査で検出した P 2 P 4 P 9 左側に今回の P 1 と 128地点の P 1 が並列し、対になる主柱穴と推定できる。

【時期】勝坂 式。

### 集石土坑

2基検出した。集石土坑 1は 147地点調査区西端に位置する。溝 2によって壊される。加曾利 E 新式の深鉢土器片が出土した。時期は出土遺物から縄文時代と思われる。



## 147地点 表土

- 1 黒褐色土 締りや中級、ローム粒(5mm大)多く含む、ビニール含む、近年の耕作土
- 1b 黒褐色土 締り強、ロームブロック(5~10mm)多く含む、北側のブロック構造作時の跡の入り込み
- 1c 黒色土 締り強、大型ロームブロック(1~8cm)やや多く含む
- 1d 黒色土 締り強、ローム粒(5mm以下)僅かに含む
- 1e 黒色土 締り強、ロームブロック(5~10mm)、ローム粒(2mm以下)やや多く含む、トレンチヤー痕
- 1f 暗褐色土 締りや中級、軟性やや中級、ロームブロック(1cm以下)やや多く含む、トレンチヤー痕
- 1g 暗褐色土 締りや中級、軟性やや中級、ロームブロック(1cm以下)多量含む
- 1h 黒色土 締り強、軟性有、ロームブロック(1cm以下)炭化物やや多く含む、調査区南壁付近はロームブロック多くなる

- 1i 黒褐色土 締り強、軟性有、ロームブロック(2cm以下)炭化物やや多く含む
- 1j 暗褐色土 締り強、軟性有、ロームブロック(7cm以下)硬く(3cm以下)多く含む、ビニール含む
- (1i~1j)は西側溝壁を調査した際の埋戻し土と思われる
- 1k 黒色土 締り強、軟性有、ロームブロック(1cm以下)少し含む
- 1l 黒褐色土 締り強、軟性有、灰色味有、ロームブロック(5mm大)少し含む
- 1m 黒褐色土 締り強、軟性有、ソフトロームブロック(5~10mm)多く含む

## 旧耕作土

- II a 黒褐色土 締り強、ロームブロック(1cm)少し、ロームの細粒(1mm以下)やソフトローム土をやや多く含む
- II b 黒色土 締り強、軟性有、微土(2mm以下)僅かに含む
- II c 黒褐色土 締り強、軟性有、ローム粒・微土(0.5mm以下)僅かに含む
- II d 暗オリーブ褐色土 締り強、軟性有、うすらな現状にローム土を含む、ローム粒・微土(0.5mm以下)僅かに含む

## 遺物包含層

- II b 黒色土 締り強、軟性有、微土(2mm以下)僅かに含む
- II c 黒褐色土 締り強、軟性有、ローム粒・微土(0.5mm以下)僅かに含む
- II d 暗オリーブ褐色土 締り強、軟性有、うすらな現状にローム土を含む、ローム粒・微土(0.5mm以下)僅かに含む

## 土坑3

- 1 暗オリーブ褐色土 締り強、軟性有、ハーフロームブロック(5~15mm)少し、うすらな現状にローム土を多く、ローム粒・炭化物(1mm以下)少し含む
- 2 暗黄褐色土 締り強、軟性有、ロームブロック(5~30mm)少し含む

## 溝1

- 1 黒褐色土 締り強、ロームブロック(1~1.5cm)少し、ローム粒(2mm以下)やや多く含む
- 2 黒褐色土 締り強、ロームブロック(1~4cm)やや多く、ロームの細粒(1mm以下)多く含む

## 溝2

- 1 黒色土 締り強、ローム粒(5mm以下)少し含む
- 2 黒褐色土 締り強、ロームブロック(5~15mm)、ローム粒(3mm以下)多く含む(ピカ48)少し含む
- 1 黒褐色土 締り強、軟性有、微土(2mm以下)やや多く含む
- 2 暗褐色土 締り強、軟性有、微土(3mm以下)やや多く含む
- 3 暗褐色土 締り強、軟性有、ロームブロック(1cm大)多く、微土(2mm以下)少し含む、現状に黒褐色土含む
- 4 暗褐色土 締り強、軟性有、ロームブロック(5~10mm)、微土・炭化物(1mm以下)少し含む、II層下に埋り込むような構

## 溝3

- 1 暗褐色土 締り強、軟性有、ローム粒(3mm以下)多く含む
- 2 黒褐色土 締り強、軟性有、1層より黒色味が強い、ローム粒(3mm以下)少し含む
- 3 暗褐色土 締り強、軟性有、ローム粒(3mm以下)多く含む(黄褐色味がある)

## ピット4

- 1 黒褐色土 締り強、軟性有、ローム粒(3mm以下)多く含む
- 2 暗オリーブ褐色土 締り強、軟性有、ロームブロック(4cm大)少し、うすらな現状にローム土(5mm以下)多く含む

## ピット7

- a 暗オリーブ褐色土 締り強、軟性有、ローム粒(1mm以下)僅かに含む
- b 暗オリーブ褐色土 締り強、軟性有、うすらな現状にローム粒(3mm以下)少し含む
- 1 黒褐色土 締り強、軟性有、ロームブロック(5~10mm)、ローム粒(2mm以下)少し含む、色調は2層より明るく、包含層の暗オリーブ褐色土に近い
- 2 暗褐色土 締り強、軟性有、ロームブロック(5~20mm)、ローム粒(2mm以下)やや多く含む
- 5 暗オリーブ褐色土 締り強、軟性有、うすらな現状にロームブロックを多く含む

## 172号住居跡

- 1 黒褐色土 締り強、軟性有、ローム粒・微土(1mm以下)少し含む
- 2 黒褐色土 締り強、軟性有、ローム粒(2mm以下)やや多く含む
- 3 黒褐色土 締り強、軟性有、ローム粒(3mm以下)やや多く含む、遺物を多く含む、微土・炭化物(2mm以下)僅かに含む
- 4 暗褐色土 締り強、軟性有、ローム粒(3mm以下)多く、ロームブロック(5~30mm)、炭化物(3mm以下)少し、微土(2mm以下)僅かに含む
- 5 暗褐色土 締り強、軟性有、ローム粒(3mm以下)やや多く、ロームブロック(1~4cm)、炭化物(3mm以下)少し含む
- 6 暗オリーブ褐色土 締り強、軟性有、ロームブロック(5~20mm)やや多く、微土・炭化物(2mm以下)少し含む
- 7 黒褐色土 締り強、軟性有、ロームブロック(1cm大)、ローム粒(5mm以下)少し含む
- 8 暗褐色土 締り強、軟性有、ローム粒(3mm以下)少し含む
- 9 暗褐色土 締り強、軟性有、ロームブロック(5~30mm)やや多く含む
- 10 暗オリーブ褐色土 締り強、軟性有、うすらな現状にロームブロックを多く含む

## 172号住居跡 ビット4

- 1 黒褐色土 締り強、軟性有、ローム粒(3mm以下)多く含む
- 2 黒褐色土 締り強、軟性有、1層より黒色味が強い、ローム粒(3mm以下)少し含む
- 3 暗褐色土 締り強、軟性有、ローム粒(3mm以下)多く含む(黄褐色味がある)

## ピット4

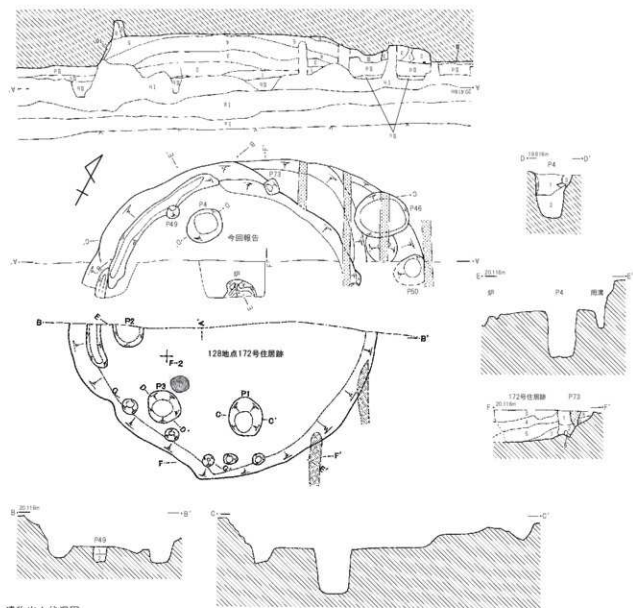
- 1 黒褐色土 締り強、軟性有、ローム粒(3mm以下)やや多く含む
- 2 暗オリーブ褐色土 締り強、軟性有、ロームブロック(4cm大)少し、うすらな現状にローム土(5mm以下)多く含む

## ピット7

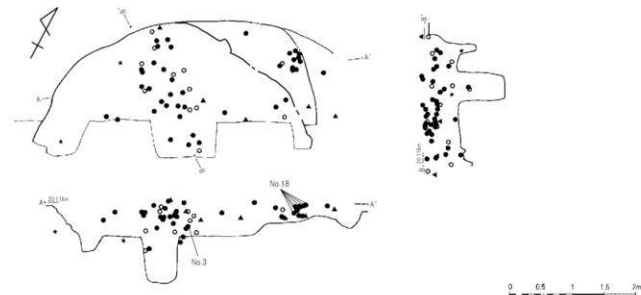
- a 暗オリーブ褐色土 締り強、軟性有、ローム粒(1mm以下)僅かに含む
- b 暗オリーブ褐色土 締り強、軟性有、うすらな現状にローム粒(3mm以下)少し含む
- 1 黒褐色土 締り強、軟性有、ロームブロック(5~10mm)、ローム粒(2mm以下)少し含む、色調は2層より明るく、包含層の暗オリーブ褐色土に近い
- 2 暗褐色土 締り強、軟性有、ロームブロック(5~20mm)、ローム粒(2mm以下)やや多く含む
- 5 暗オリーブ褐色土 締り強、軟性有、うすらな現状にロームブロックを多く含む

第 55 図 西ノ原遺跡第 147・148地点遺構配置図 1 300、土層図 1 150

## 172号住居跡



## 遺物出土状況図



第 56 図 西ノ原遺跡第 147 地点 172 号住居跡・遺物出土状況図 1 60

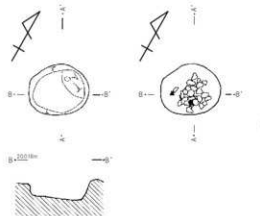
炉体土器



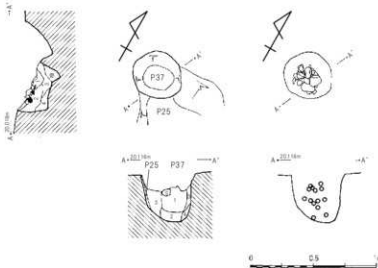
掘方



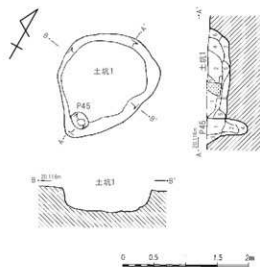
集石土坑1



集石土坑2(P37)



土坑1-P45



集石土坑1

1. 暗オリーブ褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)少し含む
2. 暗オリーブ褐色土 締り強、粘性有、機土・炭化物(1mm以下)僅かに含む
3. 暗オリーブ褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)やや多く含む
4. 暗オリーブ褐色土 締り強、粘性有、ラッフル層状にロームブロック(5~10mm)やや多く含む

ピット37

1. 暗オリーブ褐色土 締り強、粘性有、炭化物(2mm以下)少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、炭化物(2mm以下)・炭状ロームブロックやや多く含む
3. 暗オリーブ褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(1mm以下)僅かに含む
4. 暗オリーブ褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック(1cm)・ローム粒(3mm以下)やや多く含む

土坑1-2

1. 黒褐色土 締りやや弱め、ローム粒(2mm以下)やや多く含む
2. 黒褐色土 締り強、ローム粒(3mm以下)やや多く含む、機土(2mm以下)少し含む
3. 黒褐色土 ロームブロック・粒(5mm以下)少し含む
4. 黒褐色土 ロームブロック(1cm大)・ローム粒(3mm以下)少し含む
5. 暗オリーブ褐色土 ローム粒(3mm以下)ブロック状に少し含む
6. 暗オリーブ褐色土 ローム粒をうっすら層状に少し含む
7. 黒褐色土 ロームブロック(1~2cm)うっすら層状にやや多く含む
8. 暗オリーブ褐色土 ロームブロック(5mm大)少し、ローム土を層状に多く含む

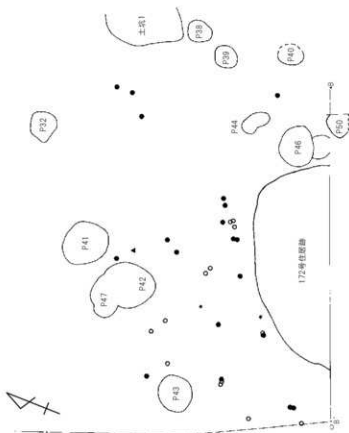
ピット45

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック(5~10mm)・ローム粒(2mm以下)少し含む、色調は2層より明るく、包含層の暗オリーブ褐色に近い
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック(5~20mm)・ローム粒(2mm以下)やや多く含む、P56・71などで炭化物含む
3. 暗オリーブ褐色土 締り強、粘性有、ラッフル層状にローム土、ローム粒(1mm以下)少し含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック(5~10mm)多く含む

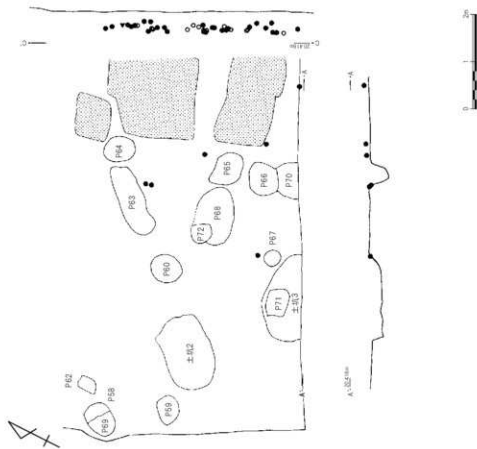
炉体土器

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック(2cm大)少し、機土(3mm以下)多く、炭化物(1mm以下)やや多く含む、砂体を押し潰している
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、ローム(3~7mm)・炭化物(3mm以下)やや多く、機土(1cm以下)多く含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック(5~20mm)やや多く、機土(2mm以下)少し含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、砂体外側の充填土、1mm以下ローム粒やや多く、炭化物(1mm以下)少し含む

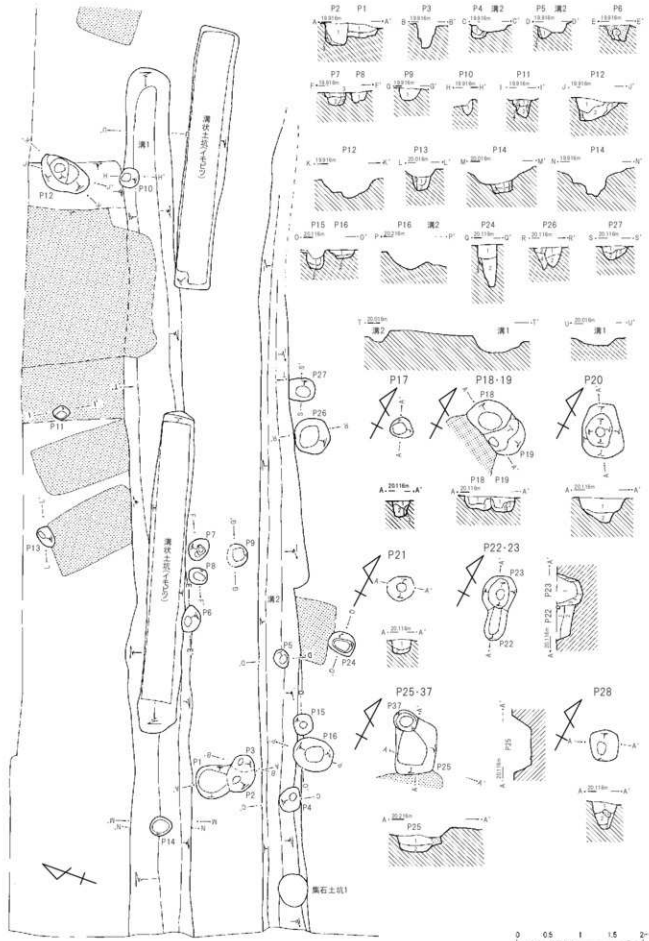
147地点

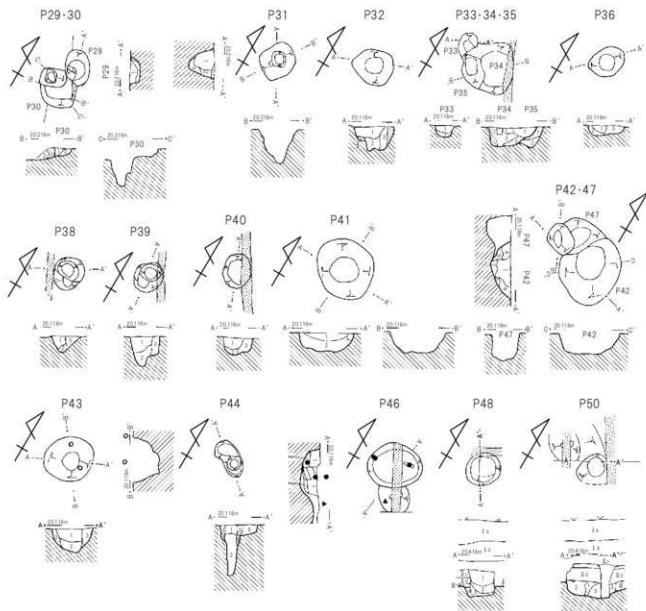


148地点



第 58 図 西ノ原遺跡第 147・148地点遺構外遺物出土状況図 (1/80)





ピット 4-5-8-9-14-15-17-20-21-22-24-29-30-33-36-60-61-63-66-67-68

1 黒オリーブ褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)僅かに含む

2 黒オリーブ褐色土 締り強、粘性有、色調1層より暗く、ロームブロック状ならぬ状に、ローム粒(5mm以下)少し含む

3 黒オリーブ褐色土 締り強、粘性有、ローム土多く含む色調明しく

ピット2-6-12-16-18-23-27-29-31-36-41-42-43-50-58-72

1 黒オリーブ褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)僅かに含む

2 黒オリーブ褐色土 締り強、粘性有、うっすら状にローム土を含む

3 黒オリーブ褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック(1cm)-ローム粒(3mm以下)やや多く含む

4 黒オリーブ褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)僅かに含む

5 黒オリーブ褐色土 締り強、粘性有、色調4層より暗く、ロームブロック状ならぬ状に、ローム粒(5mm以下)少し含む

ピット7-10-11-13-38

1 黒オリーブ褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)少し含む

2 黒オリーブ褐色土 締り強、粘性有、色調1層より暗く、ロームブロック(5mm)-ローム粒(3mm以下)少し含む

3 黒オリーブ褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)やや多く含む

4 黒オリーブ褐色土 締り強、粘性有、色調3層より暗く、ローム粒(2mm以下)少し含む

5 暗黄褐色土 うっすら状にロームブロック多く含む

ピット19-39-40-44-45-51-52-54-56-57-59-62-64-65-69-70-71-73

1 黒褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック(5-10mm)-ローム粒(2mm以下)少し含む、色調は2層より明るく、包血層の暗オリーブ褐色に近い

2 黒褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック(5-20mm)-ローム粒(2mm以下)やや多く含む、P56-71などで炭化物含む

2' 黒褐色土 締り強、粘性有、2層よりロームブロック、61(は炭化にローム土多く含む)

3 黒褐色土 締り強、粘性有、うっすら状にローム土、ローム粒(1mm以下)少し含む

4 黒褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック(5-10mm)多く含む

5 黒オリーブ褐色土 締り強、粘性有、うっすら状にロームブロック多く含む

ピット25-34-35

1 黒オリーブ褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(5mm以下)-炭化物(2mm以下)少し含む

2 黒褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック(1cm大)やや多く含む

3 黒オリーブ褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)僅かに含む

4 黒オリーブ褐色土 締り強、粘性有、色調3層より暗く、ロームブロック状ならぬ状に、ローム粒(5mm以下)少し含む

ピット26-32-37

1 黒オリーブ褐色土 締り強、粘性有、炭化物(2mm以下)少し含む

2 黒褐色土 締り強、粘性有、炭化物(2mm以下)-炭化のロームブロックやや多く含む

3 黒オリーブ褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)僅かに含む

4 黒オリーブ褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック(1cm)-ローム粒(3mm以下)やや多く含む

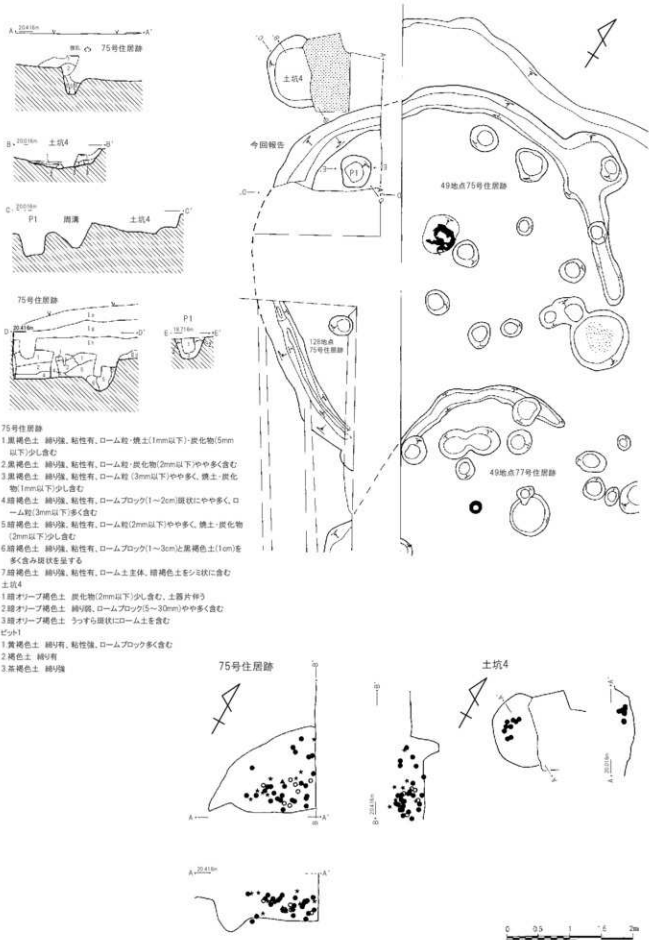
ピット48

1 黒褐色土 締り強、粘性有、炭土(2mm以下)やや多く含む

2 黒褐色土 締り強、粘性有、炭土(3mm以下)やや多く含む

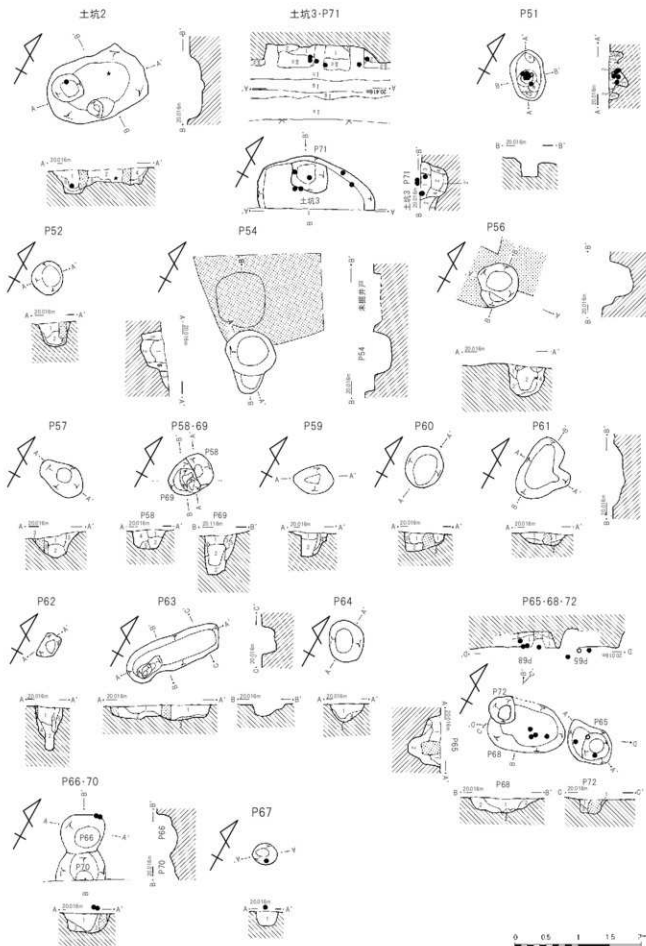
3 黒褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック(1cm大)多く含む(2mm以下)少し、炭化に黒褐色土を含む

4 黒褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック(5-10mm)、炭土-炭化物(1mm以下)少し含む(巨量下に盛り込むような層様)



第 61 図 西ノ原遺跡第 148地点 75号住居跡・土坑・ピット・遺物出土状況図 160





第 62 図 西ノ原遺跡第 148 地点土坑・ピット 160

集石土坑 2 は 147 地点の調査区中央に位置する。  
加曾利 E 式の土器片が出土した。時期は出土遺物から縄文時代と思われる。

#### 土坑・ピット

土坑 4 基、ピット 71 基検出した。

#### 溝

2 条検出した。いずれも東西方向の溝で、土地境に重なる。115m 離れて平行する。

溝 1 は 147・148 調査区北側で 16m 検出した。上幅 35～55cm、下幅 15～20cm、確認面からの深さ 11～18cm である。

溝 2 は 147・148 調査区北側で 14m 検出した。溝状土坑（イモピツ）に壊される。上幅 70～95cm、下幅 30～55cm、確認面からの深さ 13～28cm である。

第 37 表 西ノ原遺跡第 147・148 地点 ピット一覧表 単位 cm

No	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	不明	53 50	45 37	25 0	
P2	不明	41 34	15 10	40 9	
P3	不明	37 25	10 7	36 9	
P4	方形	37 34	11 10	25 8	
P5	円形	28 22	11 8	21 6	
P6	楕円形	43 29	18 10	25 3	
P7	円形	33 31	8 6	37 4	
P8	方形	30 25	19 11	18 2	
P9	円形	36 32	20 18	25 3	
P10	方形	30 29	15 13	26 1	
P11	方形	22 21	12 12	39 8	
P12	楕円形	84 51	17 14	36 2	
P13	方形	35 22	12 6	46 8	
P14	円形	34 30	25 21	26 6	
P15	方形	32 30	11 11	33 6	
P16	方形	64 50	30 24	24 0	
P17	方形	33 33	20 19	28 4	
P18	不明	57 55	37 29	26 3	
P19	不明	60 46	18 10	25 2	
P20	方形	86 70	11 10	42 3	
P21	円形	43 39	16 15	23 5	
P22	不明	54 32	43 15	31 6	
P23	不明	51 51	19 12	42 5	
P24	方形	41 34	25 15	58 0	
P25	方形	90 63	52 45	35 4	
P26	円形	57 56	31 29	32 6	
P27	方形	42 37	23 16	22 9	
P28	方形	50 45	19 13	48 7	
P29	不明	57 39	8 3	33 6	
P30	不明	59 57	16 12	59 6	
P31	方形	57 49	17 14	55 1	
P32	方形	65 55	28 25	40 2	
P33	不明	35 26	17 14	19 4	
P34	不明	82 76	58 41	33 2	
P35	不明	59 33	27 17	32 5	
P36	楕円形	60 43	25 25	21 6	
P37	円形	37 33	23 18	39 3	
P38	円形	53 47	21 18	30 5	
P39	円形	50 45	19 19	53 4	
P40	円形	54 43	40 20	31 2	
P41	円形	96 89	47 41	32 4	
P42	(円形)	104 93	55 45	34 2	
P43	円形	77 71	29 29	44 1	
P44	ひょうたん形	62 30	15 13	83 2	
P45	方形	28 23	15 11	67 4	
P46	円形	75 74	60 50	26 9	
P47	方形	47 36	29 14	47 0	
P48	円形	55 52	40 40	14 9	
P49	円形	22 20	12 8	27 7	
P50	不明	53 50	30 27	23 3	
P51	楕円形	80 51	24 18	32 1	
P52	円形	53 48	34 28	40 4	
P53	欠番				
P54	ひょうたん形	101 70	49 46	42 0	
P55	欠番				
P56	方形	65 65	38 31	48 9	
P57	楕円形	76 48	23 22	43 6	
P58	不明	55 29	22 13	32 1	
P59	方形	55 45	24 15	45 4	
P60	円形	69 59	52 34	32 2	
P61	不整形	103 77	75 51	17 6	
P62	方形	42 27	4 3	121 2	
P63	楕円形	160 55	11 7	32 9	
P64	円形	66 52	38 27	32 4	
P65	楕円形	86 63	23 23	53 7	
P66	円形	69 61	41 33	32 2	
P67	円形	40 35	23 13	25 2	
P68	楕円形	123 83	92 60	25 4	
P69	不明	55 43	19 9	68 2	
P70	不明	80 42	27 15	45 2	
P71	方形	58 48	31 28	20 2	
P72	方形	43 41	23 20	25 7	
P73	方形	23 20	14 7	16 9	

第 33 表 西ノ原遺跡第 147 地点 172 号住居跡ピット一覧表 単位 cm

No	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	円形	61 50	34 30	73 9	

第 34 表 西ノ原遺跡第 147 地点集石土坑一覧表 単位 cm

No	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
集石土坑 1	円形	47 41	4 4	32 9	

第 35 表 西ノ原遺跡第 148 地点 75 号住居跡ピット一覧表 単位 cm

No	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	方形	50 46	37 29	40 2	

第 36 表 西ノ原遺跡第 148 地点土坑一覧表 単位 cm

No	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
土坑 1	円形	187 147	140 124	38 6	
土坑 2	楕円形	158 104	106 67	32 2	
土坑 3	不明	184 85	157 77	32 5	
土坑 4	不明	115 69	86 57	33 1	

## 172号住居跡出土遺物

1は、14現存、2は34現存。2の不足箇所を1で補い組み合わせるや体土器として使われたもの。1は口径29cm。Lrの燃系文を施した後、粘土紐で口縁部文様帯の上下の区画を貼り付け、その間にS字状文と十字状文を貼り付けたもの。2は口径37cm。地文はLrの燃系文。粘土紐で口縁部文様帯を上下区画し、その間、渦巻きあるいはS字状の文様を貼り付けたもの。口縁部に図示左半分に突出部がある。突出部は下部の文様が接する箇所につけられ、現存では4ヶ所に認められ、欠損部にも想定され、全体では5ヶ所(5単位)になるのは確実である。

3は、2004年度調査によって、出土した土器と今回の調査で出土した土器が接合し、全形が判明した。口縁部25、胴部12現存。口径39.5cm。地文はLRの単節。口唇部は1cmほど外側にくの字状に突出させ古い段階の要素であるが、全体に丸みがあって名残がうかがえる。口縁部文様帯は図示正面の半渦巻き文と図示左端の渦巻き文は、上向きに張り出す「張出渦巻き文」である。この「張出渦巻き文」は、2ヶ所しか現存しないが、ちょうど全周の15に配置されていることから5単位の土器文様と推察してみた。胴部文様は、隆帯とその脇に波状平行沈線文による「U」字文を施し、その中央に隆帯で上部を弓なり十字文で組んだ懸垂文を加えている。この「U」字文は、全く同じ文様構成で23の胴部に2ヶ所見られることから、胴部文様は3単位文様と推察される。

覆土から勝坂式末期から加曾利E式の土器破片が出土している。4・5は勝坂式末の土器で、4は、口縁部と胴部を隆帯で区画し、斜めの刻みを施したもので、5は、口縁部文様帯を丸い工具で押圧した棒状隆帯をめぐらせたもので、当地域の地域性の強い土器。6は、加曾利E式で口縁部文様に渦巻き文で、7は口縁部文様帯中央に当たる渦巻き文の連結で、地文に燃系文Lrを施している。8、9は上記の土器の胴部破片で非常に細かい燃系文Lrを施している。10は、口縁部文様を沈線で重ね渦巻き文、いわゆるブラジャー土器と言われていたものである。

11、12は、加曾利E式の古段階の連環文土器。いずれも地文が条線である。11は口縁部内側に隆帯を加飾して『フ』の字状にしたもの、12は連環文が流れている。

13・14は、加曾利E式の浅鉢形土器。13は沈

線で平行線を描き、沈線文と同じ刻みを施す、14は器面表面が非常に研磨され、渦巻き文がなだらかに施文されている。

15は底部に近い土器で、隆帯の脇に沈線でナゾリが施されたもの、16・17は底部破片で、16は燃系文Lrが施文。

18は、打製石斧。撚形完形。長さ10.4cm、最大幅6.2cm、最大厚1.6cm、重さ126g。左側側面には大きく自然面が残り、右図には横割ぎの第一次剥離痕が残る。側面調整は、細かく施され、両側面の紐ずれ使用痕が顕著である。石質は、ホルンフェルスである。

19は、自然石を利用した敷き石である。長さ11cm、最大幅4.8cm、最大厚3.2cm、重さ289g。右側面には、図面中央部に図示したように平坦な磨り面がある。石質は、硬質砂岩である。

## 住居外出土土器

20は、172号住居跡の北西部の壁外で、二重の段がついたビット46に隣接した箇所からまとまって出土したものを復元した。加曾利E式で住居跡よりも新しい。口径25cm(12現存)。丸く太い沈線で文様が付けられ、地文はRLの単節縦回転である。口縁部文様は渦巻きと構円文の組み合わせによる。現存部に3個の渦巻きが認められる。このうち2個の渦巻きが内から外へ右巻き、他の1個は内から外へ左巻きである。全体では5単位となると推察される。懸垂文は、残存箇所では渦巻き文に対応していて、懸垂文上端は「U」字状に連結している。風化が激しく器内面の剥落から炉体土器に使われたものが廃棄されたか。集石土坑1出土遺物

1は、加曾利E式、口頸部から胴部にかけての土器で、胴部の粘土紐による大きな渦巻き文がうかがえる。地文に燃系文Lc

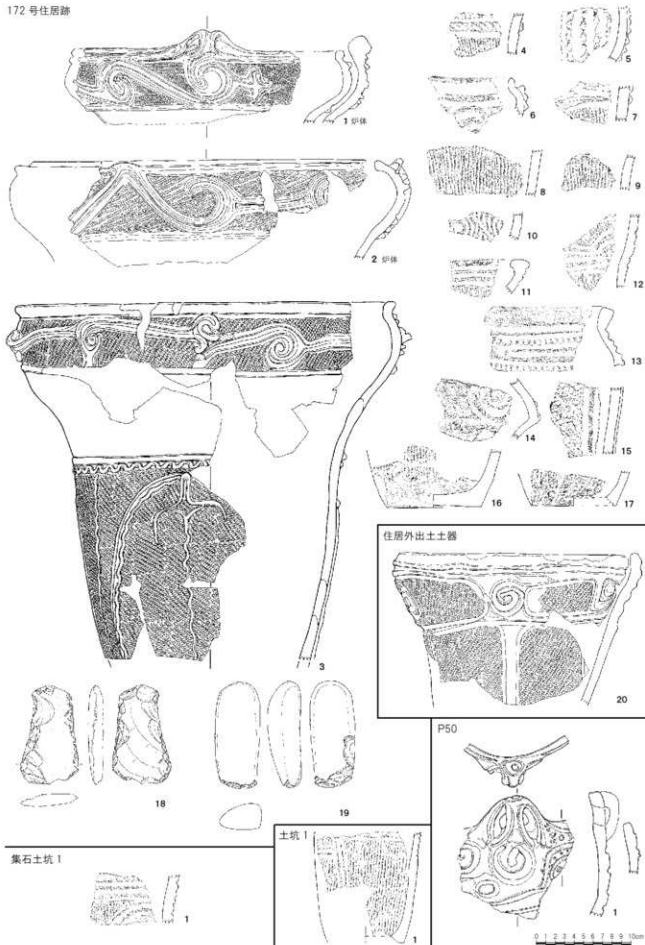
## 土坑1出土遺物

1は、加曾利E式。胴部下半で、地文に燃系文Lc半截竹管による懸垂文で、二重に描いたもの。横位にも連結している。

## ビット50出土遺物

1は、楕形になる、唐草文系の土器。色調濃い赤茶色。突起は加曾利E式の172号住居出土の炉体土器1に似る。その下に単独の渦巻き文を付ける。口縁部上方に竹管を垂直に押しつけて円形文を加えている。器面の外面は磨かれているため観察できないが、内面には、白色の小砂利が多量に混じるのが観察される。

172号住居跡



集石土坑 1



第 63 図 西ノ原遺跡第 147地点 172号住居跡・集石土坑・土坑・ピット出土遺物 14

## 遺構外出土遺物

遺構外からは、勝坂期から加曾利 E 式まで出土している。いずれも小片である。1 は、勝坂式の胴部破片。胴部の文様を隆帯により区画し、隆帯は大きく耳状に隆起して刻みが付けられている。2 は、勝坂式土器。キャリバー状の器形で RL の単節を斜め回転し、条が縦になる。内面は竹管工具で抉られている。3 は、曾利系の土器、胴部下半で隆帯による蛇行懸垂文が付く。蛇行沈線は半截竹管工具で帯の側面を交互に押圧したもの。4 はキャリバーの器形に沈線で重ね渦巻き文をつけたもの、5 は、大形の有孔鐏付き土器かもしれないが不明。大きな二重の渦巻き文の間を、半截竹管状の工具で交互に斜め下方から上方に向けて刺突したものの。

6 は、打製石斧である。上半部は欠損している。上部に若干のくびれがある短冊形。刃部は丸く調整されている。最大幅 5.2cm、厚さ 1.3cm。石質は、片岩である。

7 は、大形石匙と思われる。図左側に大きな自然面を残し、側面にくびれを施して上端につまみ部を作る。長さ 8.2cm 最大幅 5.3cm、重さ 86g。石質は、

ホルンフェルスである。

8 は、自然石を利用した敲き石である。長さ 9.5cm、最大幅 4.3cm、最大厚 3.3cm、重さ 230g。下端部全面に敲き痕がある。石質は、硬質砂岩である。

9 は、自然石で、下端部に敲き痕がある敲き石である。長さ 9.3cm、最大幅 6.0cm、最大厚 2.2cm 重さ 197g。石質は、硬質砂岩である。

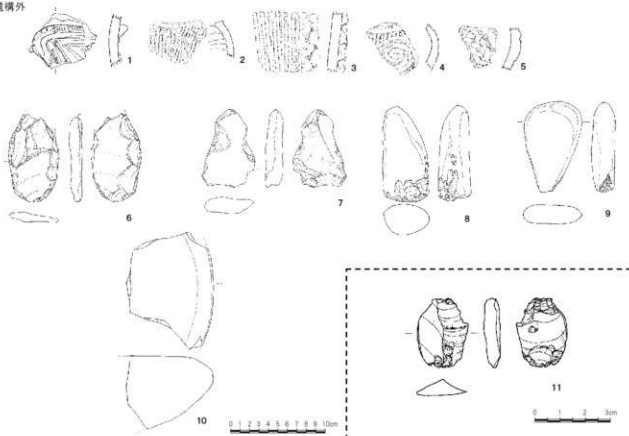
10 は、石皿の破片である。石皿表面は、微かにくぼんでいる。石質は、閃緑岩である。

11 は、剥片である。石質は、気泡が多い黒曜石である。調整途中で破棄したものか。

## 75号住居跡出土遺物

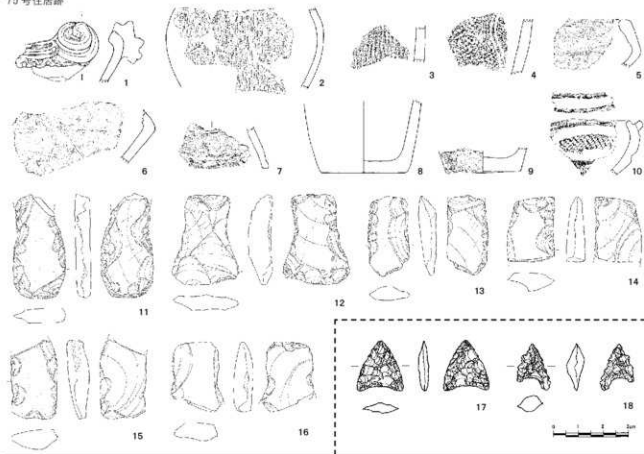
1 は、口縁部文様帯が上半部に集中し、粘土紐による渦巻き文と交互刺突文をほどこされたもので勝坂末期の土器。2 は、胴部上半の土器で口縁部が欠。条線を縦に施文のみの土器、勝坂式土器。3 は勝坂式土器。単節 RL を斜め下方に回転し、条が縦になったもの。4 は、加曾利 E 式の胴部破片、地文は RL の単節。半截竹管による緩い蛇行懸垂文がつく。5・6 は無文の浅鉢形土器。勝坂期。7 は、台付き土器の台の部分。無文で台の下端に沿って突出させたもの。8・

## 遺構外

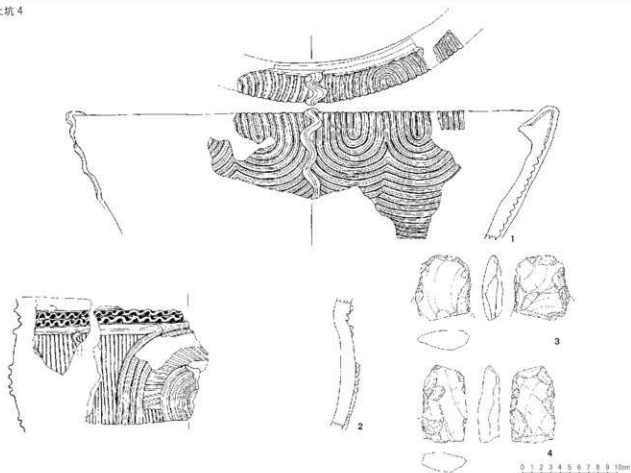


第 64 図 西ノ原遺跡第 147 地点遺構外出土遺物 2・3・14

75号住居跡



土坑 4



第 65 図 西ノ原遺跡第 148地点 75号住居跡・土坑 4出土遺物 23・14

9は底部の破片。8はよく磨かれた無文である。9はLrの摺系文が施されている。

10は、加曽利 E 式土器、口縁部に太い沈線槽円文がつき、口唇部外側に粘土紐を貼り緩い波状口縁をつくる。

11は、短冊形打製石斧。先端部欠損。石質は硬質砂岩。最大幅は、5.5cm、最大厚が1.6cm。図右側に平坦な自然面が残る。右図のように、第一次剥離は横剥ぎである。

12は、楕円形石斧で完形。刃部部最大幅7.1cm、長さ9.5cm、くびれ部厚さ2.4cm、重さ161g、くびれ部幅は、4.3cm。石質は、ホルンフェルス。

13は、短冊形打製石斧。刃部先端、上端が欠損。くびれ部幅4.2cm、くびれ部厚さ1.8cm。石質は、硬質砂岩。

14は、短冊形打製石斧。先端が欠損。石質は、硬質砂岩。残存幅5.0cm、片面に自然面が残る。

15は、若干くびれのある短冊形打製石斧。側面の紐ずれ痕は、摩耗が激しい。石質は、ホルンフェルスである。くびれ部最大幅4.8cm、くびれ部厚さ2.2cm。

16は、楕円形打製石斧である。刃部欠損。両側面には、若干のくびれがある。石質は、硬質砂岩。くびれ部幅5.0cm。

17は、石鏃。完形。長さ1.9cm、最大幅1.8cm、

厚さ0.4cm、重さ1g。石質は黒曜石。両側面にはゆるいカーブがあり、下端が尖っている。ゆるいカーブを成した2mmの挟りがある。

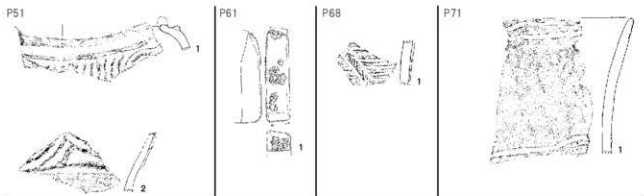
18は、石鏃。一部欠損。長さ1.8cm、最大幅1.3cm、厚さ0.7cm、重さ0.82g。石質は黒曜石。片側はゆるくカーブし、右図の右下端は欠損しているらしい。右図側面は、剥離による凹凸が激しい。推定挟り部は、5mmである。

#### 土坑4出土遺物

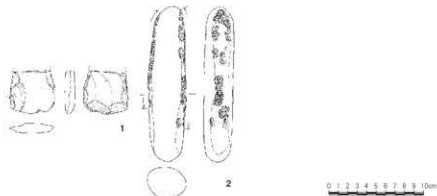
大形土器の破片が1個体分出土している。1は、口径51cm(現存部1.3)、口縁部は1.2ほどあるが接合しない。曾利式土器で、半截竹管の工具で重弧文の文様がつく。重弧文は内面で交互に連結する。口縁部から4単位の蛇行懸垂文が付けられている。胎土は砂粒を多く含む。色調外面黒褐色、内面明茶色で器厚は1.5mmほどあって厚い。2は、1と同一個体であるが接合しない。胴径37cm(推定)。大型渦巻き文が4本の粘土紐を貼り付けたもの。地文は半截竹管により施文されている。

3は、楕円形打製石斧。刃部欠損。石質は、ホルンフェルス。片側は大きな剥離面である。くびれ部幅5.5cm、くびれ部厚さ2.2cm。

4は短冊形打製石斧。刃部欠損。石質は、ホルンフェルス。くびれ部最大幅は4.8cm、くびれ部厚さは2.2cm。



遺構外



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10cm

## ビット 51出土遺物

1は、渦巻き文を中心にして沈線で渦巻き文に連続弧線を加えたいわゆるブラジャー土器で、右端に突起が付いている。2は、加曾利 E 1 式のキャリパー形の土器で、無文部と口縁部文様帯の境の土器は破片。

## ビット 61出土遺物

1は敲击石。半欠品。側面と上端に敲击痕がある。長さ 9.5cm。石質は、硬質砂岩。

## ビット 68出土遺物

1は勝版式土器でコの字状の隆帯に細かい刻みと、沈線が加わったもの。

## ビット 71出土遺物

1は、加曾利 E 式土器。地文に縦に全面 6 本単位の条線で、口縁部直下と胴部に横位に 2本の沈線を加えたもの。連弧文土器の一種。

## 遺構外出土遺物

1は、短冊形打製石斧。刃部の破片。石質は、ホルンフェルス。

2は、敲击石完形。長さ 16.3cm。370.6g。側面に敲击痕あり。石質は、角閃岩。

## 西ノ原遺跡第 149地点

## (1) 調査の概要

調査は事務所建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が 2010年 12月 7日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の東部に位置し、145地点の南東部に隣接するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2011年 2月 7日から 2月 10日まで、幅約 2mのトレンチを 3本設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。調査の結果、近世以降の溝 1本を検出した。遺構確認面までの深さは約 40cmである。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

## (2) 遺構と遺物

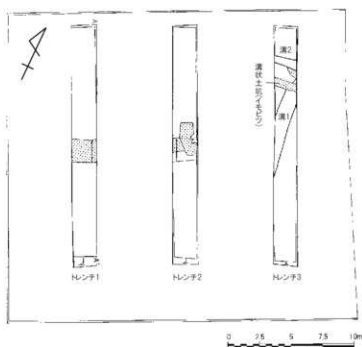
## 溝

東西方向の溝と南北方向の溝を検出している。いずれも 1957年以前の土地境と位置が一致しており、近世以降の土地境の溝である。

溝 1は南北方向の溝で、南側の 145地点で検出した溝 2と連なる。「西ノ原公園」(1872年)で記載された村道と重なるが、この村道は公園に紙を貼って消されている。東西方向の溝状土坑(イモビツ)に壊される。溝の上幅は 120cm、下幅は 25~40cm、断面形状は緩やかに立ち上がる「U」字形で、深さは確認面から 30cmである。

溝 2は東西方向の溝で土地の境と重なる。溝の上幅は 55cm、下幅は 10cm、断面形状は「U」字形で、深さは確認面から 20cmである。

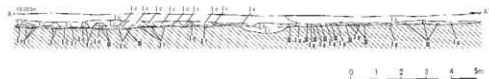




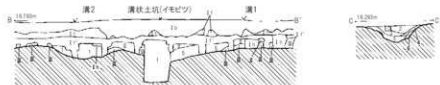
表土

- 1 a 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(5mm以下)多く含む  
 1 b 黒褐色土 ローム粒(3mm以下)少し含む  
 1 c 暗褐色土 ロームブロック(10cm以下)や黒褐色土が不均一に混ざる  
 1 d 黒褐色土 大型のロームブロック(1~10cm)少し含む  
 1 e 黒褐色土 色調褐色味が有る、ローム粒(3mm以下)層がに含む  
 1 f 黒色土 ロームブロック(20cm以下)・黒灰色シルトブロック(30cm以下)やや多く含む  
 1 g 暗灰色土 締り強、ローム粒(5mm以下)多く含む、レンジャー直層土  
 1 h 黒褐色土 ロームブロック(20cm以下)やや多く含む、レンジャー直層土  
 1 i 暗褐色土 締り強、ロームブロック(10cm以下)多く含む、レンジャー直層土  
 1 j 黒色土 1 eに似るがレンジャー層より厚い、大型のノアロームブロック(80cm以下)多く含む  
 II 盛土、暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)やや多く含む  
 III ローム地山  
 溝1  
 1 暗褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック(5~10cm)少し、ローム粒(3mm以下)多く含む  
 2 暗褐色土ベース 締り強、粘性有、ロームブロック(30cm以下)・黒色土をやや多く含む、現状を呈する  
 3 暗褐色土 締り強、粘性やや弱、ローム粒(3mm以下)多く含む、黒灰色シルト少し含む、以下水成堆積  
 4 黄褐色土 締り強、粘性やや弱、ローム粒(3mm以下)主体、黒灰色シルト少し含む  
 5 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(5mm以下)多く、ロームブロック(1~4cm)黒灰色シルトブロック(長4cm以下)やや多く含む  
 6 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(20mm以下)少し含む

トレンチ1



溝1



溝2

- 1 暗褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック(20cm大)少し、ローム粒(3mm以下)やや多く含む、II層に似るが黒色味が有る  
 2 黒褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック(15cm大)・ローム粒(2mm以下)少し含む、褐色味強い  
 3 黒褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック(20cm大)・ローム粒(5mm以下)・黒灰色シルトブロック(20cm大)少し含む  
 溝状土坑(イモビツ)  
 1 黒褐色土ベース 締り強、粘性やや弱、ロームブロック(60cm以下)主体

第 67 図 西ノ原遺跡第 149地点遺構配置図(1 300)、土層図(1 150)、溝 1 80)

## 第11章 神明後遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

神明後遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約300m、さかい川の谷頭部から約1.500m下った右岸に位置し、標高12～16m、現谷底との比高差は1.5mを測る。さかい川は本遺跡付近から崖を形成し始め、本遺跡をのせる南側台地は急斜面、対岸の北側は緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、上流に中沢前遺跡、下流に浄禅寺跡遺跡、苗間東久保遺跡が隣接し、さかい川の対岸には富士見市の外記塚遺跡がある。

遺跡周辺は古くからの集落があり、現在でも大きな屋敷地が多く大きな開発もなかったが、ふじみ野駅の開設に伴い徐々に再開発が進みつつある。

本遺跡の最初の調査は1987年に大井町史編纂事業の一環として行われた。その後1993年に新駅へ延びる道路をはじめ、2013年12月現在50地点で試掘調査および発掘調査が行われている。

これまでの調査で縄文時代中期後半～後期前半の住居跡、奈良時代から平安時代の住居跡、中世の建物跡などの遺構を検出した。

### II 神明後遺跡第42地点

#### (1) 調査の概要

調査は宅地造成に伴うもので、原因者より「埋蔵文

化財事前協議書」が2010年5月20日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の隣接地であるが、申請者と協議の結果、遺構範囲を確認するために試掘調査を実施した。

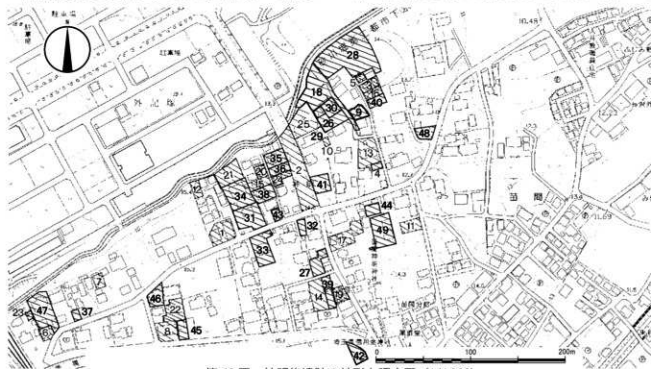
試掘調査は同年6月1日から2日まで、2×2mのグリッド11ヶ所を設定し、人力による表土除去と表面精査を行ったが遺構遺物は確認されなかった。遺構確認面までの深さは約60cmである。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

### III 神明後遺跡第43地点

#### (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年9月6日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2010年10月20日から22日まで、幅約1.5mのトレンチを3本設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、遺構を確認した。遺構確認面までの深さは約40～50cmで、盛土等による遺構の保存が困難なため、補助事業の対応で10月22日本調査を行った。欄列状に並ぶ近世以降のビツ



第68図 神明後遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

ト7基を検出した。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成など記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

## (2) 遺構と遺物

### ① ビット

調査区北東部でビットを7基検出した。柵列状に並ぶ。軟質の土で近世以降と思われる。

第39表 神明後遺跡第43地点遺構一覧表(単位 cm)

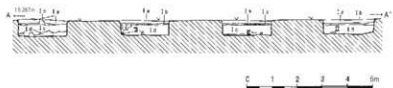
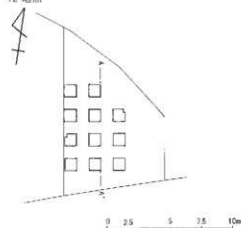
No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	楕円形	52×38	16×10	66.0	
P2	方形	35×30	21×20	48.7	
P3	不明	41×(35)	12×10	61.1	
P4	方形	45×40	31×30	47.0	
P5	不明	92×(89)	22×15	56.8	
P6	不明	(28)×28	17×16	40.8	
P7	方形	34×25	24×15	24.2	
溝状土坑	不明	(151)×58	(148)×53	24.2	

第38表 神明後遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間(日)は試掘調査	面積(m <sup>2</sup> )	調査原因	確認された遺構と遺物	所在報告書
1	苗間 281-1	1993.5.6～11	615	共同住宅	遺構なし。平安時代瓦器数片、陶器片	町内書
2	苗間 295-2,299-3	1993.5.12～20	1,688	道路築造	溝とし穴1、平安住居跡1軒(計1号)、縄文土坑1、中近世縄文建物跡、地下式竈1、井戸、堀	町内書
3	苗間 309-12	(1993.3.24～29) 1995.4.3～5.19	200	分譲住宅	縄文住居跡1軒(計2号)、伏魔2、埴輪1、土坑2、ビット34他	町内書
4	苗間 302	(1996.6.17～19)	703	物置	遺構なし。縄文土器片	町内書
5	苗間神明後 305-5	(1997.3.15)1997.3.15～4.2	80	個人住宅	縄文住居跡1軒(計3号)、土坑5、溝、堀 縄文中期後半～後期銅器土器	町内書
6	苗間 255-2,27-2	(1997.9.29～30)	150	個人住宅	土坑1、土器片・石器片	町内書
7	苗間 260	(1998.6.1～2)	1,460	個人住宅	近世地下室1	町内書
8	苗間 235-1	(1998.7.13～24)	458	共同住宅	縄文土器片	町内書
9	苗間 310-1	(1998.9.1～11)1998.9.14～10.15	219	共同住宅	縄文住居跡4軒、集石土坑1、溝とし穴1、縄文土坑2、近世土坑1、井戸2、地下室1、ビット33	町内書
10	苗間 298-1	(1999.9.16)	44	個人住宅	遺構なし。縄文土器片	町内書
11	苗間 366	(1999.10.21)1999.10.22～26	239	個人住宅	土坑17、ビット7	町内書
12	苗間 282-2・5	(2000.3.6)	211	共同住宅	遺構遺物無し	町内書
13	苗間 302-1	(2000.4.17～19)	694	個人住宅	土坑12、ビット	町内書
14	苗間 252-2	(2000.8.18～23)	357	共同住宅	土坑1、近世田圃建物跡1棟、溝2、井戸1、堀列、ビット38	町内書
15	苗間 293-13	(2001.4.11)2001.4.12～13	163	個人住宅	集石土坑1(個玉台型)	町内書1
16	苗間 309-14	(2001.7.23～24)2001.7.25～9.3	165	個人住宅	縄文城外環壕4、土坑13、溝2、地下式竈1、地下室1、惣穴状遺構1、ビット38	町内書1
17	苗間 369-1	(2002.3.28)	581	個人住宅	近世溝	町内書
18	苗間 304-1,303-6	(2002.5.15～25)2002.5.27～6.21	672	分譲住宅	縄文中期住居跡38号～12号1、土坑、古代・中世陶器類	町内書2
19	苗間 284-4	(2002.9.18～20)	216	個人住宅	堀列溝、溝4	町内書2
20	苗間 293-11	(2003.1.14～15)	143	個人住宅	中～近世溝2、ビット2	町内書2
21	苗間 283-1	(2003.1.10～30)	674	土地造成	ビット7、井戸1、近世地下室2、土坑1	町内書2
22	苗間 235-2・3	(2003.7.8～29)	430	分譲住宅	井戸1、土坑10、ビット38、(1)の堀列陶器	町内書2
23	苗間 253	(2004.4.8)	62	個人住宅	地下室1、竈	町内書2
24	苗間神明後 293-4・10	(2004.9.30～10.7)	148	個人住宅	遺構・遺物無し	町内書2
25	苗間 295-1	(2004.9.30～10.7)	660	試掘併用住宅	遺構・遺物無し	町内書2
26	苗間神明後 301,303-3～5・7,304-1	(2005.6.1～8) 2005.6.15～30	689	分譲住宅	縄文中期住居跡1(113号)、中世地下式竈、近世土坑5、溝	調査18集
27	苗間 248-2,249-1	(2005.7.20～25)2005.7.27～29	385	共同住宅	縄文中期住居跡1(144号)	調査18集
28	苗間神明後 306-1	(2006.5.8～31) 2006.6.29～10.5	2,171	宅地造成	縄文中期住居跡1(115～25号)、集石23、土坑5、溝とし穴1、惣穴3、ビット、溝4、古代・中世陶器類1	町内書3
29	苗間神明後 303-21・24	(2006.5.8～11)2006.5.12～19	136	個人住宅	ビット1、古代・中世陶器類1	町内書3
30	苗間神明後 303-1	(2006.5.8～19)2006.12.14～19	101	個人住宅	ビット2	町内書3
31	苗間神明後 284	(2007.8.1～7)	499	個人住宅	土坑2	町内書4
32	苗間神明後 247-2	(2008.3.13)	136	個人住宅	溝・堀列遺跡	町内書4
33a	苗間 240-2	(2008.4.25～5.16)	298	個人住宅	溝とし穴1、中世以降溝6、井戸2、土坑38、ビット16	町内書6
33b	苗間 240-2	(2008.4.25～5.16)	357	分譲住宅		町内書6
34	苗間字神明後 283-1,284-1の一部	(2008.4.30～5.16)	1,693	個人住宅	縄文中期住居跡1(26号)、溝とし穴1、集石3、ビット	町内書5
35	苗間字神明後 293.6・20	(2008.8.1)	247	個人住宅	遺構・遺物無し	町内書6
36	苗間字神明後 293-3	(2008.9.2)	165	個人住宅	ビット1	町内書6
37	苗間 258-1の一部	(2009.4.13)2009.4.15～30	120	個人住宅	縄文中期住居跡1	町内書8
38	苗間字神明後 293-1,292-13	(2009.7.6～7)2009.7.8～16	265	個人住宅	中近世溝1	町内書8
39	苗間字神明後 264-1	(2009.8.5～12)2009.8.24～9.1	378	共同住宅	中～近世溝2、ビット28、溝とし穴1	町内書7
40	苗間 309-1	(2009.11.9～16) 2009.12.18～2010.1.15	156	個人住宅	縄文集石土坑1、中世地下式竈2、井戸1、惣穴状遺構1、土坑9	町内書8
41	苗間字神明後 298-1,299-1の一部	(2010.5.25～31) 2010.6.15～7.21	486	共同住宅	縄文時代集石土坑1、中世の堀列建物跡、方形惣穴状遺構16、溝5、本窓室1、ビット214、本調査(140号)	町内書9
42	苗間神明後 380-3	(2010.6.1～2)	312	宅地造成	遺構・遺物無し(隣地掘)	町内書10
43	苗間 292-14	(2010.10.20～22)2010.10.22	107	個人住宅	中世～近世間ビット7、本調査	町内書10
44	苗間神明後 367-1,368-1の一部	(2011.7.30)2011.7.11～13	1,533	個人住宅	溝とし穴1、土器・陶器片	未報告
45	苗間神明後 235-9	(2011.12.5)	200	個人住宅	遺構遺物無し	未報告
46	苗間神明後 235-6	(2012.4.9～10)	243	個人住宅	縄文土坑1、土器片	未報告
47	苗間神明後 227-2	(2012.4.24)2012.4.25～5.8	330	個人住宅	縄文時代集石土坑3、縄文土器片	未報告
48	苗間神明後 315-1の一部	(2012.5.7)2012.5.8～14	171	個人住宅	井戸2、溝1、土坑、ビット、板葺、カワラテ、近世陶器類、石匠	未報告

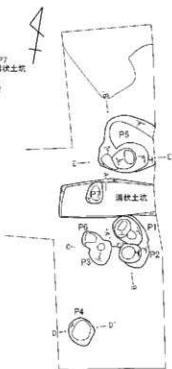
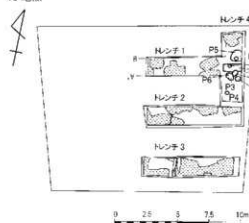
※町：大井町町内調査報告書、調査：大井町遺跡調査報告書、市：ふじみ野市市内調査報告書

42 地点

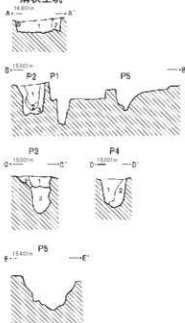


- 表土・耕作土  
 1 a 黒褐色土 締り弱、ローム粒(1mm以下)少し含む  
 1 b 暗褐色土 締り強、ローム粒(2mm以下)やや多く含む  
 1 c 黒褐色土 締り強、ローム粒(5mm以下)少し含む  
 1 d 黒褐色土 締り強、ロームブロックを多く含む  
 II 黄褐色ソフトローム

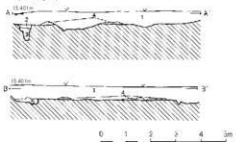
43 地点



溝状土坑



トレンチ1



- 1 表土・黒色土 締り弱、ロームブロック・ガラ含む  
 2 黒褐色土 締り弱、ローム粒(〜3mm)極多く含む  
 3 暗褐色土とローム粒の混合土 締り弱  
 4 褐色土 ソフトローム、地山  
 5 黄褐色土 締り弱、ローム粒・塊主体、重機掘削の壁  
 溝状土坑  
 1 暗褐色土 締り弱、ローム粒(1〜3mm)極多く含む、イモビツ  
 2 黒褐色土 締り弱、ローム粒(1〜3mm)極多く含む、塵乱の小さいゼット、イモビツより古い  
 3 ソフトローム、褐色土 締りやや弱

ピット2

- 1 黒色土とローム粒の混合土  
 2 層にロームブロック  
 3 ローム粒主体、黒色土層入  
 ピット3  
 1 ピット4の2層と似る、ロームブロック無し  
 2 ローム粒主体、黒色土少し層入  
 3 暗褐色土 締り弱  
 ピット4  
 1 暗褐色土とローム粒の混合土 締り弱  
 2 黒色土 締り強、ロームブロック(5cm以下)、ローム粒(1〜3mm)多く含む

第 69 図 神明後遺跡第 42・43 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、溝状土坑・ピット (1/60)

## 第12章 浄禪寺跡遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

浄禪寺跡遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約600m、浄禪寺川の湧水地南側から右岸の台地上に位置する。標高12～14mで現谷底との比高差は2mを測る。浄禪寺川はさかい川と砂川堀の間を東流し、さかい川に合流する。さかい川はやがて砂川堀に合流して新河岸川へと注ぐ。

周辺の遺跡は北西に神明後遺跡、北側に苗間東久保遺跡が隣接する。本遺跡は1989年に苗間東久保遺跡の一部を、浄禪寺川を境に分割して登録した。

遺跡周辺は市街化が進み、残された畑地も周辺の区画整理の影響で開発が増加している。

2013年12月現在39地点で試掘調査及び発掘調査が行われ、縄文時代早期のがく多数、前期住居跡1軒、中期住居跡1軒、中・近世の薬研状の堀や、遺跡名の由来である浄禪寺墓域から土壌墓157基、一字一石経約76,000点が出土している。旧苗間村の浄禪寺は江戸時代に建立されたが、幕末に焼失して以来再建されていない。

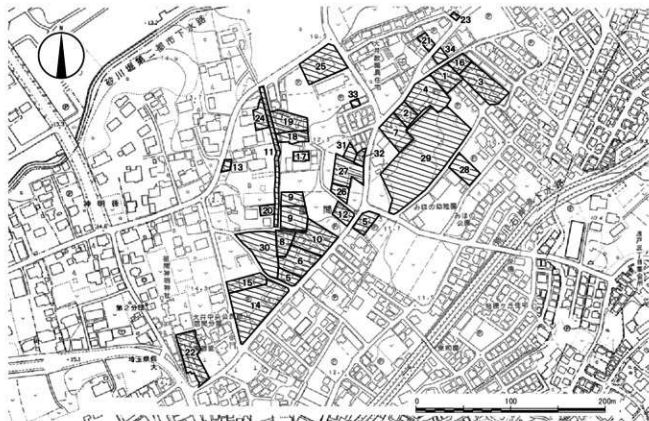
### II 浄禪寺跡遺跡第33地点

#### (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年7月28日付でふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2010年8月6日に、ブロック塀設置予定箇所へ幅約0.7mのトレンチを1本設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、遺構を確認した。遺構確認までの深さは約35cmで、盛土等による遺構の保存が困難なため、補助事業の対応で10月22日調査を行った。土坑1基を検出した。

なお、住宅建築部分は60cmの盛土を行い、保存措置をとることとなった。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成など記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。



第70図 浄禪寺跡遺跡の地形と調査区(1/4,000)

(2) 遺構と遺物

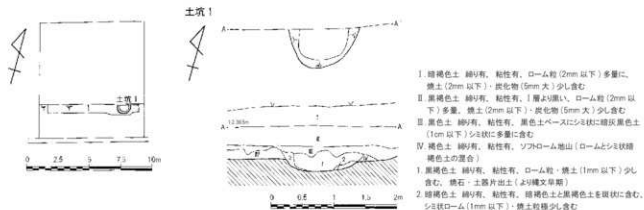
上端東西110cm、下端80cm、確認面からの深さ14cm、  
縄文土器が1点出土している。

①土坑

調査区南東部に土坑を1基検出した。ブロック設置箇所のみ調査のため、土坑北半分は未検出である。

第40表 浄禪寺跡遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 (1は試掘調査)	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	高岡東久保 579	1979.4.3～4.21	605	共同住宅	高岡東久保1地点として報告済み 9穴10、土坑14、縄文早期後半～中期	東部遺跡群Ⅰ
2	高岡東久保 573	1982.4.1～4.3	396	共同住宅	高岡東久保7地点として報告済み 遺構なし、材料縄文土器	東部遺跡群Ⅱ
3	高岡東久保 581	1984.7.20～7.21	320	共同住宅	高岡東久保12地点を浄禪寺3地点とする 遺構なし、縄文中期末	未報告
4	高岡神明後 346-1	1989.11.15～11.25	150	開発予定地	9穴10、土坑7、ビット14、 縄文早期後半～中～中期	東部遺跡群Ⅹ
5	高岡 374-9	1991.8.28～9.3	100	個人住宅	遺構なし、縄文前期～中期(土器)	町内遺跡群Ⅰ
6	高岡 358-1	1991.9.21～12.26	826	個人住宅	遺構なし、遺物なし	町内遺跡群Ⅰ
7	高岡東久保 573-4	1992.10.20～11.20	831	共同住宅	9穴8、9穴3、堀3、縄文早～中期	調査区南東部Ⅴ集
8	高岡 357-1	(1994.9.20～9.27)	615	分譲分譲	溝1穴、朝明溝	町内遺跡群Ⅳ
9	高岡 353	(1994.10.18)、2007.5.22 ～24	1,266	農地改良	土坑、溝、縄文土器、磁器	町内遺跡群Ⅳ、市 内Ⅳ
10	高岡 356-1	1994.10.31～11.2	999	宅地分譲	近世土庫裏、一石経埋納土坑、 六邊溝、江戸中後期	調査区南東部Ⅻ集
11	高岡 352-1 他	(1995.1.9～2.3)	572	道路	溝	町内遺跡群Ⅳ
12	高岡 35-95	1995.9.25～10.21	140	個人住宅	溝	町内遺跡群Ⅴ
13	高岡 314-2	(1996.1.8～1.28)	101	個人住宅	土坑13、ビット11、9穴11、溝2、 縄文早～後期、陶磁器	町内遺跡群Ⅴ
14	高岡 360-1,362-2	(1996.6.3～6.12) 1996.6.18～7.11	2,178	個人住宅	溝跡3、溝1穴1、溝4、ビット251、 石石器、縄文土器、陶磁器片	町内遺跡群Ⅴ
15	高岡 362-4・5	(1996.6.3～6.12) 1996.7.12～8.2	494	分譲住宅	9穴7	町内遺跡群Ⅴ
16	高岡 579-1	1997.11.10～12.19	291	個人住宅	縄文住居1、9穴14、ビット61、土坑16、溝4、縄文早期後半、前期、中 期	町内遺跡群Ⅵ
17	高岡 345-2・10	(1998.9.29～10.25)	877	個人住宅	遺構なし、縄文早期後半、中期後半	町内遺跡群Ⅶ
18	高岡 345-3・4	(1999.5.26～6.24) 1999.6.26～8.3	599	個人住宅	9穴8、集石土坑3、土坑13、ビット27、溝 縄文後期土器、土器	町内遺跡群Ⅶ
19	高岡神明後 345-4	1999.8～9	703	分譲住宅	9穴11、集石2、横土坑4、土坑22、9穴2、溝8、堀3、 縄文早～中期土器、石器、中世後陶磁器、和銅	調査区南東部Ⅾ集
20	高岡神明後 351-1	(2001.10.26～10.28)	223	倉庫	遺構なし、京伊磁器	町内遺跡群ⅧⅠ
21	高岡東久保 591-3,592-7	(2001.11.19～11.28)	182	倉庫	遺構なし、遺物なし	町内遺跡群ⅧⅠ
22	高岡 373-5・8,377-5・3・4	(2002.4.23～5.14)	935	分譲住宅	土坑1、ビット4、溝、遺物なし	町内遺跡群ⅧⅡ
23	高岡 592-1	(2003.4.28)	100	個人住宅	ビット2、溝、遺物なし	町内遺跡群ⅧⅡ
24	高岡神明後 346-1・2の一部	(2004.8.30～8.31)	391	個人住宅	遺構なし、遺物なし	町内遺跡群ⅧⅡ
25	高岡 339-1・2	(2004.9.22～10.12)	721	共同住宅	ビット2	町内遺跡群ⅧⅡ
26	高岡神明後 354-2の一部	(2005.3.3～3.8) 2006.4.17～28.6.7～15	216	分譲住宅	9穴10、土坑8、ビット21、溝1、縄文中期	市内遺跡群Ⅲ
27	高岡神明後 354-2	(2005.12.1～2006.1.22) 2006.1.23～2.23	696	新設道路築造 分譲住宅	付設跡1、9穴15、埋溝2、土坑117、 ビット187、溝1	市内遺跡群Ⅱ
28	高岡宇東久保 719-7,720-1	(2007.1.23)	2,478	湖外整備工事	溝2	市内遺跡群Ⅲ
29	高岡 570-1・2,571-1・2,575	(2007.8.7～9.21) 2007.9.25～11.6	4,920	分譲住宅	掘立村建物跡3、9穴15、土坑15、堀跡1、溝17、陶磁器・和銅物	市内遺跡群Ⅳ
30	高岡 359-1	(2007.9.14～10.9) 2007.10.9～11.2	1,298	分譲住宅	溝跡跡5、木炭窯1、土坑15、溝2、陶磁器・和銅物	市内遺跡群Ⅳ
31	高岡神明後 342-14の一部	(2007.2.19/2007.2.19～ 3.5)	171	個人住宅	付設跡1、9穴11、土坑1、ビット26、縄文土器・石器	市内遺跡群Ⅳ
32	高岡宇神神明後 340-17,342-10・15	(2007.2.25～3.4)	188	個人住宅	堀跡1、ビット1、縄文土器	市内遺跡群Ⅳ
33	高岡神明後 340-21	(2010.8.6)	76	個人住宅	土坑1	市内遺跡群Ⅹ0



第71図 浄禪寺跡遺跡第33地点遺構配置図(1/300)、土坑(1/60)

## 第13章 小田久保遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

小田久保遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約1.3km、砂川堀の左岸、標高23～28mに位置する。本遺跡をのせる台地は緩やかな斜面を形成するが、対岸の南側台地は急傾斜をなす。

周辺の遺跡は、砂川堀を挟んだ南側台地上に旧石器時代の石器・礫群を検出した西台遺跡が、本遺跡の東側、微高地の突端には縄文時代前期住居を検出した大井氏館跡遺跡がある。

本遺跡は市街化調整区域のため比較的武蔵野の面影を残す農村地帯だが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、ここ数年開発の波が押し寄せつつある。

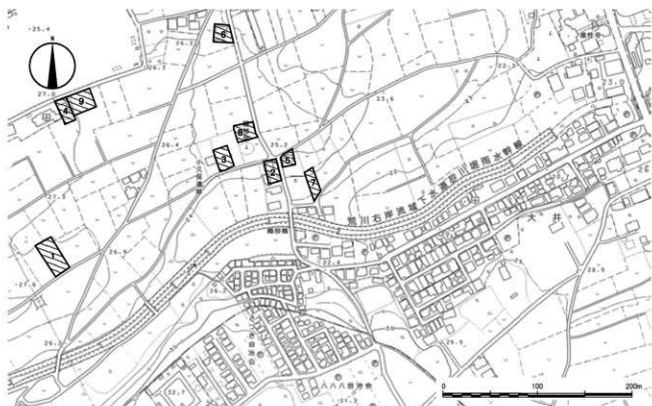
1990年に最初の試掘調査が行われて以来、過去の調査では数点の縄文土器片を確認しているだけであったが、2003年と2004年の調査において本遺跡では初の住居跡を検出したことにより、本遺跡が縄文時代中期の集落である事が明らかとなりつつある。今後は集落の分布や範囲の解明が待たれる。分布調査や発掘調査から遺跡の時期は旧石器時代、縄文時代早期から中期、中近世である。2013年12月現在、9ヶ所で調査を行っている。

### II 小田久保遺跡第9地点

#### (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2011年1月7日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の西部、砂川堀へ下る北斜面に位置している。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2011年3月8日に幅約1.5mのトレンチ4本を設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行ったが、遺構遺物は確認されなかった。遺構確認面までの深さは約25～35cmである。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

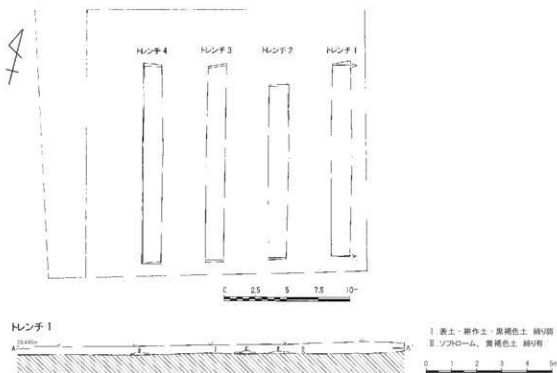


第72図 小田久保遺跡の地形と調査区(1/4,000)

第41表 小田久保遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ( )は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	大井 1223-3	(1990.10.12～18)	694	資材置場	遺構なし、縄文中期土器片	東文Ⅰ
2	大井 1249-1	(1993.9.21～10.1)	498	個人住宅	遺構なし、縄文中期土器片、石器	町内Ⅲ
3	大井 1214-3	(1994.6.7)	330	個人住宅	遺構なし、縄文中期土器片、石器	町内Ⅳ
4	大井 1185-5	(1997.6.24～26)	271	分譲住宅	土坑Ⅰ	町内Ⅶ
5	大井字西原 1023	(2003.8.18、19) 2003.8.20～9.2	165	個人住宅	縄文中期住居跡Ⅰ、縄文土器・石器	町内ⅩⅡ
6	大井字小田久保 1207-5	(2004.10.26～ 10.27)2004.10.28～ 11.13	306	個人住宅	縄文中期住居跡Ⅰ、集石土坑Ⅰ、土坑Ⅱ、ピットⅧ、 縄文土器・石器	町内ⅩⅡ
7	大井字西原 1023-9.8	(2008.5.19～21)	333	個人住宅	遺構・遺物なし	市内Ⅵ
8	大井字小田久保 1211-1	(2010.3.3～9)	421	個人住宅	縄文時代土坑Ⅴ、ピットⅧ、近世以降根切り溝Ⅸ、 縄文土器・石器、泥面子	市内Ⅷ
9	大井字小田久保 1185-1	(2010.3.9)	536	個人住宅	遺構、遺物なし	市内Ⅹ

※東：大井町東部遺跡群、町：大井町町内遺跡群、町資：大井町史資料編Ⅰ、調査：大井町遺跡調査会報告、市：ふじみ野市市内遺跡群



第73図 小田久保遺跡第9地点調査区域図(1/300)、土層図(1/150)



## 第14章 本村遺跡の調査

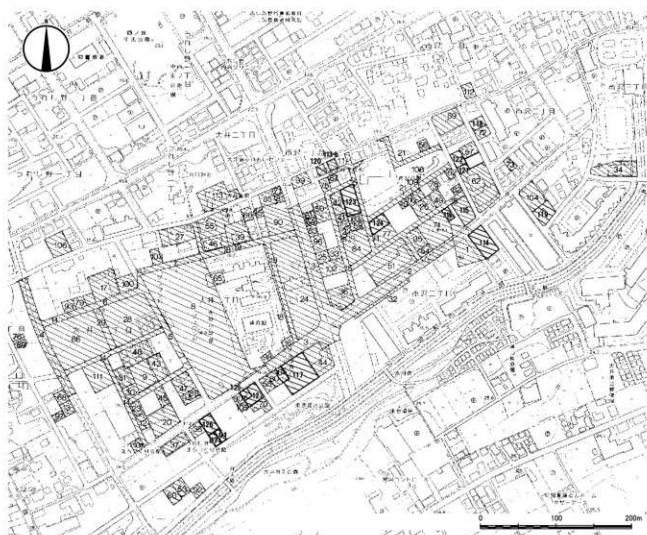
### 1 遺跡の立地と環境

本村遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約800m、砂川堀の左岸で標高15～20mに位置する。遺跡内には旧砂川の流路であった埋没河川が幾筋も認められ、それに取り残されるように微高地が存在する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。

砂川堀の流域には多くの遺跡で、旧石器時代からの人々の活動の跡をみることが出来る。現在においても砂川の果たす役割は当時に増して大きいものであるが、残念ながらその役割は大きく異なり、排水機能としての砂川から排水機能の砂川堀と言うのが現在の状況である。市内を流れる砂川堀も河川改修により、その姿を都市下水路に変え、往時を忍ばせる面影は残されていない。

周辺の遺跡では、砂川堀を挟んで縄文時代中期の大集落と奈良平安時代の製鉄関連遺跡である東台遺跡、旧石器時代の大井戸上遺跡と西台遺跡が位置する。左岸には旧石器時代～縄文時代の小田久保遺跡、旧石器時代～近世の大井氏館跡遺跡が位置する。本遺跡が中世から近世にかけての中心的な集落とするならば、大井氏館跡遺跡は近世川越街道整備以後の中心的な宿場および集落とみることができる。いずれにしても、町内における砂川堀流域の本村遺跡周辺は旧石器時代から現代にかけて良好な生活・住環境であったことがわかる。

2013年12月現在127地点で調査を行い、旧石器時代の礫群・石器集中、縄文時代の落とし穴・が穴、中世～近世の掘立柱建物跡・方形竪穴状遺構・井戸・溝・柵列・地下土壇・茶昆跡などを多数検出している。

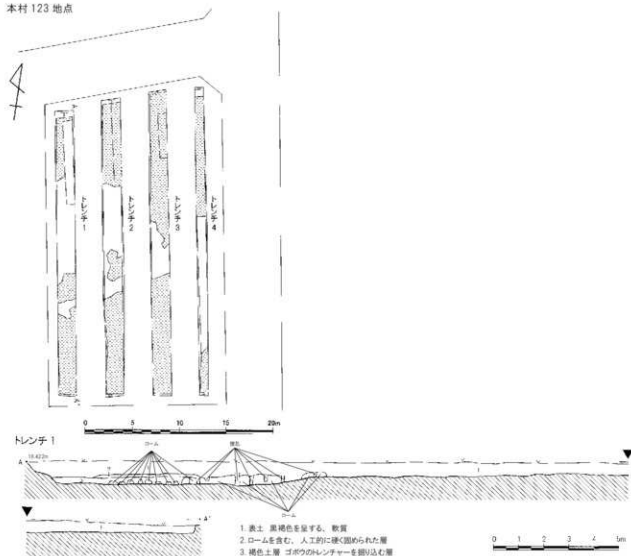


第74図 本村遺跡の地形と調査区 (1/5,000)

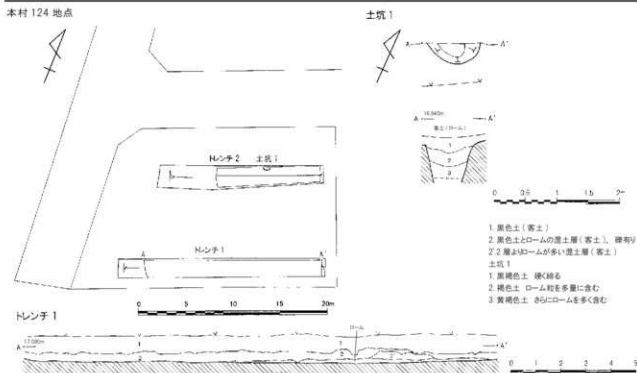




本村123地点



本村124地点



第75図 本村遺跡第123・124地点遺構配置図(1/400)、土層図(1/150)、土坑(1/60)

#### IV 本村遺跡第125地点

##### (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年8月23日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の南部に位置している。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2010年9月6日に、幅約1.5mのトレンチ2本を設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行った。その結果、南側で砂川の旧流路と思われる黒色土堆積を確認したが、他に遺構・遺物は検出しなかった。遺構確認面までの深さは約60cmである。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

#### V 本村遺跡第126地点

##### (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年8月11日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の南部に位置している。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2010年10月4日から6日まで、幅約1～2mのトレンチ4本を設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行った。その結果、区画整理で廃止となった水路跡を確認した。また、地山は黒色であり、砂川の自然流路にあたる。他に遺構・遺物は検出しなかった。遺構確認面までの深さは約50～100cmである。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

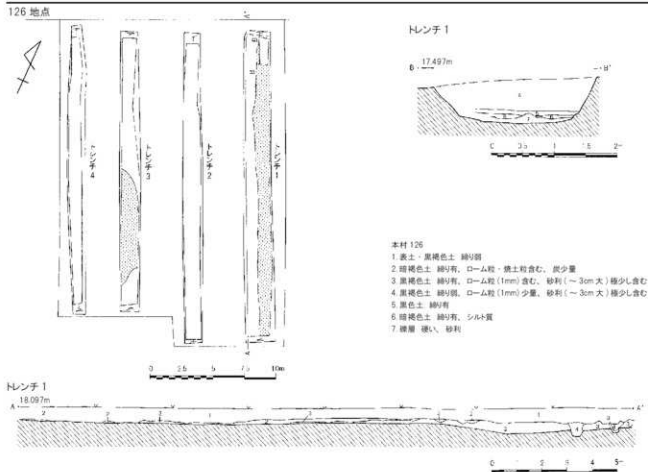
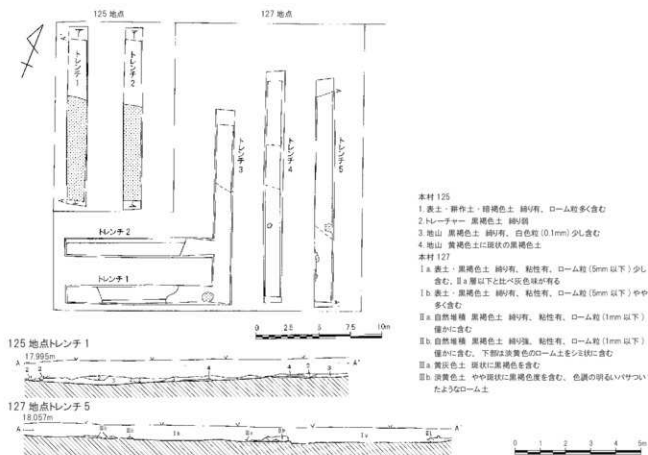
#### VI 本村遺跡第127地点

##### (1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年9月9日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の南部に位置し、125地点の東側に位置している。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2010年11月4日から8日まで、幅約1.5mのトレンチ5本を設定し、重機による表土除去後、

人力による表面精査を行った。その結果、砂川の旧流路と思われる黒色土堆積を確認したが、他に遺構・遺物は検出しなかった。遺構確認面までの深さは約50～70cmである。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。



第 76 図 本村遺跡第 125・126・127 地点構配置図 (1/300)、土層図 (1/150・1/60)





北野遺跡第 19 地点トレンチ 1



北野遺跡第 19 地点トレンチ 2



川崎遺跡第 32 地点全景



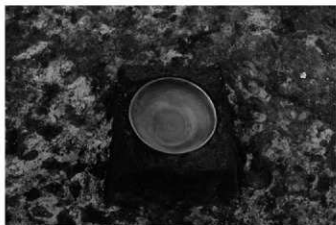
川崎遺跡第 32 地点 H65 号住居跡全景



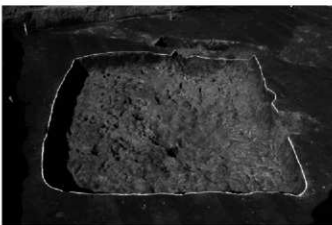
川崎遺跡第 32 地点 H65 号住居跡階段状遺構



川崎遺跡第 32 地点 H65 号住居跡窟



川崎遺跡第 32 地点 H65 号住居跡遺物出土状況



川崎遺跡第 32 地点 H65 号住居跡掘方





川崎遺跡第 32 地点 H66 号住居跡全景



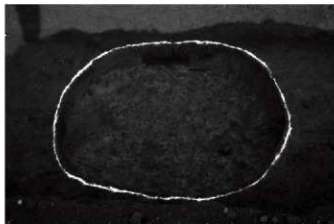
川崎遺跡第 32 地点 H66 号住居跡窟



川崎遺跡第 32 地点 H66 号住居跡掘方



川崎遺跡第 32 地点 H67 号住居跡全景



川崎遺跡第 32 地点土坑 1



川崎遺跡第 32 地点土坑 2

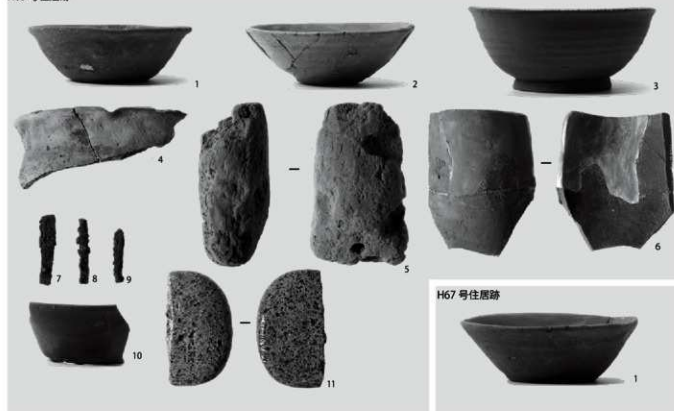


川崎遺跡第 32 地点土坑 3



川崎遺跡第 32 地点調査風景

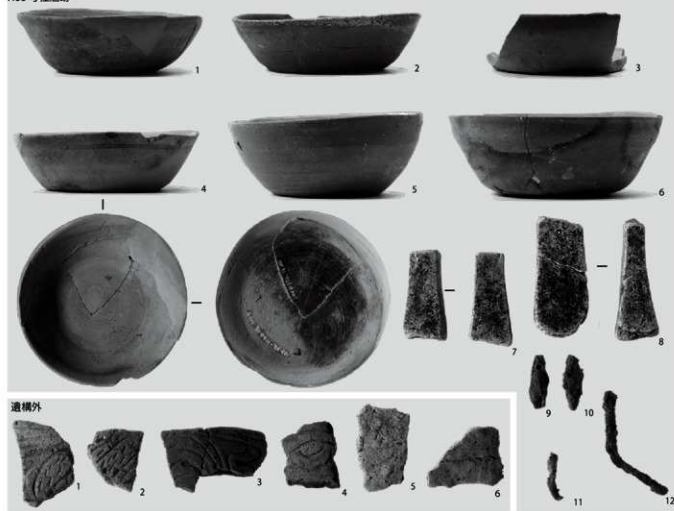
## H65 号住居跡



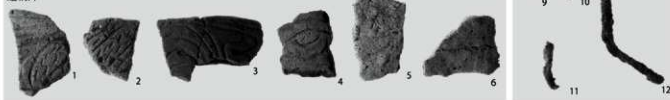
## H67 号住居跡



## H66 号住居跡



## 遺構外





滝遺跡第 17 地点全景



滝遺跡第 17 地点 H23・25 号住居跡全景 (東から)



滝遺跡第 17 地点 H23・25 号住居跡全景 (南から)



滝遺跡第 17 地点遺物出土状況



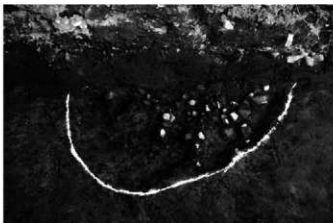
滝遺跡第 17 地点 H25 号住居跡遺物出土状況



滝遺跡第 17 地点 H26 号住居跡遺物出土状況



滝遺跡第 17 地点 H27 号住居跡全景



滝遺跡第 17 地点集石土坑 1



滝遺跡第 17 地点井戸 1



滝遺跡第 17 地点土坑 1



滝遺跡第 17 地点土坑 2・P20



滝遺跡第 17 地点土坑 3



滝遺跡第 17 地点溝 1



滝遺跡第 17 地点出土遺物

25 号住居跡



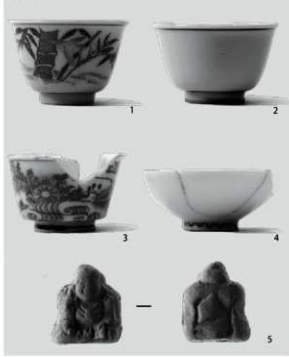
26 号住居跡



27 号住居跡



土坑 3



遺構外



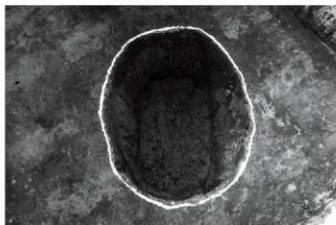
滝遺跡第 17 地点出土遺物



松山遺跡第 51 地点全景



松山遺跡第 52 地点全景



松山遺跡第 52 地点落とし穴



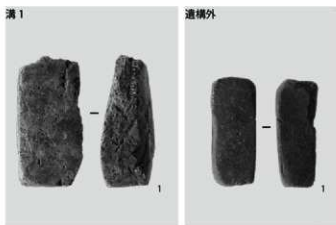
松山遺跡第 52 地点溝



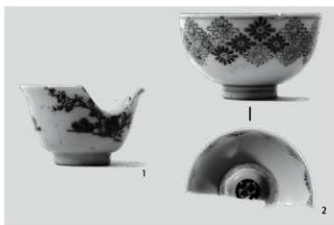
松山遺跡第 53 地点全景



松山遺跡第 53 地点穴蔵

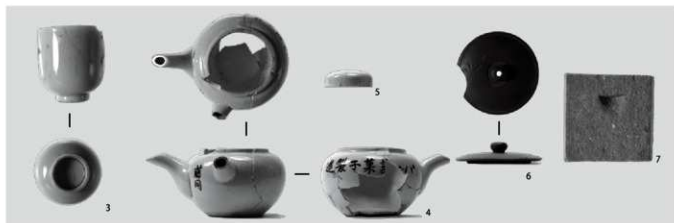


松山遺跡第 52 地点出土遺物



松山遺跡第 53 地点遺構外出土遺物





松山遺跡第 53 地点遺構外出土遺物



松山遺跡第 55 地点 H40 号住居跡



松山遺跡第 55 地点 H40 号住居跡掘方



松山遺跡第 55 地点 H40 号住居跡竈



松山遺跡第 55 地点掘立柱建物跡



松山遺跡第 55 地点掘立柱建物跡ビット 1 遺物出土状況

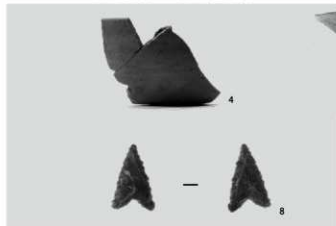
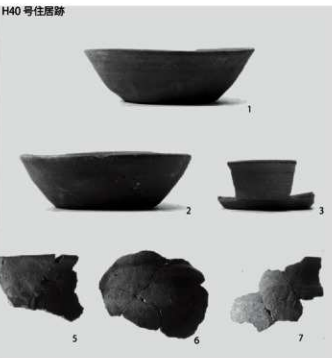


松山遺跡第 55 地点 H40 号住居跡土坑 1



松山遺跡第 55 地点調査風景

H40号住居跡



土坑 1



松山遺跡 55 地点出土遺物



東久保遺跡第 69 地点



駒林遺跡第 11 地点トレンチ 2



駒林遺跡第 11 地点トレンチ 3



駒林遺跡第 12 地点溝 1





駒林遺跡第 13 地点全景



駒林遺跡第 13 地点ビット群



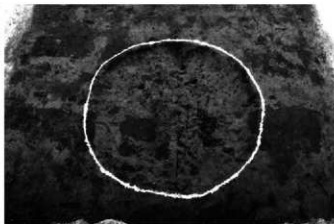
駒林遺跡第 13 地点土坑 1



駒林遺跡第 13 地点土坑 2



駒林遺跡第 14 地点全景



駒林遺跡第 14 地点土坑 1



駒林遺跡第 15 地点土坑 1



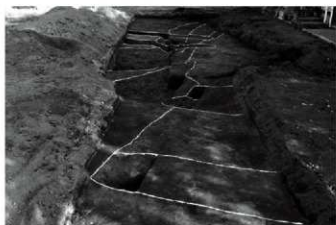
駒林遺跡第 15 地点調査風景



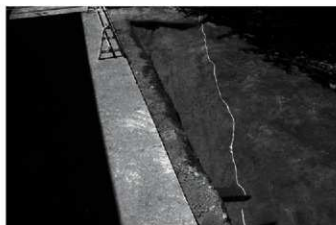
東中学校西遺跡第 34 地点



東久保南遺跡第 38 地点



西ノ原遺跡第 145 地点溝 1・2・4



西ノ原遺跡第 145 地点溝 3



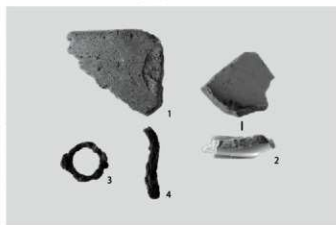
西ノ原遺跡第 145 地点溝 5



西ノ原遺跡第 146 地点



西ノ原遺跡第 146 地点溝



西ノ原遺跡第 146 地点出土遺物



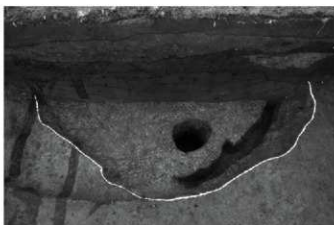
西ノ原遺跡第 147 地点中央部全景



西ノ原遺跡第 147 地点南側全景



西ノ原遺跡第 147 地点 172 号住居跡全景



西ノ原遺跡第 147 地点 172 号住居跡土層



西ノ原遺跡第 147 地点 172 号住居跡炉



西ノ原遺跡第 147 地点集石土坑 2(ビット 37)

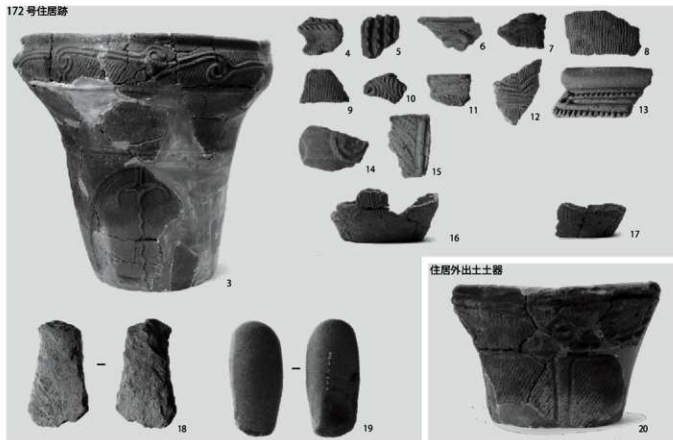


西ノ原遺跡第 147 地点集石土坑 1



西ノ原遺跡第 147 地点 172 号住居跡出土遺物

172 号住居跡



住居外出土土器



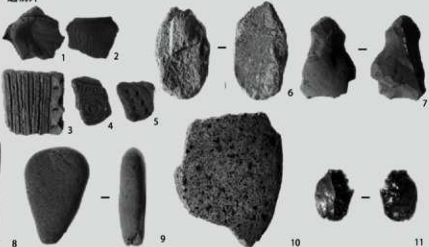
集石土坑 1



土坑 1



遺構外



P50



西ノ原遺跡第 147 地点出土遺物



西ノ原遺跡第 148 地点全景中央



西ノ原遺跡第 148 地点全景南



西ノ原遺跡第 148 地点 75 号住居跡



西ノ原遺跡第 147・148 地点溝 1・2



西ノ原遺跡第 148 地点土坑 1

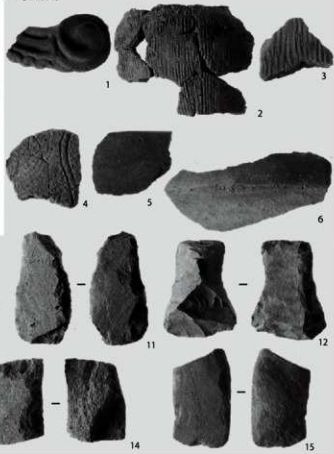


西ノ原遺跡第 148 地点土坑 3



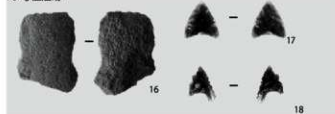
西ノ原遺跡第 148 地点土坑 4

## 75 号住居跡



西ノ原遺跡第 148 地点 75 号住居跡出土遺物

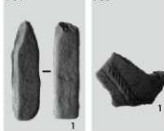
75 号住居跡



P51



P61



P68



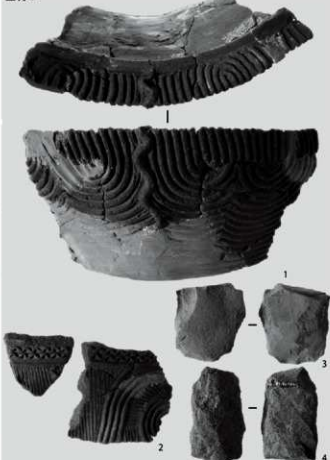
P71



遺構外



土坑 4



西ノ原遺跡第 148 地点 75 号住居跡、土坑 4、P51、P61、P68、P71、遺構外出土遺物



西ノ原遺跡第 149 地点



神明後遺跡第 42 地点



神明後遺跡第 43 地点全景



神明後遺跡第 43 地点ビット



浄禪寺跡遺跡第33地点



小田久保遺跡第9地点



本村遺跡第123地点トレンチ3完掘



本村遺跡第124地点トレンチ2土坑プラン



本村遺跡第124地点トレンチ2北壁



本村遺跡第125地点



本村遺跡第126地点



本村遺跡第127地点



## 報告書抄録

書名	市内遺跡群 10				シリーズ名	ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第 11 集			
編集者	高崎直成				著者	笹森健一・高崎直成			
編集機関	ふじみ野市教育委員会				所在地	〒 356-8501 ふじみ野市福岡一丁目 1 番 1 号 TEL 049 (261) 2611			
発行日	2014 年 (平成 26 年) 3 月 25 日								
所収遺跡地点名	所在地	市町村コード	北緯	調査開始	調査前	調査原因			
		遺跡コード	東経	調査終了	ni	調査担当者			
種別 // 主な時代・主な遺構・主な遺物 特記事項									
かわさき 川崎遺跡第 32 地点	埼玉県ふじみ野市川崎字宮脇	112453	35° 51' 05"	20110224	163	個人住宅建設			
	140の一部	25-003	139° 31' 31"	20110325		越村篤			
集落跡 // 奈良・平安時代 / 住居跡 3 軒、土坑 3 基・土師器、須恵器 本遺跡の西部、氷川神社の西隣に位置し、古代集落の中では比較的住居の集中する区域である。H65 号住居跡では東壁際中央に階段状の硬化面を確認した。住居の構造を検討する上で貴重な発見となった。									
たき 滝遺跡第 17 地点	埼玉県ふじみ野市滝 3 丁目	112453	35° 52' 49"	20100506	197	分譲住宅建設			
	3-6,3-144	25-008	139° 31' 47"	20100618		越村篤			
集落跡 // 奈良・平安時代 / 住居跡 5 軒、井戸 1 基、土坑 4 基、溝 1 条、集石土坑 1・縄文土器、奈良・平安時代須恵器・土師器 縄文時代の包含層の上に、奈良平安時代住居跡を確認。新河岸川の微高地上で古代から現在まで土地利用が継続して行われていた事が判明し貴重。									
まつやま 松山遺跡第 52 地点	埼玉県ふじみ野市築地 2 丁目 2-1	112453	35° 52' 23"	20100826	322	分譲住宅建設			
		25-010	139° 31' 49"	20100903		越村篤			
集落跡 // 時期不明・溝 1 条 / 縄文時代・落とし穴 1 基 集落の間に位置するため大規模な遺構は確認されなかったが、縄文時代ともし落とし穴を検出し、概期の土地利用を研究する上で貴重な発見となった。									
まつやま 松山遺跡第 53 地点	埼玉県ふじみ野市築地 3 丁目	112453	35° 52' 20"	20100910	90	個人住宅建設			
	1-11	25-010	139° 31' 45"	20100921		越村篤			
集落跡 // 近代以降の溝 4 条、穴蔵 1 基 集落の間に位置するため大規模な遺構は確認されなかったが、近現代の穴蔵を検出し、概期の土地利用を研究する上で貴重な発見となった。									
まつやま 松山遺跡第 55 地点	埼玉県ふじみ野市松山 2 丁目	112453	35° 52' 21"	20110117	226	個人住宅建設			
	4-24の一部	25-010	139° 31' 45"	20110131		高崎直成			
集落跡 // 奈良・平安時代 / 住居跡 1 軒、掘立柱建物跡 1 棟・土師器、須恵器 奈良平安時代の掘立柱建物跡は、集落の配置を知る上で貴重である。									
こまばやし 駒林遺跡第 12 地点	埼玉県ふじみ野市駒林元町 258-2	112453	35° 52' 00"	20100714	30	個人住宅建設			
		25-013	139° 31' 36"	20100714		坪田幹男			
集落跡 // 中世以降 溝 1 条 東西 300 m、南北 160 m の範囲で「コ」字型に配置すると思われる溝跡の一部を確認。遺跡の範囲と時代を知る上で貴重。									
こまばやし 駒林遺跡第 13 地点	埼玉県ふじみ野市新駒林 3 丁目	112453	35° 52' 12"	20100727	96	共同住宅建設			
	722-1,3,4	25-013	139° 31' 35"	20100729		越村篤			
集落跡 // 近世 土坑 2 基、ビット 11 基・縄文土器、近世丸瓦 遺跡の範囲を知る上で貴重。									
にしのはら 西ノ原遺跡第 145 地点	埼玉県ふじみ野市うれし野 2 丁目 4-1-10	112453	35° 51' 23"	20100723	564	農協事務所・農産物直売所			
		30-001	139° 31' 19"	20100825		高崎直成			
集落跡 // 近世以降の溝 5 条 縄文時代中期環状集落の南部にあたり、集落の範囲を見極める上で貴重である。									



所収遺跡地点名	所在地	市町村コード	北緯	調査開始	調査面積	調査原因
	種別 // 主な時代・主な遺構・主な遺物	遺跡コード	東経	調査終了	m	調査担当者
にしのはら 西ノ原遺跡第147地点	埼玉県ふじみ野市旭1丁目16-8 の一部	112453 30-001	35° 51' 21" 139° 31' 07"	20101208 20110119	135	個人住宅建設 越村篤
	集落跡 // 縄文時代中期住居跡1軒、集石土坑2基、ピット39基、近世以降溝2条・縄文土器、石器					
	縄文時代中期環状集落の中央部にあたり、集落構成を見極める上で貴重である。					
にしのはら 西ノ原遺跡第148地点	埼玉県ふじみ野市旭1丁目16-8 の一部	112453 30-001	35° 51' 21" 139° 31' 07"	20110119 20110201	211	個人住宅建設 越村篤
	集落跡 // 縄文時代中期住居跡1軒、土坑4基、ピット31基 / 近世以降溝2条・縄文土器、石器					
	縄文時代中期環状集落の中央部にあたり、集落構成を見極める上で貴重である。					
にしのはら 西ノ原遺跡第149地点	埼玉県ふじみ野市うれし野2丁目4-7	112453 30-001	35° 51' 24" 139° 31' 19"	20110207 20110210	114	農協事務所・農産物直売所 高崎直成
	集落跡 // 近世以降 / 溝2条					
	縄文時代中期環状集落の南部にあたり、集落の範囲を見極める上で貴重である。					
しんめいろうし 神明後遺跡第43地点	埼玉県ふじみ野市苗間292-14	112453 30-041	35° 51' 36" 139° 31' 19"	20101020 20101022	42	個人住宅建設 高崎直成
	集落跡 // 近世以降ピット7基・縄文土器、近世陶磁器					
	41地点で検出した屋敷地の西側外に位置するが、中世に係わる遺構の発見はなく、中近世の集落配置を知る上で貴重。					
ほむら 本村遺跡第124地点	埼玉県ふじみ野市市沢2丁目6-1	112453 30-034	35° 51' 11" 139° 31' 23"	20100708 20100712	80	宅地造成 坪田幹男
	集落跡 // 中世以降 / 土坑1基					
	土取り後に盛土される。土坑は井戸の可能性もある。中近世の集落配置を知る上で貴重。					

---

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第11集

埼玉県ふじみ野市 市内遺跡群 10

2014年3月20日印刷

2014年3月31日発行

発行 ふじみ野市教育委員会

〒356-8555 埼玉県ふじみ野市福岡1丁目1番1号

TEL 049-220-2088

FAX 049-266-6271

印刷 関東図書株式会社

---

